

平成29年度

<b>科目名</b>	日本文化史	<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	佐藤 愛未		
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	日本社会の移り変わりに影響を受け、様々な発展を遂げた日本文化について近世を中心に検証を行う。社会と文化の関わりから、その特質・独自性を考えてみる。 授業テーマは、「江戸～明治時代の政治・社会と文化」である。徳川幕府成立から明治新政府の行った政策などとの関わりからどのように日本の文化が形成されていったのかを紹介する。		
<b>達成目標</b>	現代に通じる日本文化形成の理解を深め、日本史や現代社会における視野を広げる。		
<b>受講資格</b>	文化学科1年生	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート30点 ②期末試験70点
<b>教科書</b>	プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	尾藤正英『日本文化の歴史』岩波新書、2000年 青木美智男『近世庶民文化史 日本文化の原型』小学館、2009年 ほか適宜指示する		
<b>学生への要望</b>	問題や目的意識を持って受講すること。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅳ時間目。創学館4階、No.4研究室		
<b>自学自習</b>	事前学修：提示されている参考書及び興味を持った事柄に関する文献などを読む。(1時間) 事後学修：授業内容の復習。(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	南蛮文化の伝来と安土桃山文化	15世紀に始まった「大航海時代」の波は天文12年(1543)ポルトガル人の種子島上陸により、日本にも押し寄せた。渡来したポルトガル人・スペイン人をお南蛮人とよび彼らがもたらした南蛮文化と呼ばれる。その当時の日本文化とされる安土桃山文化との関わりを検討する。
2	寛永文化と「鎖国」	徳川家康は慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いに勝利し、同8年に征夷大将軍就任、江戸幕府を開いた。その頃の17世紀前半の文化を寛永文化とよぶ。サロンの文化と呼ばれ茶の湯や和歌が中心となった寛永文化と幕府の「鎖国」政策との関係を考える。
3	文治政治への転換と文化	江戸幕府4代目将軍家綱の治政の後半にあたる寛文期は武断政治から文治政治へと転換した時期である。この時期は文化の面でも同じく転換期とされており仏教・学問など様々な変容が見られる。そこから、文治政治と文化の関わりを検討する。
4	「浮世」の元禄文化と町人	17世紀末から18世紀のはじめにかけての元禄の頃は、上方を中心に都市がにぎわい、文化が栄えた時代である。そのため、元禄文化は「浮世」という言葉で代表され、独特の民衆文化が芽生え始めた時代とされている。一方で、身分制社会の文化としての特徴を持っていた文化でもある。この文化を理解するために時代背景と合わせて文化を考える。
5	松尾芭蕉と俳諧	元禄文化では武士階級出身の担い手も多く、『奥の細道』で知られる松尾芭蕉もその一人であり、俳諧で蕉風を確立させる。福島県内にも立ち寄りいくつかの俳句を残している。また、芭蕉の旅は地方の門人によって支えられていた。そこで、芭蕉が福島県での旅で出会った相楽等躬をはじめとする人々との関わりなどを検討する。
6	実学の発展と『会津農書』	元禄時代には諸産業の発達にともない、実学が発展する。実学とは、人々の日々の生活に実際に役立つ学問、実際の見聞にもとづく学問のことである。それは、本草学・和算・医学・農学など様々である。農学では、会津藩の村役人である佐瀬与次右衛門が記した『会津農書』が著名である。そこで、生活を豊かにする実学を中心に当時の庶民の生活を考える。
7	宝暦・天明文化と洋学	宝暦・天明期になると学問世界にも新しい動きが現れてくる。その中でも、西洋学術の研究が本格的にはじまり、洋学が大いに発展することになった。なかでも、医学や天文暦学などが中心となり、研究が進められ多くの分野にわたり特異な能力を発揮する人々があらわれた。この時代に活躍した伊能忠敬や平賀源内などを通して文化を考える。
8	亜欧堂田善と洋風画	須賀川で生まれた永田善吉(後の亜欧堂田善)は、白河藩主松平定信との出会いから、洋風画家の谷文晁や銅版画家の司馬江漢の弟子となり技術を学び、数々の作品を生み出した。江戸で活躍し、晩年に郷里へ戻った亜欧堂田善の生涯を検証していく。
9	町人の文化「化政文化」	江戸時代後期になると文化の中心が江戸に移っていく。この時期の文化は化政文化と称される。浮世絵や遠方の寺社や名所への旅も盛んに行われるようになった。「いき」と遊興から、当時の町人の生活を考える。
10	学問の発展と諸藩教育	江戸時代では、幕府・藩による学問の奨励や経済の変化により、武士・庶民を問わず教育が普及した。そこで諸藩には、主に藩士の子弟教育を行う機関として藩が運営した藩校が数多く誕生する。会津藩の「日新館」など福島のなかにも藩校を創設した藩がいくつかあった。そこで、福島にあった藩校教育から、藩の教育について探る。
11	伝統工芸品と諸藩	現在、「伝統工芸品」が全国各地で生産されているが、その中には美術工芸品として重要文化財・重要有形民俗文化財に登録されているものもみられる。この工芸品は江戸時代に藩の政策により奨励された例もいくつかある。このことについて工芸品と藩政策の関係を検討する。
12	洋学と留学生	開国後、欧米の国々との交流を行って、欧米の文化や学術を取り入れて近代化を目指そうとした。そのため、幕府及び諸藩は、文化・学術を学ぶために国内外へ留学生を派遣した。それらの留学がそのようなものだったのかを探る。
13	文明開化と「和魂洋才」	明治初期、欧米の文物・制度を取り入れ日本の近代化を図ることが国家目標になった。文明開化の風潮がひろまり、政府主導で積極的な西洋文化の導入が図られ急激な西洋化が図られたが、日本の伝統を見直そうという反動の動きも起こり「和魂洋才」という言葉もよく使われた。文明開化と「和魂洋才」について考える。
14	万博とジャポニスム	日本は慶応3(1867)年に初めて万国博覧会(パリ万博)へ出品参加をする。また、明治6(1873)年のウィーン万博にも参加する。それをきっかけに、日本美術(浮世絵、琳派、工芸品など)が注目され、西洋の作家たちに大きな影響を与えた。日本の万博参加と西洋で広まったジャポニスムについて考える。
15	明治政府とお雇い外国人	日本には幕末から明治にかけて、「殖産興業」などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人であるお雇い外国人を官庁や学校に招聘した。そのなかで東京の宮内省の顧問になり、ヨーロッパの宮廷儀式を導入したドイツ人外交官のオットマル・フォン・モールという人物がいる。そこで、オットマル・フォン・モールを中心にお雇い外国人について探る。

平成29年度

<b>科目名</b>	国際文化史		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	桑野 聡			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	<p>【授業内容の概要】 現代文明の共通要素として大きな意味をもつヨーロッパ文化（欧米文化）の形成と近代化について、古代・中世～近現代にいたる過程を概観します。また歴史を大学の学問として学ぶ際の一つの切り口として歴史観に着目し、19世紀の歴史学（旧説＝ヨーロッパ中心史観）と20世紀以降の新しい歴史学（新説の一例＝文明論的歴史観）を紹介することで、同じ事実が異なった解釈を生むことで歴史像が作り上げられ、変容することを学びます。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【授業の目標・ねらい】 大学で歴史学を学ぶ基本姿勢を整え、現在の日本が直面する歴史問題や周辺諸国との関係、国際社会における役割などを正しく考える基本姿勢を育む。 【授業時の達成課題】 レポートの課題に対して、歴史学の知識を用いて論理的な文章を書くことが出来る。</p>			
<b>受講資格</b>	文化学科学生・一般聴講生	<b>成績評価 方法</b>	授業の2/3以上の出席を前提条件として、期末レポート（1回100%）で評価	
<b>教科書</b>	特に使用しない。WLRにパワーポイント資料を掲載。授業時に配布資料あり。			
<b>参考書</b>	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説1 古代・中世篇』DTP出版 2006年 桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説2 近現代篇』DTP出版 2006年			
<b>学生への要望</b>	①地図を見る姿勢、②新聞・ニュースを見る姿勢、③高校世界史の基礎知識の確認を期待する。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜・水曜 Ⅱ時限目（10:30～12:00） 考古学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習： 授業資料（パワーポイント）を参照して打ち出し、必要に応じて高校「世界史」の教科書を読みこんでくる（1時間） 事後学習： 高校時代に使用していた歴史資料集を細目に参照して授業内容を確認する（1時間）			

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。
2	歴史館と時代区分	大学で歴史学として歴史を学ぶための一つの切り口として「歴史観」の問題を取り上げる。19世紀に確立し、現在も暗黙の了解として一般的な歴史理解の基盤となっている「ヨーロッパ中心史観」と20世紀以降にこれを批判する立場から生まれた「文明論的歴史観」について解説する。
3	古代世界①	ギリシア・ローマをオリエント世界と共に古代地中海世界という独自の文明世界として考える立場を紹介する。
4	古代世界②	ケルト・ゲルマンを中心に古代地中海世界の周辺民族文明について紹介し、ローマの滅亡が単純な「蛮族の侵入」として理解されるべきではないことを解説する。
5	古代世界③	古代末期（4～7世紀頃）に地中海世界が分裂していく過程を概観し、H. ビレンヌやH. オバンのテーゼなどを例に発想の転換の重要性を確認する。
6	中世世界① 前期中世（カロリング・ルネサンス）	前期中世（7～10世紀頃）の西方世界がヨーロッパとして分離・形成されてくる上で重要なカロリング朝フランク王国の役割について解説する。
7	中世世界② 盛期中世（12世紀ルネサンス）	盛期中世（11～13世紀頃）にキリスト教世界として確立するヨーロッパ文明圏の形成を概観し、この時期にヨーロッパが古代文明やビザンツ・イスラム世界などから継受した多様な文化を融合させながら独自の文化を確立した「12世紀ルネサンス」について解説する。
8	中世後期③ 後期中世（ルネサンス時代）	後期中世（14～16世紀頃）のヨーロッパが封建制の危機の中で新しい価値観（人文主義）を手掛かりに、ルネサンスや宗教改革、大航海時代などに象徴される歴史の転換点に立ったことを解説する。
9	近世① 絶対主義時代	近世（16～18世紀頃）を特徴づける絶対主義の構造を解説し、宗教戦争や重商主義政策などがヨーロッパ文明の世界への拡大と不可分に結びついていたことを確認する。
10	近世② 啓蒙主義と市民革命	近世（16～18世紀頃）に顕著となる12世紀以来の個人主義・現実主義などがさまざまな形でヨーロッパ文明を特徴づけ、近代のヨーロッパ社会の形成へと繋がることを解説する。
11	近代① ヨーロッパの世紀	19世紀のヨーロッパの変容を概観します。前半のウィーン体制の崩壊による近代市民社会の形成、後半のビスマルク体制の崩壊による世界大戦への疾走の歴史を解説する。
12	近代② 産業革命と帝国主義	ヨーロッパの経済発展が民主的な近代市民社会の発展に大きな貢献を果たす一方で、帝国主義による世界支配を作り上げていったメカニズムを解説する。
13	近代③ 二つの世界大戦とファシズム	列強の帝国主義政策が招いた二度の世界大戦の中で台頭した共産主義とファシズムという二つの亡霊の中で、まずファシズムのもつ現代的危険性について解説する。
14	近代④ 社会主義・共産主義と20世紀	19世紀ヨーロッパで生まれたマルクス主義は、第一次大戦末期のロシア革命で最初の社会主義国家建設に成功し、第二次大戦後は東西冷戦の構造を作り出した。社会主義・共産主義を単なる遺物としてではなく、私たちの未来像との関係で捉え直したい。
15	まとめ 現代ヨーロッパの課題	イギリスの離脱で揺れる統合ヨーロッパの歴史を概観し、EUが抱える今日的課題と私たちの関係を考えたい。

平成29年度

<b>科目名</b>	美学		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	斎藤 美保子			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目的・ねらい】 美学の問題に関心を抱き、調べ、考える力を身につける。</p> <p>【授業内容の概要】 「女性像に見るファッション」というテーマで、古代から現代までのファッションの移り変わりを概観する。特に19世紀前半の古典主義から20世紀に注目する。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①各作品から時代によって異なる服飾情報と美学を読み解く力を身につける ②各時代の様式的理解を深める ③多様な美学に関心を抱き、「美しい私を創る」指針を持つ</p>			
<b>受講資格</b>	文化学科2年生、単位互換生、生涯学習生	<b>成績評価 方法</b>	授業内で指示するレポートと発表（40点）期末試験期間中の記述式試験（60点） 60点以上で合格だが、目標は80点以上	
<b>教科書</b>	必要に応じて拙論の抜き刷り、コピーを配付する。授業支援システムに資料を添付する。			
<b>参考書</b>	高階秀爾監修『西洋美術史』美術出版社			
<b>学生への要望</b>	授業内で紹介する美術館や展示を積極的に鑑賞すること。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日V 木曜日V No5研究室			
<b>自学自習</b>	<p>予習：授業で扱う作品について、参考書等で調べておくこと。（1時間） 復習：授業支援システムに添付したパワーポイントの資料を確認し、ノートを整理する。（1時間） 授業内で指示する参考文献を図書館等で探し、精読すること。（随時）</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	教員の自己紹介と授業の進め方、成績評価について説明する。 今期の主題「女性像に見るファッション」とは何かを紹介する。西洋美術様式史の復習をしながら古代から中世までのファッションを概観する。
2	ルネサンス様式	ラファエロの肖像画を中心に、15・16世紀の女性ファッションを素材、スタイル、意匠の点から理解する。大学図書館収蔵の美術書について紹介し、参考文献を指示する。
3	バロック様式	各様式の「花の女神フローラ」を比較し、バロックの美学を検討する。 美術館案内：郡山市立美術館
4	ロココ様式	女性画家ヴィジェ・ルブランが描いた、マリー・アントワネットを初めとする女性肖像画から、18世紀のフランス・ファッションを理解する。
5	皇帝様式	アングルが描いた貴婦人の肖像画から、19世紀初めの皇帝様式のファッションを読み取る。 参考文献：斎藤美保子著「アングルの肖像画に見る第一帝政期の服飾」
6	ロマン主義の男性像	アングルとドラクロワの肖像画から、古典主義とロマン主義の特徴を読み取る。 斎藤美保子著「アングルとドラクロワによるパガニーニ像」
7	ロマン主義の女性像	アングルとドラクロワの肖像画から、古典主義とロマン主義の特徴を読み取る。 斎藤美保子著「アングルとドラクロワによるカヴェエ夫人像」
8	第2ロココ様式	アングルの貴婦人の肖像画から、19世紀半ばのファッションと女性の理想美の推移を読み取る。 参考文献：斎藤美保子著「アングルの女性肖像画に見る黒衣」
9	印象派	ルノワール、ベルト・モリゾ等、印象派の画家の人物像から、19世紀末のファッションを読み取る。
10	ジャポニスム	万国博覧会の開催を辿り、日本の美術が欧米の生活芸術、服飾に与えた影響を理解する。
11	ポスト印象派	スーラ等、ポスト印象派の作品から日本の鹿鳴館様式に影響したパッサル・スタイルを読み取り、東西の美学の融合を理解する。
12	アール・ヌーヴォー	ミュシャがポスターで表現した19世紀末の女性像を分析する。 西洋美術におけるジャポニスムとアール・ヌーヴォーを理解する。
13	アール・デコ	ファッション・プレートの歴史を概観し、ジャズエイジと呼ばれた1925年前後のファッションを読み取る。
14	ダリ	斎藤美保子著「アングルとダリ 香りの視覚化」
15	20世紀後半	学内のブロンズ像のひとつ「今、わたし」を分析し、20世紀後半の女性観を理解する。 今期のまとめをする。

科目名	民俗学Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
担当教員	野沢 謙治			
開講期	Ⅰ			
授業概要	日本人の伝統的な暮らしぶり、つまり民俗は変化し無くなっているのが現状である。なぜ変化したのかを考えると同時に変化しないで残っている民俗から「日本人らしさ」を明らかにする。具体的には日本人の誕生から死に至る過程の折り返しに行われてきた人生儀礼をとりあげ、日本人がどのように一生を送り、その間、どのように考え、行動したかを明らかにする。日本人の伝統的な暮らしぶりから「日本人らしさ」を理解するとともにグローバル化する世界の中での日本の文化の将来を考えることができるようにする。			
達成目標	「日本人らしさ」を知るためにはいろいろな方法があるが、授業では人生儀礼を基調に、そこから発生する枝葉の民俗をからませながら民俗の総体を明らかにする。この民俗の総体を知ることによって「日本人らしさ」の真髄に迫ることが可能になる。			
受講資格	文化学科1年生	成績評価 方法	6回目の授業が終わった時点と授業が終了した時点でレポートを提出してもらいまい。各50点、合わせて100点で評価する。	
教科書	使用しません。必要に応じ民俗資料を配布する。			
参考書	『図解日本の民俗』（吉川弘文館 2012年）『知って役立つ民俗学』（ミネルバ書房 2015年）			
学生への要望	あなたの身近で起きている社会問題や暮らしの中の疑問に常に関心を向け、その問題が民俗学的に解説、説明できるかを考えて欲しい。			
オフィスタイム	金曜日のⅡコマ目、創学館4階No.5研究室、予約は必要ありません。			
自学自習	参考書はシラバスの内容にあわせて読んでおくこと。授業の内容については日々の生活と比べてみる習慣を身に付けること。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	民俗学とは何か	民俗学の歴史をたどりながら、民俗とは何か、民俗学の目的、民俗学の方法論、民俗学の資料論、歴史学との相違、そして民俗学が現代社会の中でどのような役割を果たせるかを考えます。
2	誕生の民俗	自宅分娩から施設分娩へ変化する中で新しい生命の誕生にともなう神秘性や聖性が失われてしまいました。かつての出産は稲の誕生と密接に関係し、誕生空間は母胎空間とみなされていました。
3	不可思議な子どもたち	「七歳までは神の内」といわれるように七歳までは子どもは神の管轄にあり、この世の存在とはみなされてはいませんでした。また子どもの遊びには不可思議さがあり、子どもの葬式は大人とは全く違っていました。子どもの異界性を考えます。
4	子どもから大人へ	子どもから大人への移行の際に成人式がとり行われました。伝統的な成人式をみると一人前の仕事ができるかどうかという試練を伴うことがみられますが、その基底には死と再生という象徴性がみられました。
5	結婚と家族	日本における結婚の歴史は婿入り婚から嫁入り婚へと変わりました。また東日本の親決め婚と西日本の若者宿を介した自由な恋愛と結婚のように地域差がありました。また家族にも多様性が見られ、血縁関係が家族を規定するものでないことを明らかにします。
6	暮らしの空間	家族が住む民家の歴史的成立を考えます。殊に民家の間取りの持つ機能性と聖性を明らかにします。また民家が集まるムラ空間のあり方をムラ境での祭りで考えます。
7	時間の民俗1	夜に入る一歩手前の夕暮れは不安な時間帯でありました。それは夕暮れの後からやってくる夜が神や妖怪が活動する異質な時間であったからです。昼も1日、夜も1日という時間感覚を明らかにします。
8	時間の民俗2	日本人の時間感覚として円環性と逆転性がありました。正月には全てが再生し新しい時間がはじまります。また祭りや行事においては日常の時間が意味をうしない非日常性におおわれますが、非日常性の中で生きる意味が確かめられるのです。
9	身体と病気の民俗	身体は生物学的に解釈されるだけでなく文化的にも解釈されます。身体はものを考える際の規準になる文化的存在でもあるのです。また身体のケガれた状態は病気とみなされ、その原因として神の罰や呪術的理由が考えられていました。近代以前の病氣観を考えます。
10	女の民俗・ケガレの発生	日本では女性はケガれた存在として祭りなどの聖なる場から厳しく排除されていました。このような女性に対するケガレが歴史的にどのように男性の側から意図的に作られてきたかを考えます。
11	女の民俗・オナリ信仰	沖縄では女の姉妹（オナリ）が男の兄弟に対して霊的に優位である信仰、オナリ信仰が発達しています。オナリ信仰の原始性を明らかにするとともに、本土の女性を排除した男の祭りが実は女性の霊力によって支えられていたことを考えます。
12	老いの聖性と負性	「年寄りの言うことは間違いない」、米寿の祝い、神が翁の姿をとるなど老いは価値があり、聖性も認められます。一方、ウバステ山伝承のように年寄りには役に立たない存在でもありました。老いの両義性を考えます。
13	死の民俗	葬式という儀礼から何をもって死を決定するのかを考えます。殊に肉体、骨、靈魂の関係の中で考えます。また死後に行われる日本独特の先祖化の過程、先祖供養と生者の関係を考えます。
14	他界の民俗	日本人の最も古い他界観は山上、山中他界観といわれています。一方、沖縄には海上、海中他界観が今も存在しています。この2つの他界観は歴史の中で仏教の他界観と習合します。他界観を通して死と生の関係を考えます。
15	神と妖怪の民俗	日本人の神信仰の特質は多神教と言われますが、その意味は多くの神々を祀るのではなく神の多様な変身にあるのです。また妖怪は神の没落した姿ではなく神の二面性のマイナスの面が現れたものです。

科目名	民俗学Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
担当教員	野沢 謙治			
開講期	Ⅲ			
授業概要	岩手県遠野地方の伝説、昔話、祭りなどをリアルに記した柳田国男の『遠野物語』を読みながら神話的思考にふれることとする。神話的思考とは現実のもの考え方にとらわれず文化の古層を明らかにすることである。『遠野物語』の不可思議な物語は原古の心意に遡り、しかも絶えず時代を越えてくりかえしあらわれる心性でもある。それはまた東北の古い文化の古層に我々を誘います。			
達成目標	『遠野物語』が我々の心性に訴えかけてくるのは神秘、恐れ、不安、喜びという感情と共感するだけでなく歴史や文化のヴェールをはぎとった時にあらわれる歴史の古層であり、自然で自由に創造的な原古性である。歴史や文化が創られるまえの心性にふれることができる。			
受講資格	文化学科2年	成績評価 方法	『遠野物語』をヒントに不可思議な物語を創造してもらいレポートとして提出してもらう。100点満点とする。	
教科書	『新版 遠野物語』（角川ソフィア文庫）教科書販売所で購入してください。			
参考書	必要に応じ指示します。			
学生への要望	あらかじめ教科書をよく読み、物語の不可思議さはどこからきているのかを自分なりに考えて授業に臨んで下さい。			
オフィスタイム	金曜日Ⅱコマ目 創学館4階No.5研究室 予約はいりません。いつでも来てください。			
自学自習	『遠野物語』をよく読んでおくこと。文体が慣れないかもしれないのでくりかえし読んでおくこと。物語の解説に不明なところがあったらまとめておき質問すること。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	遠野物語の誕生	『遠野物語』は遠野出身の文学者佐々木喜善の話をもとに柳田国男がそのまま書き記したものとされています。しかし、文章は洗練され文学的香りがします。しかし、そこには当時の文学の影響はありません。重要なことは不可思議な物語への柳田国男の神秘的共感であり、文化の異質性への関心でした。
2	遠野の神話	『遠野物語』の第1話と2話は遠野のはじまりの物語であり、神話にあたります。その中の鮭の物語はもしかすると縄文時代まで遡れる可能性があります。神のはじまりの物語は山と山神であり、これも縄文の世界と関係するかもしれません。
3	山人の伝承	遠野の山々には山人が住んでいました。柳田国男は山人を先住民族と想定しますが、この想定は後に破綻します。むしろ山人は里人の幻想と山の異界性に関係するかもしれません。
4	山神の伝承	遠野の山神は恐ろしい神であり、山神との遭遇は不幸な結果をもたらしました。このような山神は里の神や稲の神ではなく、おそらくそれ以前の狩猟民の神であり、それは山神信仰の原型と考えられます。
5	狼の伝承	遠野では狼は暮らしのすぐそばにいました。しかも狼は暮らしの中に絶えず侵入し人々に害をあたえてきました。しかし、その関係は緊張をはらみながらも畏怖の感覚をふくむ共生の関係でもありました。
6	河童の伝承	遠野の河童には畏怖の感覚は残っていますが、不倫の秘密を隠すために利用されたり、見世物としての河童になっています。この背景には遠野が経済的価値に重きを置く社会に変っていたことを示すものかもしれません。
7	ザシキワラシの伝承	ザシキワラシは家の幸、不幸と密接に関わっていました。ザシキワラシの住む奥ザシキは異界につながっていました。しかもその異界は水界でした。異界としての水界の霊異が具体化する時、必ず子ども、ワラシの姿をとるのでした。
8	オシラサマ	オシラサマは本来、神がよりつく木の棒に由来するといわれます。そこに馬と娘が結婚する馬娘婚姻譚が結びつき、木の棒に馬や人の顔が彫られることになりました。さらに馬娘婚姻譚は養蚕の起源ともかかわりますが、古く遡りますと馬の供犠も関係していたようです。
9	コンセサマ	コンセサマは縁結び、子授け、安産など結婚や生殖にかかわる神であり、神体は男根、つまり性神です。しかもコンセサマの性は男女の性的結合によるのではなく狩猟民の男根崇拜に関係していたようです。
10	水の伝承	遠野盆地には周囲の山々から多くの川が流れこみ、それらの川の流れにまつわって不可思議な物語が生まれています。また大地から湧き出す清水には病気に効く流行（はやり）神信仰が産まれました。水の神秘性や象徴性を考えます。
11	死の伝承	遠野では年寄りや捨てられるウバステ山と墓地がセットとして存在します。これは老いから死への過程が視覚化されていることであり、死はいつも身近にあったのです。
12	小鳥前世譚	遠野には小鳥の物語、殊に小鳥の鳴き声の人々に物語を創造させてきました。しかも、その物語では小鳥の前世が人であったというのです。つまり生まれ変わりや魂の入れ替わりという考えがみられます。
13	キツネの伝承	遠野でもキツネは人に化け、人をだまします。しかし、キツネの伝承で注意したいのはキツネが死者の魂をあやつることです。そこにキツネを信仰の対象として変化させた民間信仰者の存在を考えなくてはなりません。
14	他界の伝承	遠野では死者が寺に行くという物語が多く語られています。しかもそのような寺には死者の絵や写真が納められています。しかも寺の他界伝承には臨死体験がともなっています。それでは寺、つまり仏教以前の他界観はどのようなものだったのでしょうか。
15	安倍貞任伝承	安倍貞任は平安時代中期に存在していた歴史的な人物です。物語では遠野の山中に母親が生きていることになっています。また東北地方の各地に追われ逃げる貞任の伝承が残っています。そこには蝦夷以来の東北への差別があるようです。

科目名	考古学Ⅰ	対象 単位数 必修	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
担当教員	会田 容弘		
開講期	Ⅱ		
授業概要	考古学は物から人類の過去を明らかにする学問である。考古資料というモノからどのようにして人類の過去を明らかにするのか、考古学の基本的な考え方、方法について講義を行う。		
達成目標	＜到達目標＞考古学の基本概念、用語を理解し、考古学論文を読解するの十分な知識を得ること。		
受講資格	文化学科学生	成績評価 方法	試験結果と授業への積極的な参加度を評価し、100点を満点とする。60点以上を合格とする。考古学で卒業論文を作成する学生は、講義内容の8割以上の理解が望ましい。
教科書	浜田耕作『通論考古学』、泉拓良『考古学—その方法と現状』		
参考書	授業の中で紹介する。		
学生への要望	予習復習を行うこと。シラバスを参考にして、事前学習を行うこと講義で用いたパワーポイントは講義後、公開するので、復習で授業内容を確認すること。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。		
自学自習	予習：前回の講義内容を確認し、授業内容の参考文献を読んでおくこと。（1時間） 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	考古学とは何か	考古学的な思考の成立と簡単な研究史を述べた上で、考古学の定義と範囲について述べる。考古学のめざすものについて、考古学の現代的諸問題を説明する。
2	考古資料論（1）	考古資料については浜田耕作の定義を紹介し、遺物、遺構、遺跡について説明し、それらを分類し、その特質を説明する。考古資料の特質、考古資料の資料的価値、考古学の限界について説明する。
3	考古資料論（2）	考古資料の分類を説明し、実際の遺物を実例を示しながら説明する。
4	発掘調査の方法	分布調査、測量調査、予備調査、本調査の方法について説明し、さらに文化財保護法にある発掘調査の法的手続きについて説明する。
5	発掘調査の実例	郡山女子大学短期大学部文化学科考古学研究室で2001年から継続して行っている笹山原遺跡No.16の調査の積み重ねとその成果について、記録画像を見ながら説明する。宮城県東松島市里浜貝塚の発掘調査について調査の記録画像を見ながら説明する。
6	文化財保護法	日本では考古学と文化財は不可分の関係にある。戦後日本の考古学は埋蔵文化財保護のために莫大な予算を投入した。その法的背景にある文化財保護法について説明する。
7	層位的研究法	特殊の研究法のひとつである層位的研究法を概説する。 層位的編年の例 1) 洞窟堆積層によるフランス旧石器の編年 2) 火山灰編年学を用いた広域編年 3) 貝塚堆積層を用いた縄文土器編年
8	層位的研究法の実例	松本彦七郎博士の里浜貝塚の層位的発掘調査について、東北大学理学部に保管されていた松本資料を用いて再検討を行った。その結果松本博士は正しく層位的発掘を行っていたことが明らかになった。
9	型式学的研究法	古典的型式学。浜田耕作の型式学を説明し、O. モンテリウスや田中琢の例示した型式の組列を説明する。
10	型式学的研究法の実例	型式の考古学的意味について考える。J. ディーツとデスレフソンの「ドクロ、智天使、柳と骨壺」の論文を説明し、型式の意味を考える。型式の認定方法について様々な議論がある。ホッドソンが4人の考古学者と1人の解剖学者に留め針を分類させた結果とコンピュータを用いた分析について説明する。
11	暦年代決定の方法	暦は年代決定の物差しである。キリスト紀元をいかにさかのぼらせることができるか。エジプト王名表をもとに、民衆暦とソティス暦を繋ぎ合わせたマイヤーの研究を紹介する。
12	暦年代決定の実例	日本の先史時代の暦年代は中国の暦に頼らざるを得ない。中国と直接交渉のない時代は朝鮮半島を経由して暦年代を決定している。暦年代を決定する資料を紹介しながら、日本の暦年代について説明する。日本国内においても、暦年代を決定するためには大きな困難を伴う。文献と考古資料の間がそこにはある。文献や文字資料を用いて考古資料の相対編年に暦年代を与える問題点を検討する。
13	理化学的年代決定法（1）	理化学的年代決定法は暦とはまったく別の原理に基づいて年代を決定する方法である。地球の周期的な変化に基づく年代推定法と不安定な原子が崩壊する速度を時間の単位する方法がある。まず、地球の周期的な変化から説明する。年輪年代決定法の原理と実際の応用例について説明する。
14	理化学的年代決定法（2）	放射性炭素年代測定法の原理を説明し、その実際の測定方法、測定資料、測定例を紹介する。放射性炭素年代測定法の登場によって考古学界に起こった短期編年・長期編年論争について説明する。放射性炭素年代決定法によって明らかになった年代の実例。放射性炭素年代測定法の補正によって暦年代に置きなおされた年代とその問題点を検討する。
15	考古学と現代社会	考古学と現代社会の関係を述べ、考古学の将来を考える。

平成29年度

科目名	考古学Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	会田 容弘		
開講期	Ⅲ		
授業概要	5月に実施する実習発掘調査に向けて、様々な発掘調査の方法、実際について講義と実習を行ないながら学んでゆく。本年は5月10日から21日まで笹山原遺跡No. 16の実習発掘を実施する。受講者は発掘調査に参加しなくてはならない。発掘調査終了後は、発掘調査で出土した遺物の整理を行う。		
達成目標	<到達目標>発掘調査の全過程を理解し、実際の発掘調査を行う場合、作業の流れを理解できるレベルに到達できること。発掘調査補助作業ができること。		
受講資格	1年次において考古学Ⅰを履修しているか、考古学の基本知識を有していること。	成績評価 方法	レポートと授業への積極的な貢献状況を100点を満点として評価する。60点以上で合格とするが卒業論文を考古学で作成する学生は80%以上の理解が必要である。
教科書	『発掘調査のてびき』		
参考書	文化学科（資格課程）報告集第4～19集		
学生への要望	考古学Ⅱを受講する学生は5月に実施する笹山原遺跡No. 16の発掘調査に参加しなくてはなりません。何らかの事情で、全期間発掘調査に参加できない学生は會田に相談してください。		
オフィスタイム	火曜日3時限目・水曜日2・4時限目。メールの質問も可。レポート作成に関する質問を行う場合は事前にメールで質問内容を示してアポをとること。		
自学自習	発掘調査前は調査に関する講義が中心になるので、事前に調査がどのように行われるのかデータベース「発掘ログイン」や資格課程報告集をよく読んでおくことが事前学習である（1時間）。調査終了後は資料整理実習が中心になるので、実習内容を事前に確認しておくことが事前学習である（1時間）。発掘調査及び授業の事後学習はその時に実施した内容を整理しておくことである。実習では野帳を貸与するので、それをもとに調査日誌作成が事後学習になる。また、授業においても実習内容（発掘ログイン参照）を整理しておく必要がある。（1時間）これらは、課題レポート作成に役立つ。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	猪苗代湖の自然史	笹山原遺跡群の位置する猪苗代湖の自然史について、福島大学を中心とした研究成果を紹介する。磐梯山の火山学的研究と湿原のボーリング調査によって得られた植生史から、人類が生活できる環境の変遷を述べる。
2	笹山原遺跡群の研究史（1）	最初に笹山原遺跡群で採集された遺物は後期旧石器時代終末の細石刃核である。その後郡山女子大学考古学研究室によって、笹山原A遺跡、No. 8遺跡の発掘調査が行われた。それらの調査成果を紹介する。
3	笹山原遺跡群の研究史（2）	1989年から会津若松市教育委員会により、笹山原No. 7、10、12遺跡が調査された。それらの遺跡から出土した石器群の内容を紹介し、検討する。
4	笹山原遺跡群の研究史（3）	2001年に郡山女子大学考古学研究室により笹山原No. 16遺跡が発掘調査された。同時にNo. 27遺跡から様々な石器が採集された。調査成果をまとめ、採集された資料を検討する。
5	笹山原遺跡群研究の課題	これまでの調査成果を整理し、今後の研究課題を提示する。
6	発掘調査の方法	旧石器時代遺跡の発掘調査方法について講義するとともに、代表的な大規模発掘する大阪府翠鳥園遺跡の発掘調査を紹介する。
7	発掘調査の実際（1）	発掘調査で用いる機材の名称、使い方について講義を行い、それを用いた実習を行なう。
8	発掘調査の実際（2）	発掘調査における記録方法を説明する。出土位置の記録方法、レベルの使い方、平面図の描き方、層序断面図の描き方を説明する。発掘現場で用いる野帳の使い方、毎日記録する調査日誌の書き方を説明する。
9	発掘調査の実際（3）	教室内に発掘調査区を模擬的に作り、遺物の出土記録の取り方の実習を行なう。
10	資料整理実習（1）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、図面整理の実習。
11	資料整理実習（2）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、図面整理の実習。
12	資料整理実習（3）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、図面整理の実習。
13	資料整理実習（4）	発掘調査で得られた資料の水洗い、ネーミング、図面整理の実習。
14	資料整理実習（5）	石器の実測法。石器製作技術の説明を行い、石器実測図の描き方を説明する。
15	資料整理実習（6）	石器実測実習。石器の実測図を描く実習を行なう。

科目名	地域文化論Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 4単位 選択/短期大学部 文化学科 1年 4単位 必修
担当教員	福島 寅太郎, 野沢 謙治, 二宮 和比古, 斎藤 美保子, 桑野 聡, 会田 容弘, 仲田 佐和子, 佐藤 愛未			
開講期	通年			
授業概要	【授業の目的・わらい】 文化学科は「地方の時代」と言われた1981年に設立された。地方は中央の対概念である。しかしやがて、文化や歴史を中央という一極集中で考えるのではなく、複数の枠組み、地域という視点で捉える発想が生まれてきた。地域文化論では、文化学科の専任教員がそれぞれの分野から、「郡山」という地域の視点で歴史、文化を捉え直す。 【授業全体の内容概要】 講義、研究発表、現地研修、講演などを多様に組み合わせながら、地域文化の特質を解明する。			
達成目標	【授業終了時の目標】 地域の存在を、身近な存在として意識すること。			
受講資格	文化学科 1年	成績評価 方法	①レポート80点 ②現地研修への参加20点	
教科書	なし			
参考書	『文化学科(資格課程)報告集』第16・17・18集 郡山女子大学短期大学部文化学科 2014・15・16年			
学生への要望	普段から身近な歴史や文化に関心を持つこと。			
オフィスタイム	8名の教員が担当するので、各教員の指示に従うこと。			
自学自習	事前学修：授業内容についての予習を行う(1時間)。 事後学修：授業内容についてわからなかった点などの確認・復習を行う(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	地域文化について(合同)	平成28年度の地域文化論の進め方を説明し、「地域文化論」について野澤教授の講義を聴く。
2	郡山再発見ガイダンス	
3	講義(郡山概説:桑野)	
4	講義(郡山の原始古代:会田)	郡山の自然環境・地理・地質を説明し、郡山の旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代の代表的遺跡をパワーポイントを用いて概説する。
5	講義(郡山の神社仏閣:福島)	安積国造神社、愛宕神社、熊野神社、如法寺、善導寺などの社寺の歴史とそれぞれの信仰的役割について概説する。
6	講義(近世の郡山:佐藤)	江戸時代の郡山は奥州街道沿いに宿場町として栄えた。陣屋や宿場町としての郡山を中心に近世の様子について概説する。
7	講義(安積疎水と安積開拓:DVD桑野)	
8	講義(安積開拓と文学:二宮)	
9	講義(郡山の洋風建築:斎藤)	擬洋風建築(開誠館、金透小学校、旧福島中学校本館)から本格的な洋風建築(中央公会堂、合同庁舎)へと推移する、市内の近代化遺産について概説する。
10	講義(現在の郡山と文化施設:仲田)	郡山市内の文化財の中から特に「登録有形文化財」をとりあげ、文化財の保存と活用のあり方を概説する。
11	講義(郡山の民俗:野沢)	
12	外部講師講義	郡山在住の研究者に郡山の歴史的遺産について講義をしていただく。
13	現地研修ガイダンス	グループ別現地研修を実施するにあたり、ゼミの担当学生が現地研修のコース、見どころを説明する。
14	現地研修(グループ別)	1・2年合同の現地研修。4つのグループが仮所属1年生とともに、「郡山再発見」のテーマのもと、企画したコースを巡検し、解説を行う。
15	現地研修(グループ別)	1・2年合同の現地研修。4つのグループが仮所属1年生とともに、「郡山再発見」のテーマのもと、企画したコースを巡検し、解説を行う。
16	「郡山再発見」パネルディスカッション	もみじ会発表を全体で検証する。新たな研究テーマに結びつける。
17	「郡山再発見」ガイダンス	1・2年合同のゼミの立ち上げ。1年生はもみじ会の所属で2年生とともにゼミ形式の学習を行う。ガイダンスでは2年生が前半で行った現地研修の方法、文献研究の方法を説明し、研究テーマを説明する。
18	現地調査(5)	新たな研究課題を加えて、1・2年合同の四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの歴史的資料、観光資源、文化施設などの調査を実施する。
19	現地調査(6)	新たな研究課題を加えて、1・2年合同の四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの歴史的資料、観光資源、文化施設などの調査を実施する。
20	文献調査(3)	新たな研究課題を加えて、1・2年合同の四つのグループの課題に従い、四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの文献資料の調査を行う。
21	文献調査(4)	新たな研究課題を加えて、1・2年合同の四つのグループの課題に従い、四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの文献資料の調査を行う。
22	ゼミ発表	四つのグループの課題に従い、ゼミで調査成果の発表を行う。展示発表の計画を行う。
23	展示準備(1)	調査研究成果を展示するためのパネル作成、模型作成、展示物の準備を行う。
24	展示準備(2)	調査研究成果を展示するためのパネル作成、模型作成、展示物の準備を行う。
25	展示作業	作成したパネル、模型、展示物の展示を行う。
26	合同現地研修	1・2年合同で、それぞれのテーマの郡山地域の歴史遺産を巡る。それぞれの場所で学生が解説を行う。
27	合同現地研修	1・2年合同で、それぞれのテーマの郡山地域の歴史遺産を巡る。それぞれの場所で学生が解説を行う。
28	合同現地研修	1・2年合同で、それぞれのテーマの郡山地域の歴史遺産を巡る。それぞれの場所で学生が解説を行う。
29	合同現地研修	1・2年合同で、それぞれのテーマの郡山地域の歴史遺産を巡る。それぞれの場所で学生が解説を行う。
30	パネルディスカッション	平成28年度地域文化論のテーマ「郡山再発見」の総括討論。次年度に向けた展望。



平成29年度

<b>科目名</b>	地域文化論Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 4単位 選択/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎, 野沢 謙治, 二宮 和比古, 斎藤 美保子, 桑野 聡, 会田 容弘, 仲田 佐和子, 佐藤 愛未			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目的・ねらい】 文化学科は「地方の時代」と言われた1981年に設立された。地方は中央の対概念である。しかしやがて、文化や歴史を中央という一極集中で考えるのではなく、複数の枠組み、地域という視点で捉える発想が生まれてきた。地域文化論では、文化学科の専任教員がそれぞれの分野から、「郡山」という地域の視点で歴史、文化を捉え直す。</p> <p>【授業全体の内容概要】 講義、研究発表、現地研修、講演などを多様に組み合わせながら、地域文化の特質を解明する。</p>			
<b>達成目標</b>	【授業終了時の目標】 地域の存在を、身近な存在として意識すること。			
<b>受講資格</b>	文化学科 2年	<b>成績評価 方法</b>	①レポート80点 ②現地研修への参加20点	
<b>教科書</b>	なし			
<b>参考書</b>	『文化学科（資格課程）報告集』第16・17・18集 郡山女子大学短期大学部文化学科 2014・15・16年			
<b>学生への要望</b>	普段から身近な歴史や文化に関心を持つこと。			
<b>オフィスタイム</b>	8名の教員が担当するので、各教員の指示に従うこと。			
<b>自学自習</b>	事前学修：各自担当している課題（テーマ）に関する予習を行う（1時間）。 事後学修：授業中にわからなかった点などの確認や調査などの復習を行う（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	地域文化について（合同）	平成28年度の地域文化論の進め方を説明し、「地域文化論」について野澤教授の講義を聴く。
2	郡山再発見ガイダンス	平成28年地域文化論のテーマである「郡山再発見」について、郡山について桑野准教授が概説の講義を行う。
3	ゼミ活動	「郡山の神社仏閣」宗教学・考古学卒研（福島・会田）、「郡山駅周辺の近代化」西洋史・日本史卒研（桑野・佐藤）、「郡山の洋風建築」美学・西洋美術史卒研（斎藤・仲田）、「安積開拓」民俗学（野沢・二宮）の四つのテーマをそれぞれの卒研所属学生が担当し、指導教員のもと、現地調査と文献調査を行い、その成果をゼミ形式で発表し、もみじ会で展示発表を行う。
4	現地調査（1）	四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの歴史的資料、観光資源、文化施設などの調査を実施する。
5	現地調査（2）	四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの歴史的資料、観光資源、文化施設などの調査を実施する。
6	文献調査（1）	四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの文献資料の調査を行う。
7	文献調査（2）	四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの文献資料の調査を行う。
8	ゼミ発表	四つのグループの課題に従い、ゼミで調査成果の発表を行う。討論を行い、次の課題を設定する。
9	現地調査（3）	四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの歴史的資料、観光資源、文化施設などの調査を実施する。
10	現地調査（4）	四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの歴史的資料、観光資源、文化施設などの調査を実施する。
11	ゼミ発表	四つのグループの課題に従い、ゼミで調査成果の発表を行う。討論を行い、次の課題を設定する。
12	外部講師講義	郡山在住の研究者に郡山の歴史的遺産について講義をしていただく。
13	現地研修ガイダンス	グループ別現地研修を実施するにあたり、ゼミの担当学生が現地研修のコース、見どころを説明する。
14	現地研修（グループ別）	1・2年合同の現地研修。4つのグループが仮所属1年生とともに、「郡山再発見」のテーマのもと、企画したコースを巡検し、解説を行う。
15	現地研修（グループ別）	1・2年合同の現地研修。4つのグループが仮所属1年生とともに、「郡山再発見」のテーマのもと、企画したコースを巡検し、解説を行う。
16	「郡山再発見」パネルディスカッション	もみじ会発表を全体で検証する。新たな研究テーマに結びつける。
17	「郡山再発見」ガイダンス	1・2年合同のゼミの立ち上げ。1年生はもみじ会の所属で2年生とともにゼミ形式の学習を行う。ガイダンスでは2年生が前半で行った現地研修の方法、文献研究の方法を説明し、研究テーマを説明する。
18	現地調査（5）	新たな研究課題を加えて、1・2年合同の四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの歴史的資料、観光資源、文化施設などの調査を実施する。
19	現地調査（6）	新たな研究課題を加えて、1・2年合同の四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの歴史的資料、観光資源、文化施設などの調査を実施する。
20	文献調査（3）	新たな研究課題を加えて、1・2年合同の四つのグループの課題に従い、四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの文献資料の調査を行う。
21	文献調査（4）	新たな研究課題を加えて、1・2年合同の四つのグループの課題に従い、四つのグループの課題に従い、それぞれのエリアの文献資料の調査を行う。
22	ゼミ発表	四つのグループの課題に従い、ゼミで調査成果の発表を行う。展示発表の計画を行う。
23	展示準備（1）	調査研究成果を展示するためのパネル作成、模型作成、展示物の準備を行う。
24	展示準備（2）	調査研究成果を展示するためのパネル作成、模型作成、展示物の準備を行う。
25	展示作業	作成したパネル、模型、展示物の展示を行う。
26	合同現地研修	1・2年合同で、それぞれのテーマの郡山地域の歴史遺産を巡る。それぞれの場所で学生が解説を行う。
27	合同現地研修	1・2年合同で、それぞれのテーマの郡山地域の歴史遺産を巡る。それぞれの場所で学生が解説を行う。
28	合同現地研修	1・2年合同で、それぞれのテーマの郡山地域の歴史遺産を巡る。それぞれの場所で学生が解説を行う。
29	合同現地研修	1・2年合同で、それぞれのテーマの郡山地域の歴史遺産を巡る。それぞれの場所で学生が解説を行う。
30	パネルディスカッション	平成28年度地域文化論のテーマ「郡山再発見」の総括討論。次年度に向けた展望。

<b>科目名</b>	基礎ゼミ		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎, 野沢 謙治, 二宮 和比古, 斎藤 美保子, 桑野 聡, 会田 容弘, 仲田 佐和子, 佐藤 愛未			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目的・ねらい】 学生生活に必要な基礎的能力・資質を獲得し、自身の課題を見つけ、解決する技量、および授業聴講に必要な技量を養う。</p> <p>【授業内容の概要】 ①聴く・読む・資料探索・書く技術について、担当教員と学生間で質疑応答する。 ②学生がその成果をまとめ、全体発表する。2回予定している。</p> <p>【授業終了時の達成目標】 ①自身の考えを円滑に伝達できるようになること。 ②円満な友人関係、学生生活を構築すること</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【授業終了時の達成目標】 ①自身の考えを円滑に伝達できるようになること。 ②円満な友人関係、学生生活を構築すること</p>			
<b>受講資格</b>	文化学科 1年生	<b>成績評価 方法</b>	①出席回数・受講態度 30点 ②課題レポート 30点 ③発表内容 40点	
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考書</b>	授業中に指示する。			
<b>学生への要望</b>	・躊躇せずに、自身の意見を積極的に発言して下さい。 ・ノートをこまめにとること。			
<b>オフィスタイム</b>	8名の教員が担当するので、各教員の指示に従うこと。			
<b>自学自習</b>	・事前学習: 当日の内容についての予習を忘れずにしてください(1時間)。 ・事後学習: 与えられた課題を時間内に完成すること(1時間)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	基礎力確認調査 (国語)	中学・高校で学んできた国語の常識や47都道府県の地図を課題とした確認テストを実施する。
2	基礎力確認調査 (英語)	中学・高校で学んできた英語の基礎知識を問題にした確認テストを実施する。47都道府県の地図を書かせる。
3	基礎力確認調査 (社会)	中学・高校で学んできた「社会」に関する基礎知識を問題にした確認テストを実施する。47都道府県の地図を書かせる。
4	「私の望む大学生活」個人発表①	それぞれが書いて提出してきた「私の望む大学生活」の作文を授業の中で発表してもらおう。1番～12番
5	基礎力確認調査 (理数)	中学・高校で学んできた理科・数学の基礎知識を問題にした確認テストを実施する。47都道府県の地図を書かせる。
6	「私の望む大学生活」個人発表②	それぞれが書いて提出してきた「私の望む大学生活」の作文を授業の中で発表してもらおう。13番～23番
7	図書館の利用と活用①	図書館の利用の仕方とその活用について、司書課程の先生が講義する。
8	ラン・コモの利用と活用	実際にラン・コモの教室に移動し、授業を実施する。
9	ノートの取り方と整理方法	講義式の授業が多い中、どのようなノートの取り方が望ましいか、その方法を講義する。
10	レポートの書き方	そろそろ試験が近づき、期末試験の課題として、レポートを課すことがある。ここではレポートの書き方について講義する。
11	返却レポート・テストの活用方法	返却されたレポート、テストの結果について、如何に活用するかを講義する。
12	教員の読書体験	文化学科の教員たちがそれぞれの読書体験を紹介する。
13	文化施設の利用と活用	博物館、美術館、史料館などをどのように有効に利用し、活用したらよいかを講義する。
14	文化施設の見学	大学の近くにある開成館を実際に訪ね、施設や展示物を見学する。
15	「大学で学ぶ」ということに関するミニ・シンポジウム	学生と教員が参加して、同テーマをめぐる、討論し、質疑応答を行う。
16	研修旅行事前研修①	全体像の説明。
17	研修旅行事前研修②	47都道府県のテスト。
18	もみじ会準備作業	1、2年生が共同で実施する。
19	研修旅行事前研修③	奈良・京都の美術について (斎藤先生)
20	研修旅行事前研修④	奈良・京都の寺社について (福島 (何) 先生)
21	研修旅行事前研修⑤	テーブルマナーについて (仲田先生)
22	研修旅行事前研修⑥	班編制を行う。
23	卒業研究仮所属アンケート	アンケート用紙を配布し、記入してもらおう。
24	研修旅行事前研修⑦	添乗員と対面、諸注意について説明する。
25	卒研仮所属 1-①	専門分野に分かれて実施する
26	卒研仮所属 1-②	専門分野に分かれて実施する。
27	卒研仮所属 1-③	専門分野に分かれて実施する。
28	卒研仮所属 1-④	専門分野に分かれて実施する。
29	卒研仮所属確認→仮所属 2-①	集会時に確認した結果を発表する。
30	卒研仮所属 2-②	卒業研究発表会について説明する。

科目名	日本史		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	佐藤 愛未			
開講期	Ⅲ			
授業概要	江戸時代は徳川氏が江戸幕府を開いた17世紀初頭から、戊辰戦争により新政府が誕生する19世紀半ばまでの約260年間の時代である。幕府と諸藩による長期間の全国統治により、現代社会の仕組みはこの時代に形づくられることになった。現代社会につながる江戸時代および明治時代初期について考えてみる。 江戸時代は、なぜ長期にわたり継続し、そしてなぜ倒れたのか。これを成立期～解体期前後の国内外の情勢から日本史の流れの概略を、各講義内容に関連する史料を読みながら、政治体制や社会構造、経済、外交などを基本的な視点に据えて把握する。			
達成目標	過去と現在とを対比し理解を深めること。過去を学ぶことにより、現在・未来の自信を展望すること。			
受講資格	文化学科2年生	成績評価 方法	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	佐々木潤之助ほか『概論日本歴史』吉川弘文館、2000年 松尾正人『維新政権』吉川弘文館、1995年 児玉幸多監修 丸井佳寿子ほか『県史7 福島県の歴史』山川出版社、1997年 ほか適宜指示する。			
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。身近にある歴史に関心・興味を抱くこと。			
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅳ時間目。創学館4階、No.4研究室			
自学自習	事前学修：提示されている参考書及び興味を持った事柄に関する文献などを読む。(1時間) 事後学修：授業内容の復習。(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	徳川三代と江戸幕府の成立	家康は慶長8(1601)年に征夷大将軍に就任し、江戸幕府を開き、江戸を建設させた。その後、秀忠・家光の時代を経て、政治や社会の仕組みが確立する。近世の政治や社会の仕組みが確立するまでを、織豊期から江戸幕府開設に至るまでの時代背景との関連で考える。
2	「鎖国」への道と四口	日本におけるキリスト教禁教のため、幕府は「鎖国」への道を歩むこととなった。一方で、幕府の管理・独占のもと長崎・対馬・薩摩・松前でオランダやアジアとの交易が行われることとなった。この場をまとめて四口と呼ぶ。「鎖国」と四口について検証し、江戸時代の海外交流について考える。
3	交通網の整備と商業発展	江戸時代は、人々や物(商品)の往来が盛んになり商業経済が発展した時代でもある。その1つの要因として、街道と宿場町の整備、海運・舟運の整備の陸上・海上における交通網の整備行われたためである。これらの整備がふくしまにおいてもどのように実施され、商業発展に影響したのかを論じてみたい。
4	江戸幕府の政治構造と藩の設立	江戸時代は将軍以下の武士階級がその社会を掌握・支配するために、幕府・藩として構築された幕藩体制が確立した。そのため、全国各地には藩が成立し、多岐にわたる格式序列が形成された。幕府と藩、将軍と大名など江戸幕府の構造について論じる。
5	ふくしまの藩と城下町	本県下には、会津・中通り・浜通りに大中小の諸藩が置かれた。各藩の成り立ちを大名配置および城下町の形成との関連から検証し、その特色について学ぶ。
6	近世の村社会	江戸時代、人口の大部分を占め、幕府や大名の経済基礎である米年貢を負担する農民は生産と生活のために相応しいように村をかえていった。村組織・申し合わせや掟、村の共同整備などについても村々で整えられた。村のあり方は社会の変容と共に少しずつ変化し、農民の自立を可能にした背景について考える。
7	寛政改革と地域諸産業の発展	宝暦・天明期には、飢饉や災害などによって政治的・社会的危機が引き起こされた。そこで、松平定信が寛政改革を遂行し、幕府が直面していたさまざまな課題や問題の解決に尽力した。また、諸藩でも、財政窮乏対策のため商品生産や特産物生産の奨励などを行い藩政を立て直した。諸藩の政策と産業発展について考える。
8	天保改革と飢饉～諸藩の改革～	天保期、江戸幕府は内憂外患の本格的な危機の時代をむかえ、その対応策として天保改革を断行した。多くの諸藩も幕府同様に危機に直面し、藩政改革を行う。それらの改革を紹介し、寛政期の藩政改革との相違、および天保期の藩政改革がその後の社会にどのように影響したのかを考察する。
9	朝幕関係と尊号事件	寛政元(1789)年の尊号事件により朝廷と幕府の間に江戸時代初期以来の緊張が走った。江戸時代の朝廷と幕府の関係について、寛永4(1627)年に起こった紫衣事件と尊号事件が前後について学び、その後の国内情勢への影響について考察する。
10	儒学・蘭学・国学—江戸時代の学問	江戸時代には政治や社会状況に合った様々な学問が発展した。儒学・蘭学・国学などが例としてあげられ政治や社会にも利用、活用される。それらの学問と政治・社会との関係について検証する。
11	異国船の来航と沿岸防備	江戸時代後期以降、ラクスマン来日で現実化した対外的危機に直面し、対応策が幕府の重要課題になった。幕府が実施した沿岸防備にも多くの諸藩が動員された。本県下の会津藩・白河藩なども命じられた。沿岸防備の実態について検証する。
12	開港の影響と動揺	安政5(1858)年幕府は米蘭露英仏の5ヶ国と修好通商条約を締結した。それによって、日本は資本主義的世界市場のなかに強制的に組み込まれることとなり、政治・経済などに大きな混乱と影響がおよんだ。開港による社会にもたらした影響と揺らぐ幕藩体制について考える。
13	戊辰戦争と明治維新	慶応4(1868)年1月から始まった戊辰戦争によって、それまで長期にわたって続いた江戸幕府が倒れ、明治政府(維新政府)が誕生した。明治政府の基本方針や実施した政策などについて紹介し、藩体制の解体がどのように進められたのかを検証する。
14	お雇い外国人と文明開化	明治政府は、「殖産興業」や文明開化などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を導入するために雇用された外国人(お雇い外国人)を官庁や学校に招聘した。交通・工業技術・軍備・教育面で活躍し、日本の近代化に大きく貢献した。お雇い外国人と文明開化の関係について紹介する。
15	廃藩置県と福島県設立について	明治4(1871)年に全国の藩を廃止して府県に統一する。廃藩置県により藩体制が解体された。全国には府県が成立し、本県にも県が置かれ、現在の福島県になるまでには、いくつかの県の統合が行われた。現在の福島県が出来るまでの過程を探る。

平成29年度

科目名	西洋史	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	桑野 聡		
開講期	IV		
授業概要	1年次の国際文化史では、ヨーロッパの近代化の歴史を学んだ。しかし、近代的・合理的と見なされてきたヨーロッパ文明だが、その実像は必ずしもそう言えない多様な側面をもっている。本講義では、ヨーロッパの母胎が形成される時期である中世社会を対象とすることで、複雑で多様なヨーロッパ文化を生み出した深層部分の考察を試みる。具体的には、12世紀イングランドを舞台とした小説「修道士カドフェルシリーズ」のDVDを鑑賞し、中世社会のさまざまな側面を発見し、解説し、検討する。		
達成目標	ビデオ（テキスト）をきちんと分析し、近現代社会との相違点を発見すると共に、その意味や役割を考える力の育成。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	レポート（70%）・授業時の質疑応答（30%）
教科書	指定しない		
参考書	E.ピーターズ『修道士カドフェルシリーズ』（社会思想社文庫／光文社文庫） 堀越宏一・基野尚志 編著『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』ミネルヴァ書房 2013年		
学生への要望	ビデオをきちんと視聴するのは勿論だが、関心があれば原作の小説（翻訳）を手取るような積極性・主体性をもって授業に取り組んでほしい。 基本用語を『世界史B用語集』や高校の教科書、資料集などを用いて自主的に調べる姿勢も期待したい。 新聞やニュースの国際情報にアンテナを張って欲しい。		
オフィスタイム	火曜日・水曜日Ⅱ時限目（10:30～12:00） 考古学研究室		
自学自習	事前学習： 予習（1時間） 習： レポート作成・ノート整理（1時間）		事後学

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方を解説し、次回からのウォーミングアップを行う。 カドフェルの物語の舞台となるイングランド西部の町シュルーズベリの歴史や文化について解説する。
2	カドフェルの時代① 中世 イングランド社会の背景	舞台となる12世紀イングランドの歴史を概観し、視聴するビデオの理解を助ける準備を行う。
3	死体が多すぎる①	ビデオを視聴する。学生は翌週の水曜までにレポートを提出すること。
4	死体が多すぎる②	中世ヨーロッパにおける戦争の意味について解説する。
5	聖ペテロ祭の殺人①	ビデオを視聴する。学生は翌週の水曜までにレポートを提出すること。
6	聖ペテロ祭の殺人②	中世の市や祝祭について解説する。
7	代価はバラ一輪①	ビデオを視聴する。学生は翌週の水曜までにレポートを提出すること。
8	代価はバラ一輪②	中世の恋愛と結婚について解説する。
9	聖女の遺骨求む①	ビデオを視聴する。学生は翌週の水曜までにレポートを提出すること。
10	聖女に遺骨求む②	中世の聖遺物崇拝について解説する。
11	門前通りのカラス①	ビデオを視聴する。学生は翌週の水曜までにレポートを提出すること。
12	門前通りのカラス②	民衆布教の実態について解説する。
13	氷の中の処女①	ビデオを視聴する。学生は翌週の水曜までにレポートを提出すること。
14	氷の中の処女②	中世の冬の生活とクリスマスについて解説する。
15	まとめ	半期の授業を振り返って、中世ヨーロッパ社会と現代社会の関係を再考察する。

科目名	美術史		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
担当教員	斎藤 美保子			
開講期	I			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 美術史とは、人類の遺産である美術品を正しく理解し、そこにこめられた古人の思想及び芸術性を読み解き、更に新たな歴史観を組み立てる学問である。学芸員として、鑑賞者として作品に対峙する姿勢を身につける。 【授業全体の内容の概要】 古代、中世、近代の西洋、東洋、日本の基礎的な美術史を学修する。作品を鑑賞する能力、正しく扱う技術を習得する。</p>			
達成目標	<p>【授業の到達目標】 ①地域により、時代により、特徴のある美術が作られてきたことを理解する。 ②重要な作品の歴史的意義を理解する。 ③重要な美術家について、的確な知識を得る。</p>			
受講資格	文化学科1年生（学芸員課程任意設定科目）	成績評価 方法	課題（黄金比作図、水墨画、一点透視作図）（30点）、授業中の報告発表（20点）、期末試験中の記述試験（50点） 60点以上で合格だが、80点以上を目指すこと	
教科書	パワーポイントの資料を授業支援システムに添付する			
参考書	辻惟雄監修『日本美術史』、高階秀爾監修『西洋美術史』（共に美術出版社）、木村重信著『世界美術史』（朝日新聞社）			
学生への要望	授業支援システムを活用し、予習復習に努めること。 美術館、図書館に積極的に足を運び、自らの知見を広げること。			
オフィスタイム	月V・木V 創学館 No5研究室			
自学自習	予習：授業で扱う時代と地域について、参考書等でおおよそのイメージを掴んでおくこと。（1時間） 復習：授業支援システムに添付したパワーポイントの資料を確認し、ノートを整理する。（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	古代ギリシア美術	紀元前6世紀から紀元前1世紀までの神殿建築、彫刻、陶器画をスライド等で鑑賞し、その様式的変遷（幾何学、アルカイック、古典期、ヘレニスム）を理解する。
2	古典期様式のカノン	パルテノン神殿を中心に、建築用語（柱頭、ドーリア式、イオニア式、コリント式、破風など）を理解する。 黄金比の作図を行い、紀元前5世紀、古典期様式の美の規範を実感する。 神林恒道・新聞伸也編著『西洋美術101鑑賞ガイドブック』より 3《ミロのヴィーナス》
3	ガンダーラ美術	幾つかの釈迦像をスライド等で確認し、ヘレニスム美術が西インドで仏教と融合し、仏像が制作された経緯を理解する。 更に、仏教美術と、偶像崇拜をタブーとするイスラム教の美術を比較する。
4	日本古代美術	神社建築（千木、茅葺、高床式、素木）と寺院建築（瓦葺、塔、堂宇）の違いを理解する。 古来の「さやかな美」に、6世紀の仏教伝来後は大陸的な美が加わった経緯を理解する。
5	日本仏像美術史	飛鳥、白鳳、天平、平安、鎌倉と変化した仏像の様式史を理解する。 百済観音、興福寺仏頭、阿修羅像、勝常寺薬師如来、および慶派の諸像。 神林恒道・新聞伸也編著『日本美術101鑑賞ガイドブック』より 3《観音菩薩立像》
6	中世後期キリスト教美術	巡礼路沿いのロマネスク様式（アーチ、丸屋根、回廊）と都市のゴシック様式（尖塔、ステンド・グラス）の特徴を理解する。美術の主題となるイエスの生涯を絵画で確認する。
7	平安美術	遣唐使廃止後、急速に国風化した王朝美術を理解する。 ＜源氏物語絵巻＞、＜鳥獣戯画巻＞、重ねの色目、寝殿造など。
8	鎌倉・室町美術	建築（鎌倉五山、鹿苑寺・慈照寺）と水墨画（雪舟、雪村）を中心に、武士と禅宗の時代の美術を理解する。
9	初期ルネサンス	15世紀フィレンツェの美術（ウッチェロ、フラ・アンジェリコ、ポッティチェリなど）をスライド等で確認し、遠近法と解剖学的デッサンを極めた初期ルネサンスを理解する。 一点透視の作図を実習する。
10	盛期ルネサンス	16世紀初期の代表作（レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロなど）をスライド等で確認し、西洋絵画の歴史的頂点を理解する。
11	桃山美術	16世紀後半の絢爛豪華な美術をスライド等で確認し、南蛮文化を受容した戦国大名の美意識を理解する。
12	バロック・ロココ・新古典主義	17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ絵画史をスライド等で確認し、様式的変遷を理解する。
13	浮世絵とジャポニスム	江戸時代後期の浮世絵木版（歌麿、北斎、広重など）を鑑賞し、それらがフランスでジャポニスムを引き起こした経緯を理解する。
14	19世紀・20世紀美術	日本と欧米の交流が盛んになった時代の、東西の美術をスライド等で確認し、その新しい主義主張を理解する。
15	まとめ	様式の展開をふりかえり、日本と世界の重要作品の歴史的意義を整理する。

平成29年度

<b>科目名</b>	文化資源論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	二宮 和比古		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	記録された資料を守る知識と方法を知るのが目標です 図書館や文書館の記録という文化資源を守るための、資料保存の考えかたを学びます 紙資料だけでなく新たな記録媒体の記録が守れない現状を理解します		
<b>達成目標</b>	記録された資料を守る知識と方法を知るのが目標です 図書館や文書館の記録という文化資源を守るための、資料保存の考えかたを学びます 紙資料だけでなく新たな記録媒体の記録が守れない現状を理解します		
<b>受講資格</b>	文化学科の学生 科目等履修生	<b>成績評価 方法</b>	出席は学則による 20% 映像鑑賞のコメント 40% 課題提出 40%
<b>教科書</b>	とくに定めません		
<b>参考書</b>	授業初回時に関連文献リストを配布		
<b>学生への要望</b>	「文化」「記録」というキーワードから、文化資源を伝えていく重要性を考えてください		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日15時～17時 水曜日10時～17時 木曜日15時～17時		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	文化資源という発想	文化資源とは何か
2	文化資源を残す	残し伝えるための考え 私たちは何を残し、何を残せないのか 残し伝えるための記録
3	記録は媒体に書きつけられている	記録媒体の歴史 石、粘土、布、木、竹、葉、パピルス、羊皮紙、紙 デジタル記録媒体の歴史
4	紙資料の崩壊	映像資料「Slow Fire」鑑賞 解説
5	デジタル記録の危機	映像資料「Into the future」鑑賞 解説
6	資料保存のとりくみ①	本の敵を知る 外からの敵 内からの敵
7	資料保存のとりくみ②	劣化原因を取り除く 代替媒体に移し替える MF デジタル記録媒体
8	より長く資料の寿命をのばす	記録媒体に関する知識を得る 取りあつかい ハンドリング
9	紙の歴史をさぐる①	製紙の歴史 紙の伝播 中国 日本 ヨーロッパ 和紙と洋紙 映像資料「美濃紙のできるまで」鑑賞 解説
10	紙の歴史をさぐる②	映像資料「時代をリードする紙を求めて」鑑賞 解説
11	利用のための資料保存①	映像資料「利用のための資料保存1」鑑賞 解説 日本での取り組み
12	利用のための資料保存②	映像資料「利用のための資料保存2」鑑賞 解説 図書館でおこなう実践的な手立て
13	日本の図書館でのとりくみ	日本図書館協会資料保存委員会 全国歴史史料保存連絡協議会 文書館でのとりくみ 国立国会図書館 大学図書館 法政大学大原社会科学研究所 中央大学図書館 国立音楽大学図書館 専門図書館 お茶の水図書館
14	世界の図書館でのとりくみ	合衆国議会図書館 NYPL ハーバード大学図書館 IFLA国際図書館連盟でのコアプログラムと国際間の連携
15	ディスカッション	文化資源を残し伝えるということ 記録を残し伝えるということ

平成29年度

<b>科目名</b>	宗教文化史	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	<p>東日本大震災への体験を踏まえつつ、生活と宗教との関わりについて比較宗教学の観点から考えてみたい。          比較宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義では具体的に教科書を用い、生活禅というものについて考えてみたい。</p> <p>到達目標：          一、宗教と文化の関係について学ぶ。          二、宗教を歴史的に理解する。          三、宗教学的なまなざしで物事を捉えることを学ぶ。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>到達目標：          一、宗教と文化の関係について学ぶ。          二、宗教を歴史的に理解する。          三、宗教学的なまなざしで物事を捉えることを学ぶ。</p>		
<b>受講資格</b>		<b>成績評価 方法</b>	試験成績（60点）、出席状況（60%）、授業への理解度8割で、合とする
<b>教科書</b>	『生活禅のすすめ』、浄慧著、東京・山喜房出版、2012年12月。購買部で買い求めることができる		
<b>参考書</b>	授業中に紹介する		
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に積極的に参加すること。</li> <li>・ノートをこまめにとること。</li> </ul>		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日から金曜日（火曜日を除く）昼休み時間。担当教員の研究室（創学館No. 5）		
<b>自学自習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：当日の内容についての予習を忘れずにしてください（1時間）。</li> <li>・事後学習：与えられた課題を期間内に完成すること（1時間）。</li> </ul>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	宗教の分類	宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。
2	神中心の宗教	神に視点を置いてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神の宗教と無神の宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。
3	人間中心の宗教	人間に視点を置いてみると、宗教の中には、人間中心のものがああり、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれぞれである。
4	神秘主義的宗教と預言者の宗教	東洋の禪仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。
5	汎神的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教との関わり方を明らかにしたい。
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。
9	幸福観	幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。
11	救済の原理と価値観の転換	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。
13	宗教的人間 その一	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。
14	宗教的人間 その二	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。
15	まとめ	全体のまとめ。試験については、前の週の授業において指示する。

平成29年度

<b>科目名</b>	比較宗教学		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎			
<b>開講期</b>	IV			
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・狙い]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界の諸宗教の歴史と考えを学ぶ。</li> <li>2. 世界の諸宗教の特徴と異同を理解する。</li> <li>3. 宗教学の観点から宗教を捉える方法を学ぶ。</li> </ol> <p>[授業の概要]</p> <p>今年は東日本大震災への体験を踏まえつつ、生活と宗教との関わりについて比較宗教学の観点から考えてみたい。 比較宗教学はヨーロッパのヒューマニズム思想の流れの中で、ヨーロッパ以外の地域の宗教に関する情報をも取り入れて、「人間中心」の観点から「宗教」の起源や根拠を研究する学問として成立し、やがて隣接諸学問との連携のもとで、研究分野を拡大してきている。その主な研究対象として、神あるいは聖なるものの特性、神話、宗教的な行為あるいは儀礼、宗教の社会的機能、呪術と宗教、宗教的人格、宗教的心理、現代社会と宗教、宗教と癒しなどがある。本講義はそれらを紹介するとともに学問的な理解を深めていきたい。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①宗教学的“ものの見方”を理解する。</li> <li>②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。</li> <li>③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</li> </ol>			
<b>達成目標</b>	<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①宗教学的“ものの見方”を理解する。</li> <li>②宗教が身近な存在であることを再確認し、「宗教」に対する偏りのない理解ができることを目指す。</li> <li>③紹介された諸事例を通じて、「宗教」と「宗教的なもの」との異同を理解する。</li> </ol>			
<b>受講資格</b>	文化学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	試験成績(60点以上)、出席状況(60%)、授業への理解度8割で、合とする	
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考書</b>	『生活禅のすすめ』、浄慧著、東京・山喜房出版、2012年12月。購買部で買い求めることができる。			
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に積極的に参加すること。</li> <li>・ ノートをこまめにとること。</li> </ul>			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日から金曜日(火曜日を除く) 昼休み(12時~12時40分の間)			
<b>自学自習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前学習: 当日の内容についての予習を忘れずにしてください(1時間)。</li> <li>・ 事後学習: 与えられた課題を期間内に完成すること(1時間)。</li> </ul>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	宗教の分類	宗教類型論に関する従来の研究を概観し、宗教の多様性を明らかにすることで、「人間と宗教」の問題を考える。
2	神中心の宗教	神に視点を置いてみると、宗教の中には、神を立てるものと神を立てないものとの二つがあることに気づく。いわゆる有神の宗教と無神の宗教である。ここではそれらを具体的に指摘する。
3	人間中心の宗教	人間に視点を置いてみると、宗教の中には、人間中心のものがあり、いわゆる権威主義的宗教と人間主義的宗教がそれである。
4	神秘主義的宗教と預言者の宗教	東洋の禪仏教に着目しつつ、とくにキリスト教神秘主義とユダヤ教の預言者の宗教を取り上げて分析する。
5	汎神論的宗教	神、絶対者、自然、宇宙などについて考えてみる。
6	民族宗教と世界宗教	それぞれの共通点と相違点を具体的に指摘し、人間と宗教のとの関わり方を明らかにしたい。
7	人間観と救済観	民族宗教と世界宗教の人間観と救済観について、ユダヤ教、神道、道教および仏教、キリスト教、イスラム教を具体例として考えてみる。
8	信仰の担い手	個人意識と社会意識に焦点を当てて、宗教とアイデンティティの問題を考える。
9	幸福観	幸福の源泉と「恵み」について、ユダヤ教を例に取り上げて見てみる。
10	世界中心の思想	ミルチャ・エリアーデの宗教学における「世界の中心の思想」に着目し、諸宗教の世界観を概観する。
11	救済の原理と価値観の転換	民族宗教と世界宗教における救済原理と価値観を比較し、その多様性を明らかにする。
12	死生観	民族宗教と世界宗教の人間観を比較してみる。
13	宗教的人間 その一	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。
14	宗教的人間 その二	これまでの授業を踏まえつつ、「宗教的人間」の問題を考える。
15	最終回(まとめ)	試験については、前の週の授業において指示する。



平成29年度

<b>科目名</b>	文芸論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	真船 均		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 「文学理論」の解説</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 文化を読み解くための画期的な入門書といわれているジョナサン・カラーの『文学理論』をテキストに、文学理論の全般を詳しく解り易く解説する。各章に2時限を当て、テリー・イーグルトンやピーター・バリー等の文学理論も随時紹介する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 「文学理論」の解説</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 文化を読み解くための画期的な入門書といわれているジョナサン・カラーの『文学理論』をテキストに、文学理論の全般を詳しく解り易く解説する。各章に2時限を当て、テリー・イーグルトンやピーター・バリー等の文学理論も随時紹介する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p>		
<b>受講資格</b>	文化学科2年	<b>成績評価 方法</b>	期末試験100点
<b>教科書</b>	ジョナサン・カラー『文学理論』富山太佳夫訳 岩波書店		
<b>参考書</b>	特になし		
<b>学生への要望</b>	授業へは積極的に関わり、予習復習に励んで下さい。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜6限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業説明、「理論とは何か？」解説	授業の進め方、評価方法を説明する。「理論とは何か？」を解説する。
2	「理論とは何か？」の分析	「理論とは何か？」をピーター・バリーの「リベラル・ヒューマニズム」を紹介しながら再び解説する。
3	「文学とは何か？」の解説 「文学とは何か？文学は重要か？」を解説する。	「文学とは何か？文学は重要か？」を解説する。
4	「文学は重要か？」の解説	「文学とは何か？文学は重要か？」をテリー・イーグルトンの「文学とは何か？」を紹介しながら再び解説する。
5	「カルチュラルスタディーズ」	「文学とカルチュラルスタディーズ」を解説する。
6	続「カルチュラルスタディーズ」	「文学とカルチュラルスタディーズ」を再び解説する。
7	「言語、意味、解釈」の解	「言語、意味、解釈」を解説する。
8	「言語、意味、解釈」の分	「言語、意味、解釈」をイーグルトンの「現象学、解釈学」を紹介しながら解説する。
9	「レトリック、詩学、詩」の解説	「レトリック、詩学、詩」を解説する。
10	「レトリック、詩学、詩」の分析	「レトリック、詩学、詩」を再び解説する。
11	「物語（ナラティヴ）」の解説	「物語（ナラティヴ）」を解説する。
12	「物語（ナラティヴ）」の分	「物語（ナラティヴ）」をバリーの「物語論」を紹介しながら再び解説する。
13	「諸理論の流派と運動」の解説	「諸理論の流派と運動」を読み、文学理論の歴史を辿る。
14	「諸理論の流派と運動」の分析	「諸理論の流派と運動」の分析を通して、再び文学理論の歴史を辿る。
15	学習の振り返り	学習全体を振り返り、不足を補い、到達目標が得られるようにする。

平成29年度

<b>科目名</b>	芸能論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	一柳 智子			
<b>開講期</b>	IV			
<b>授業概要</b>	本授業では、芸能を広義のパフォーミング・アーツとして捉え、その核としての舞踊を中心に扱います。日本内外の芸能を網羅的に学び、その比較考察から、身体表現としての舞踊によって人は何を表現しようとしているのかを考え、舞台等のパフォーマンスを鑑賞する目と教養を養いましょう。			
<b>達成目標</b>	達成目標 1. 日本の伝統芸能とその根底にある民俗芸能を理解する。 2. 身体芸術の最高峰であるバレエを頂点とする西洋的舞踊を理解する。 3. 世界の民族舞踊を理解する。 4. 日本、西洋、世界の舞踊動作を比較することによって、さらに深く身体表現としての舞踊を理解する。			
<b>受講資格</b>	文化学科	<b>成績評価 方法</b>	レポート50点、提出物20点、平常点30点	
<b>教科書</b>	なし			
<b>参考書</b>	授業内で随時提示します。			
<b>学生への要望</b>	日本の芸能や海外の舞踊を網羅的に授業で扱うため、世界の種々の身体芸術に関心を持ってもらいたい。			
<b>オフィスタイム</b>	木曜日12:50~16:00 825研究室 (一柳)			
<b>自学自習</b>	事前学習：適宜授業内で提示した参考書等から各授業テーマに関連した箇所を読んでおくこと。(1時間) 事後学習：授業について、配布プリント等を参考にしてまとめておくこと。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	本講義の15回の授業のコンセプトと流れの説明 語義の確認 「芸能」：「古典」と「民俗」または「民俗」と「民族」 「舞踊」 「無形民俗文化財」：国の施策としての文化財。人間国宝。 「無形文化遺産」：2006年ユネスコによる「世界無形文化遺産保護条約」以降
2	日本の伝統芸能—舞楽	舞楽の歴史 現代の舞楽シーン 舞楽演目『還城楽』鑑賞：物語性、歴史性、舞の特徴
3	日本の伝統芸能—散楽から能楽へ	日本古来の神楽と外来楽である舞楽との融合的な散楽が、今日の能楽へと発展していく過程を眺める。 また、能楽の大成者観阿弥と世阿弥の業績をみる。
4	日本の伝統芸能—能楽	能の舞台 能の面と装束 作品鑑賞
5	日本の伝統芸能—狂言	能楽と狂言の関係 作品鑑賞
6	日本の伝統芸能—人形浄瑠璃	現在なぜ「文楽」というのか。 竹本義太夫と近松門左衛門。 人形の三人遣いと人間の舞踊動作。 作品：時代物と世話物
7	日本の伝統芸能—歌舞伎	歌舞伎の歴史： 出雲のお国、ややこ踊り、かぶき踊り、念仏踊と民俗芸能とのかかわり 若衆歌舞伎から野郎歌舞伎へ 現代の歌舞伎の始祖。「義太夫狂言」「純歌舞伎」「所作事（舞踊劇）」 作品鑑賞
8	歌舞伎作品の鑑賞	多くの歌舞伎作品の中から、歴史のおよび演目的に着目して、テーマに従って選択し鑑賞します。 具体的演目名は授業内で説明します。
9	西洋の舞踊—バレエの歴史	バレエの歴史 ルネサンス以後イタリアで発生したバレエは、フランスでその芸術の花を開花させ、ロシアのロマノフ王朝の庇護のもと世界的な身体芸術となった。20世紀に入り、特に第2次大戦後イギリスやアメリカでもバレエが根付き、世界的なバレエ団が多く結成され活躍している。
10	西洋の舞踊—バレエの歴史—2	四大古典作品：白鳥の湖、くるみ割り人形、眠れる森の美女、ジゼル 20世紀以降：ディアイグレフによるロシアバレエ団 ニジンスキーとストラビンスキーを中心として
11	西洋の舞踊—バレエの技法とバレエ団	バレエの技法のうち主なものについて解説する 世界のバレエ学校とワガノワ・バレエ学校におけるバレエ教育 世界のバレエ団
12	西洋の舞踊—バレエ作品の鑑賞	四大古典作品（白鳥の湖、くるみ割り人形、眠れる森の美女、ジゼル）の鑑賞のみならず、幅広い作品群から、テーマに即した作品の鑑賞を行います。舞踊的身体動作の鑑賞に加えて、作品の原作の吟味等、鑑賞のための幅広い知識を得ます。
13	西洋の舞踊—モダンからコンテンポラリーへ	20世紀 イサドラ・ダンカン、ルース・セント・デニスら 新しい舞踊文化の開花 現代的なダンス・シーン
14	海外の舞踊—ヨーロッパとアフリカ・ルーツの舞踊文化	ヨーロッパの脚の舞踊文化：アイリッシュ・ダンス アフリカ・ルーツの舞踊文化：アイソレーションからジャズ・ダンスへ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	まとめ	日本の伝統芸能、身体芸術の最高峰バレエ、民族的特徴を有するその他の舞踊文化等を総括する。

<b>科目名</b>	生涯学習概論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	佐久間 邦友			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 生涯学習の提唱や各種審議会答申、国、自治体の施策等を通じて、生涯学習の意義や必要性等を学ぶことが授業のねらいである。途中、学生個々人の学習を「考現学」の視点より考察することで、学生自身の生涯学習への示唆、そして向上をはかるものである。授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。また、現役の社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、講演会を開催する予定である。そして、生涯学習の理論や歴史的な変遷、法制度に関して理解し、自ら生涯学習に関するプログラムを開発することによって、生涯学習の意義や理念の認識に到達することが、通年の授業目標である。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>①「生涯学習」と「社会教育」について説明ができるようになったか。 ②生涯学習の意義と必要性を理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	社会教育主事・図書館司書・学芸員課程履修者 この科目の履修を希望する者	<b>成績評価 方法</b>	試験（50%）、レポート（30%）、授業参画度（20%）	
<b>教科書</b>	佐藤晴雄『生涯学習概論第1次改訂版』学陽書房 2016年 板野博行『大学生生活を極める55のヒント』大和書房 2015年			
<b>参考書</b>	佐藤晴雄『学習事業成功の秘訣！研修・講座のつくりかた』東洋館出版社 2013年 ※そのほか授業中に適宜紹介する。			
<b>学生への要望</b>	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 「学習」とは何か
2	生涯学習と社会教育（1）	1. 生涯学習と社会教育の関係 2. 生涯学習と生涯教育の定義 3. 生涯学習と一般行政
3	生涯学習と社会教育（2）	1. 社会教育の定義 2. 社会教育と成人教育 3. 社会教育と市民活動
4	生涯学習と社会教育の歴史（1）	1. 明治時代の社会教育 2. 大正時代の社会教育口 3. 昭和初期の社会教育～戦時期まで～
5	生涯学習と社会教育の歴史（2）	1. 戦後の社会教育 2. 社会教育法の大改正 3. 生涯学習の展開期
6	生涯教育論の登場	1. ユネスコの生涯教育論 2. OECDのリカレント教育
7	生涯学習と学校教育（1）	1. 生涯学習における学校教育と社会教育の位置 2. 生涯学習体系への移行
8	生涯学習と学校教育（2）	1. 生涯学習における学校教育の役割 2. 学校支援ボランティア 3. 学校支援地域本部事業
9	生涯学習の方法と内容（1）	1. 生涯学習の機会と形態 2. 生涯学習と社会教育の方法
10	生涯学習の方法と内容（2）	1. 生涯学習内容の分類 2. 学習事業における学習内容の状況 3. 学習内容の制約
11	学生生活と考現学	1. 考現学とは何か 2. 昔の学生生活 3. 今の学生生活
12	学生生活の今と昔（1）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
13	学生生活の今と昔（2）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
14	学生生活の今と昔（3）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
15	学生生活の今と昔（4）	1. テキストの輪読 2. 情報共有 3. I期のまとめ
16	生涯学習と社会教育の計画	1. 生涯学習推進計画 2. 社会教育計画・生涯学習推進計画の種類 3. 社会教育計画と財政 4. 社会教育の経営と評価

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
17	学習プログラムの編成 (1) ①	1. 学習プログラム何か 2. 学習プログラムのタイプ
18	学習プログラムの編成 (2)	1. 学習プログラム編成の視点 2. 学習プログラムの作成
19	生涯学習関連行政の仕組み (1)	1. 社会教育行政とは何か 2. 社会教育行政の役割と組織 3. 社会教育関係団体と社会教育行政
20	生涯学習関連行政の仕組み (2)	1. 生涯学習関連行政の組織 2. 生涯学習推進体制 3. NPO関連事項
21	生涯学習と社会教育職員	1. 社会教育主事 2. その他の職員・指導者
22	生涯学習と社会教育施設 (1)	1. 社会教育施設 2. 社会教育施設と生涯学習関連施設
23	生涯学習と社会教育施設 (2)	1. 図書館とは 2. 図書館の現状と課題 3. 未来の図書館
24	生涯学習と社会教育施設 (3)	1. 博物館とは 2. 博物館の現状と課題 3. 未来の博物館
25	生涯各期の教育課題 (1)	1. 発達課題と生涯学習 2. 青少年教育
26	生涯各期の教育課題 (2)	1. 成人教育 2. 高齢者教育 3. 女性教育
27	生涯学習と社会教育をめぐる課題 (1)	1. 社会教育・生涯教育と学校との連携の推進 2. 社会教育行政の一般行政化の動向
28	生涯学習と社会教育をめぐる課題 (2)	1. 社会教育施設の市民施設化 2. 社会教育施設使用料の有料化 3. 社会教育施設の委託化・指定管理者制度
29	授業の確認テストと解説	1. 確認テスト 2. テストの解説
30	授業のまとめ	1. 授業の総まとめ

平成29年度

<b>科目名</b>	図書館概論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	和知 剛		
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	図書館の社会的な役割りと総括的なシステムを学ぶ授業です 図書館や図書館を取り巻く類縁機関とのつながりを、法的根拠や社会組織の仕組みとともに俯瞰的に理解します		
<b>達成目標</b>	「図書館はなんのためにあるのか」という問いを自分で考える考え方や、民主主義を守る図書館の意義を学び、図書館について概略を得るのが目標です		
<b>受講資格</b>	文化学科の学生 科目等履修生	<b>成績評価 方法</b>	出席は学則規定による 必読文献の理解 40% 提出レポート 60%
<b>教科書</b>	特定の教科書は定めませんが、授業の初回時に文献リストを配布します		
<b>参考書</b>	そのつど紹介します		
<b>学生への要望</b>	図書館の存在意義を知るには、図書館について書かれた文献を読むだけでは不十分です 図書館を取り巻く社会変化や市民意識、政治の判断や歴史認識など、図書館は社会と密接にかかわっています その理解のためにも、関連する文献を広く読むことが求められます		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日15時～17時 図書館2F 館長室 水曜日10時～16時 木曜日15時～17時		
<b>自学自習</b>	一覧表の参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	これから図書館のことを学ぶにあたって	二年間で図書館の何を学ぶのか 授業基準配布 説明 ミニット・ペーパー「図書館はなんのためにあるのか」提出
2	図書館の定義と意義	図書館の種類と役割 (国立図書館・公共図書館・大学図書館・学校図書館・専門図書館) 私設図書館 児童図書館
3	図書館の法律基盤	日本国憲法 教育基本法 社会教育法 図書館法 地方自治法 国、地方自治体、議会などとの図書館のつながり
4	連携する図書館と類縁機関	博物館(博物館・美術館・動物園・水族館・郷土資料館...) ) 文書館という記録組織
5	図書館の理念	「図書館の自由に関する宣言」 図書館員の倫理と「倫理綱領」 UNESCO図書館宣言
6	図書館という情報基地をつかう	映像資料「情報基地への招待ー図書館は世界へ開かれたまどー」鑑賞 解説 情報リテラシーの拠点 あらゆる情報ニーズに応える ネットワークで世界の図書館とつながっている 蔵書を探したず仕組み OPAC
7	学校図書館の制度と機能	学校図書館をめぐる諸問題 学校図書館と公共図書館とのネットワーク 市川市 映像資料「司書教諭の仕事」鑑賞 解説 UNESCO学校図書館宣言 映像資料「公共図書館による学校支援サービス」鑑賞 千葉県市川市中央図書館 市川市教育委員会教育センター
8	大学図書館の機能とネットワーク	文献検索 研究機能 学術情報システム 雑誌記事索引 大学図書館の連携
9	多様な図書館サービス	映像資料「多様な側面からとらえた図書館サービス」鑑賞 解説 情報技術 運営形態 連携協力 施設計画 岡山県立図書館 大阪府立中之島図書館 稲城市立中央図書館 千代田区立図書館
10	図書館をとりまくさまざまな組織や業界	出版 国際組織と全国規模の日本図書館協会 IFLA(国際図書館連盟)と各国の国立図書館 図書館にかかわる研究組織、実務研修組織 日本図書館情報学会
11	文字の歴史 記録の歴史	映像資料「Empire of the word Vol.1」鑑賞 解説 文字の起源 記録ということ 聖書の写本 古代の図書館
12	書写材料の歴史	映像資料「様々な書写材料」鑑賞 解説 書写材料(パピルス・羊皮紙・紙) 活版印刷の発明
13	活版印刷という発明 活版印刷の終焉	映像資料「東西印刷技術のあけぼの」鑑賞 解説 ゲーテンベルグ 印刷とワインの意外な関係 江戸の印刷本 江戸時代の書物と出版

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	情報の達人	映像資料「レポート 論文の書きかた」鑑賞 解説 配布資料「レポートを書くための10のステップ」解説 図書館の資料を探す ルースリーフを使う B6カードを使う
15	これからの図書館を考える	映像資料「図書館はどう変わるか」鑑賞 解説 討論 書物の文化史 電子図書館 図書館と書物の未来

平成29年度

科目名	博物館概論		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
担当教員	会田 容弘			
開講期	I			
授業概要	博物館概論とは博物館法施行規則に記載されている博物館学芸員資格を取得するための必修科目のひとつである。本科目を履修する学生は博物館学芸員資格を取得し、将来博物館学芸員という職業に就くことを希望し、学芸員としての専門性は各自の専攻分野によって養われつつあることが前提となる。博物館概論もその専門性と密接にかかわる部分がある。特に文化学科では選択専門科目でもあることから、法規、倫理、歴史、学芸員の仕事など博物館について広範囲に学習する。			
達成目標	＜到達目標＞博物館学芸員課程科目の基礎を理解し、博物館の専門分野の理解に至るに、十分な知識を獲得すること。博物館利用者として、十分な知識を持つこと。			
受講資格	文化学科学生。	成績評価方法	レポートと試験(レポート50%、試験50%)。60点以上で合格とする。学芸員資格取得には80%以上の授業理解を求める。	
教科書	博物館概論			
参考書	地域資料館の挑戦			
学生への要望	博物館で将来働くことを希望する学生はなるべく多くの博物館施設を見学していることが望ましい。また、博物館が置かれている社会状況についても十分注意を払ってほしい。			
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。重要な質問がある場合は事前にメールでアポをとってから面会に来ること。			
自学自習	予習：前回の講義内容を確認し、授業内容の教科書・参考文献を読んでおくこと。(1時間) 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	0：博物館学の受講の前に	博物館学は文化学科選択専門科目であると同時に、資格課程の学芸員補の必修科目である。学芸員資格を取得するための方法、及び学芸員資格取得に必要な必修科目、選択科目に博物館法施行規則ののっとり、説明を行う。
2	1：博物館とは何か	教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－取り扱いに基づいて、日本における博物館の位置づけを説明する。
3	2：続・博物館とは何か	博物館の機能について、博物館法をもとに説明する。
4	3：さまざまな博物館	博物館はその収集展示する資料による分類、設立主体による分類、博物館法による制度別分類、運営手法による分類、機能による分類、資料の展示場所による分類ができる。実例をあげながらそれを説明する。
5	4：博物館学芸員の役割(1)	博物館法、それぞれの博物館条例に記された博物館学芸員の役割について、法規に基づいた説明を行う。
6	5：博物館学芸員の役割(2)	奥松島縄文村歴史資料館学芸員の実例をあげながら、学芸員の一年を通した仕事内容を説明する。
7	6：博物館の歴史(1)	欧米における博物館の成立から現代にいたる博物館について、通史的に説明する。
8	7：博物館の歴史(2)	日本における近代博物館の歴史は東京国立博物館の歴史でもある。国威発揚の帝室博物館、教育施設としての科学博物館を対比しながら説明する。
9	8：博物館の歴史(3)	地方博物館は1970年代から整備される。それ以前にも博覧会、私立博物館、私立美術館、水族館などが地方に建設されていた。東北地方の博物館の歴史をみてゆく。
10	9：博物館組織と運営	博物館法に基づいた博物館組織を説明し、実例をあげてその運営を解説する。
11	10：生涯学習と博物館、地域社会と博物館	生涯学習をおこなう博物館の実例をあげて説明する。地域社会と博物館の関係をとりあげ説明する。
12	11：学校教育と博物館、文化財保護と博物館、自然保護と博物館	学校教育と連携した博物館の実例の説明、文化財保護・自然保護を押し進める博物館の実例をあげて説明する。
13	12：博物館の現状と課題(1)	博物館の置かれているさまざまな問題について検討する。博物館法改正の現状や指定管理者制度導入、平成の大合併による市町村博物館の実態などについて実例をあげて検討する。
14	13：博物館の現状と課題(2)	これからの博物館について、望ましい姿を模索する。
15	14：博物館の危機管理	3・11東日本大震災で博物館は多くの被災した。これらのことから博物館における危機管理の問題が改めて注目されている。阪神大震災などと比較しながら博物館の被害状況、対応、再生を考えてみたい。



<b>科目名</b>	博物館情報・メディア論		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	福島 ひろ子			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	情報化社会および生涯学習時代において、視聴覚メディア教育の重要性と必要性が益々高まってきており、情報技術の日進月歩の発達により、メディアが博物館などの文化施設の利用形態へ与える影響は特に大きい。本講義では、メディアの歴史や近代のマスメディアの発展、メディアと教育との関係、コンピューターの登場とインターネット、メディアリテラシー、世界の博物館や美術館における映像展示の歴史と現状及び災害報道などについて映像メディアを通して具体的に学ぶ。それらを通して、人間社会に与えるメディアの影響およびその意義を考えると共に、特に博物館や美術館、公民館などで働くために必要と思われる基礎的な専門的知識を身につけることを目標としている。授業では主としてPower Pointを使って進めることになるが、有名な博物館や美術館におけるメディア活用の実態を知るために、今日最大のメディアである映像を視聴覚することもある。			
<b>達成目標</b>	情報化社会および生涯学習時代において、視聴覚メディア教育の重要性と必要性が益々高まってきており、情報技術の日進月歩の発達により、メディアが博物館などの文化施設の利用形態へ与える影響は特に大きい。本講義では、メディアの歴史や近代のマスメディアの発展、メディアと教育との関係、コンピューターの登場とインターネット、メディアリテラシー、世界の博物館や美術館における映像展示の歴史と現状及び災害報道などについて映像メディアを通して具体的に学ぶ。それらを通して、人間社会に与えるメディアの影響およびその意義を考えると共に、特に博物館や美術館、公民館などで働くために必要と思われる基礎的な専門的知識を身につけることを目標としている。授業では主としてPower Pointを使って進めることになるが、有名な博物館や美術館におけるメディア活用の実態を知るために、今日最大のメディアである映像を視聴覚することもある。			
<b>受講資格</b>	社会教育主事課程、学芸員課程	<b>成績評価 方法</b>	①出席状況、授業中の態度など20点 ②小テスト20点 ③課題20点 ④期末試験40点	
<b>教科書</b>	特に指定しない。必要に応じて、プリントの配布や参考文献の案内を行う			
<b>参考書</b>	特に指定しない。			
<b>学生への要望</b>	紹介された参考文献や図書などを可能な限り読んで、理解しておくこと。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日Ⅱ限目の教務部非常勤控室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	時間配分や進め方などについて説明し、参考文献の案内なども行う。
2	世界の博物館における映像の展示と現状①	まず日本の博物館のメディア活用について学ぶ。具体的には国立民族博物館、東京国立博物館などを中心に取り上げることになるが、近年、日本の一部の大学でも「大学博物館」が作られており、そうした新しい動向についても解説し、それらに見られるメディアの利用と活用の現状を紹介する。
3	世界の博物館における映像の展示と現状②	アジアの博物館のメディア活用について学ぶ。具体的には北京および台北にある二つの故宮博物館を取り上げることになる。
4	世界の博物館における映像の展示と現状③	欧米の博物館のメディア活用について学ぶ。具体的には、The British Museum、Musees（フランス）、The National Museum of American History などを取り上げることになる。
5	メディアの発達について	情報伝達やコミュニケーションに深く関わっているメディアの歴史を考えると共に、人間社会におけるコミュニケーションの仕組みを学ぶ。
6	文化の伝達と情報記号について	文化の伝達と社会的コミュニケーションの道具としてのメディア、さまざまな情報記号を概説し、視聴覚教育メディアとしての意味を理解する。
7	近代マスメディアの発達について	新聞、広告、映像の発達などについて解説すると共に、生涯教育におけるメディアの影響を考える
8	メディアと教育について	教育情報としてのメディアについて、種々の例を具体的に紹介しながら、メディアと教育との関わりを理解する。
9	コンピューターの登場とインターネットの普及について	コンピューターの登場やインターネットの普及により、博物館や美術館などの文化施設や公民館の利用と活用に大きな変化をもたらしている。いくつかの実例を紹介しながら、その現状と実態を理解する。
10	マルチメディアコンテンツとデジタル情報について	音声・動画・グラフィックスなどを用いた情報媒体を紹介し、市民の文化的生活におけるそれらの役割を理解する。
11	メディアリテラシーとは何か	新聞などを活用し、現代社会におけるメディアリテラシーの問題について学ぶと共に、日頃使っている携帯という新しいメディアを具体例に考える。知的財産権も当然話題になる。
12	インターネットによる視聴覚素材の探索法	インターネットというメディアを有効に利用し、視聴覚の素材を探索する方法を学ぶ。
13	映像メディアの諸相と災害報道	視聴覚教育メディアについて、映画、コマーシャル、テレビ、ドキュメンタリー及び災害報道などを取り上げて、その理解を深める。
14	自然災害と視聴覚教育メディアの諸問題	自然災害と視聴覚教育メディアにおける今日的な諸問題について、災害報道を踏まえつつ、メディア学の視点から考える。
15	まとめ	これまでの授業を振りかえつつ、授業の内容を纏めると共に、その狙いなどを指摘する。質疑応答という形で行うことになる。試験についての説明もする予定である。

科目名	博物館展示論		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子			
開講期	IV			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 博物館の展示に関する基礎的知識と技術を習得する。</p> <p>〔授業内容の概要〕 ①展示の歴史：18世紀以降のフランスと日本の展示の歴史を概観する。 ②展示の諸形態に関する理論と方法：文献による学習に加え、内外の文化施設の展示を具体的に学ぶ。 ③展示による教育活動：もみじ会等を利用して、解説パネルの作成とパワーポイント利用の解説を実習する。 ④安心安全な展示：3.11以後注目されている、鑑賞者にも収集品にも安全な展示について、実例を踏まえて検討する。</p>			
達成目標	<p>〔授業終了時の達成目標〕 ①学芸員として働くばかりでなく、鑑賞者としても文化施設を活用できるように、展示に対する基礎的な理解力を持つ。 ②生活の様々な場面で心地よい展示を実践できるようにする。</p>			
受講資格	文化学科二年生 学芸員課程必修	成績評価 方法	授業態度（25%）、課題（25%）、レポート（50%）	
教科書	特には定めなし			
参考書	『博物館展示法』雄山閣出版など その他、授業内で指示する			
学生への要望	『博物館展示論』の視点でもみじ会や学内の展示に着目し、積極的にグループワークを行うこと。 週末や冬休み等を利用して、多くの博物館、美術館を見学すること。			
オフィスタイム	月V・木V No5研究室			
自学自習	事前学修：当日の内容をシラバスと授業支援システムに添付した講義資料で確認しておくこと（30分） 事後学修：ノートを整理し、参考文献を読んで知識を定着させること（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション コミュニケーションとしての展示 □	教師の自己紹介ののち、博物館展示の意義と位置付け、授業の進め方を説明する。 大原美術館見学の思い出を語り合う。 学内に展示されているブロンズ像や額絵を鑑賞しながら、作者の意図、及び、展示者（創立者）の意図を推測する。
2	調査研究の成果の提示	郡山市立美術館と諸橋近代美術館を例に、調査研究の成果としての展示を理解する。
3	収集の歴史	正倉院とメトロポリタン美術館を例に、収集の歴史を理解する。
4	展示と展示論の歴史（フランス）	18世紀の王家のコレクションから革命期、ナポレオン帝政期、王政復古期を経て現代に至るルーヴル美術館の歴史を概観する。
5	展示と展示論の歴史（日本）	上野の国立博物館を中心に、明治初期から現代に至る展示の歴史を概観する。
6	展示の政治性と社会性	グラン・ルーヴルと日本の公立美術館を例に、展示の政治性と社会性を理解する。
7	日本文化における設え	懐徳庵で茶室における設えの意味を理解する。 演習：和室での作法：懐紙の使い方、御抹茶の頂き方、浴衣のたたみ方
8	関係者との協力	大山忠作美術館の展示に関わっている先輩のお話から、收藏家、美術館関係者、運搬・展事業者等との協力について理解する。
9	展示の諸形態	『博物館展示法』の第2章を参考にしながら、博物館展示の諸形態を理解する。 『博物館展示法』の第5章1、2、3節を参考にしながら、企画、デザイン、技術、施工等、博物館展示の実際を理解する。
10	展示の制作	演習：「発掘ガール展」の準備
11	展示解説書	演習：「発掘ガール展」の展示解説書を実作する。
12	展示解説	学内の「発掘ガール展」で実際に解説し、お互いに検討、評価する。
13	展示の評価と改善・更新	『博物館展示法』の第5章4、5節を参考にしながら、展示の評価と改善・更新を理解する。 演習：風呂敷の使い方、箱紐の結び方、扇、団扇の扱い方
14	安心安全な展示	鑑賞者、展示品共に安心安全な展示を考え、議論する。 演習：掛け軸の掛け方、巻物の巻き方、雛型の扱い、木版画の扱い方 レポートについて指示する（1月27日提出締め切り）。
15	今後の博物館展示	プロジェクション・マッピング、苔を使った生花等、新しい展示について理解し、今後の博物館展示の意義を考える。 演習：生け花（仲田先生の実演を拝見する）

<b>科目名</b>	博物館教育論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	仲田 佐和子			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	本授業では、社会教育施設である博物館の役割を教育・学習の観点から検討する。現代は社会生活の多様化、高学歴化、生涯学習の普及などにより、博物館の教育的役割が今までになく重視されるようになった。このことから、博物館教育の理念・方針、実践事例などを紹介し、生涯学習時代にふさわしい博物館のあり方、利用者と博物館の関係性を考察する。			
<b>達成目標</b>	博物館の教育的活用・運営に必要な基本的知識を習得し、自ら課題を見つけ解決できる学芸員補としての知識を習得する。			
<b>受講資格</b>	文化学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	①授業への積極的な姿勢20点 ②授業内の発表20点 ③レポート60点	
<b>教科書</b>	使用しない。資料を配布する。			
<b>参考書</b>	①全国大学博物館学講座『新時代の博物館学』芙蓉書房出版、2012年 ②小笠原・並木・矢島『博物館教育論』ぎょうせい、2012年			
<b>学生への要望</b>	博物館、美術館等に関心を持って、積極的に訪れてほしい。 また、新聞等で文化財や博物館に関する記事に注意してほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日V時限、水曜日IV時限。創学館No.4研究室。			
<b>自学自習</b>	毎日、新聞に目を通し、文化財や博物館に関する記事について考察する。(1時間) 博物館、美術館等の広報を常に注目し、興味、関心のある展示は積極的に観に行くとともに、感想をまとめる習慣をつける。(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	学芸員科目改正による『博物館教育論』新設の要因を解説し、今後の授業計画を説明する。
2	福島県の博物館	福島県博物館連絡協会加盟の博物館を紹介する。規模・設置目的・収蔵資料など、県内の博物館が多様な形態であることを指摘し、財源難・入館者減・高齢化など、厳しい現状に直面している博物館を考える。
3	博物館教育の理念と目的①～生涯学習と博物館	生涯学習の考え方を検証し、生涯学習時代到来が社会の要請であることを考える。生涯学習にとって、知識意欲を啓発する博物館の教育的役割が重要であることを確認し、博物館を拠点とする生涯学習のあり方を考察する。
4	博物館教育の理念と目的②～地域社会と博物館	住民参加による地域活動の拠点としての博物館、利用者(学習者)主体の博物館運営が要請されるようになった。特定の行政区域、地域社会を基準に設置された博物館は多種多様な地域資源を収蔵しており、地域再発見の役割を考えてみる。
5	博物館教育の理念と目的③～博物館教育と学校教育	博物館と学校はともに社会教育施設であり、学芸員と学校教師は社会教育に携わる専門職である。両者の役割を比較しながら、両者の連携のあり方、学校とは異なる学習体験可能な博物館教育の独自性を検証する。
6	博物館教育の理念と目的④～博物館と学び	博物館運営は資料(モノ)・知識の一方的伝達から利用者の自己学習を支援するように変化してきた。博物館における学びの特質を利用者の視点にたって考えてみる。
7	博物館教育の方針①～博物館教育と利用者	博物館は展示見学の一般市民・研究者・学生・友の会など、年齢・興味・目的を異にする、さまざまな個人・団体に囲まれている。博物館教育に相応しい、博物館と利用者(学習者)との相互関係作りを検証する。
8	博物館教育の方針②～博物館教育の評価	社会教育施設と見做される博物館は教育的活動が地域社会や利用者(学習者)により不断に評価される。博物館は教育活動の概要を外部に提示しなければならない存在となった。評価に相応しい教育活動の企画立案と課題を考えてみる。
9	博物館教育の方針③～博物館教育と学芸員	利用者(学習者)の近くに位置する学芸員には、資料収集・展示・調査研究など多様な専門性に加えて、生涯学習支援者としての教育的役割が求められるようになった。博物館と地域社会をつなぐ学芸員像を検証する。
10	博物館教育の実際①～展示と展示解説	展示は資料(モノ)の陳列ではない。展示担当の学芸員は利用者(学習者)の学習意欲を刺激し、興味を持たせるための展示を模索しなければならない。効果的に学習行動へ導く展示のあり方を検証する。展示理解を支援する展示解説・解説シートについても説明する。
11	博物館教育の実際②～講習会と講座	展示と共に、講習会・講座は学芸員の専門的研究成果を利用者(学習者)に発信する重要な手段である。利用者の学習支援に適う講習会・講座の運用を考える。
12	博物館教育の実際③～出前講座	学校と市民を対象とした「出前講座」がある。これは学芸員が専門分野の学習メニューを作成し、直接出向いて学校支援・生涯学習支援を図るものである。利用者の掘り起こしでもある「出前講座」の実例を紹介する。
13	博物館教育の実際④～ワークショップ	博物館教育は一方的に知識・情報を伝達することではない。「ワークショップ」は利用者(学習者)の主体性を重視した参加・体験型の教育活動である。新たな学びを創出する「ワークショップ」の実例を紹介する。
14	博物館教育の実際⑤～博物館友の会	博物館友の会は会員の相互親睦団体であり、博物館の支援団体である。会員は学芸員と共に博物館の教育活動を創造していく存在である。生涯学習の一翼を担うようになった博物館の友の会活動支援を検証する。これまでの講義内容を念頭に、生涯学習時代の社会が要請する利用者(学習者)主体の博物館教育を展望する。
15	まとめ～博物館教育の今後	これまでの講義内容を念頭に、生涯学習時代の社会が要請する利用者(学習者)主体の博物館教育を展望する。

<b>科目名</b>	卒業研究		
<b>担当教員</b>	野沢 謙治, 斎藤 美保子, 福島 寅太郎, 桑野 聡, 会田 容弘, 佐藤 愛未	<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	卒業研究は文化学科2年間を通して学んできた専門的知識を学問的に探究した成果と位置づけられている。各専門分野にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められる。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業研究の基本である。また各自の問題関心に合わせながら文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方などについて具体的に指導するとともに中間発表も計画している。なお卒業論文の提出日は2017年1月12日(木)、発表会は2月2日(木)である。		
<b>達成目標</b>	達成目標は論理的にものごを考える能力の修得、文化の多様性を理解し自らの力で問題を発見し創造的に解決する能力の修得、専門的知識の探求を通して社会に貢献できる力の修得である。		
<b>受講資格</b>	文化学科2年	<b>成績評価 方法</b>	授業における発表30点、卒業研究(論文)が論理的、創造的であること50点、卒業研究発表会20点で合計100点で評価。
<b>教科書</b>	なし。		
<b>参考書</b>	卒業研究に必要な参考文献は授業の中で指示するので必ず読んで下さい。		
<b>学生への要望</b>	卒業研究では各自が選んだテーマについて毎回、調べたことを発表してもらうことになります。調べたことが積み重なり、それが卒業研究の成果となります。事前学修として2時間、事後学修として1時間をとって下さい。		
<b>オフィスタイム</b>	金曜日のⅢ、Ⅳコマ目研究室(創学官4階No.5)で行います。		
<b>自学自習</b>	指導教員が指定した参考文献はあらかじめ必ず読んで内容をまとめておくこと。授業で学んだことは整理し質問項目を作り、翌週の授業で質問の時間をとるので質問をし解決しておくこと。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1年間、卒業研究をどのように進めていくかを話し合います。また現時点での卒業研究のテーマについて何故、興味、関心をもったかについて発表してもらいます。また図書館において民俗学関連の専門書、学術雑誌について説明します。
2	専門書を読む1	卒業研究に関連し学生が興味をもった専門書を読み、その内容について発表してもらいます。その発表について教員が的確な助言を行います。
3	専門書を読む2	卒業研究に関連し学生が興味をもった専門書を読み、その内容について発表してもらいます。その発表について教員が的確な助言を行います。
4	専門書を読む3	卒業研究に関連し学生が興味をもった専門書を読み、その内容について発表してもらいます。その発表について教員が的確な助言を行います。
5	専門書を読む4	卒業研究に関連し学生が興味をもった専門書を読み、その内容について発表してもらいます。その発表について教員が的確な助言を行います。
6	専門書を読む5	卒業研究に関連し学生が興味をもった専門書を読み、その内容について発表してもらいます。その発表について教員が的確な助言を行います。
7	専門書を読む6	卒業研究に関連し学生が興味をもった専門書を読み、その内容について発表してもらいます。その発表について教員が的確な助言を行います。
8	専門書を読む7	卒業研究に関連し学生が興味をもった専門書を読み、その内容について発表してもらいます。その発表について教員が的確な助言を行います。
9	専門書を読む8	卒業研究に関連し学生が興味をもった専門書を読み、その内容について発表してもらいます。その発表について教員が的確な助言を行います。
10	学会誌などの論文を読む1	「日本民俗学」などの学会誌のバックナンバーから卒業研究のテーマにかかわる論文を集め読み、その内容について発表してもらいます。それに対して教員が的確な助言を行います。
11	学会誌などの論文を読む2	「日本民俗学」などの学会誌のバックナンバーから卒業研究のテーマにかかわる論文を集め読み、その内容について発表してもらいます。それに対して教員が的確な助言を行います。
12	学会誌などの論文を読む3	「日本民俗学」などの学会誌のバックナンバーから卒業研究のテーマにかかわる論文を集め読み、その内容について発表してもらいます。それに対して教員が的確な助言を行います。
13	学会誌などの論文を読む4	「日本民俗学」などの学会誌のバックナンバーから卒業研究のテーマにかかわる論文を集め読み、その内容について発表してもらいます。それに対して教員が的確な助言をおこないます。
14	学会誌などの論文を読む5	「日本民俗学」などの学会誌のバックナンバーから卒業研究のテーマにかかわる論文を集め読み、その内容について発表してもらいます。それに対して教員が的確な助言を行います。
15	中間発表会	卒業研究のテーマについて前期の学修成果を発表してもらいます。そしてテーマを最終的に決定するまた夏休みの課題について教員より指示します。また民俗調査を実施する場合、調査内容について相談します。
16	夏休みの成果発表	夏休み中の課題が、どの程度、達成されたかについて発表してもらいます。
17	卒業研究・論文の作成に向けて1	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文構成を指導を行います。
18	卒業研究・論文の作成に向けて2	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文作成の指導を行います。
19	卒業研究・論文の作成に向けて3	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文作成の指導を行います。
20	卒業研究・論文の作成に向けて4	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文作成の指導を行います。
21	卒業研究・論文の作成に向けて5	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文作成の指導を行います。
22	卒業研究・論文の作成に向けて6	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文作成の指導を行います。
23	卒業研究・論文の作成に向けて7	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文作成の指導を行います。
24	卒業研究・論文の作成に向けて8	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文作成の指導を行います。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	卒業研究・論文の作成に向けて 9	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文作成の指導を行います。
26	卒業研究・論文の作成に向けて 10	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な論文作成の指導を行います。
27	卒業研究・論文の作成に向けて 11	卒業研究・論文の作成に向けて具体的な6文作成の指導を行います。
28	最終発表会 1	卒業研究・論文の最終内容について発表してもらいます。その内容について教員が論文の書き方をふくめて指導を行い、論文を最終的にまとめます。
29	最終発表会 2	卒業研究・論文の最終内容について発表してもらいます。その内容について教員が論文の書き方をふくめて指導を行い、論文を最終的にまとめます。
30	最終発表会 3	前回に同じ。卒業研究発表会の発表の仕方（パワーポイントの作成など）について指導する。

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	福島 寅太郎			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目標・ねらい】 卒業研究は文化学科2年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられています。各専門分野にかかわる独自の研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。</p> <p>【授業の概要】 授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画しています。 なお、卒業研究（字数12000字以上）の提出は2018年1月中旬を予定しており、卒業研究の発表会は2018年2月2日（金）となっています。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。</li> <li>・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。</li> <li>・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。</li> </ul>			
<b>受講資格</b>	文化学科2年	<b>成績評価 方法</b>	授業における内容の発表（30点）、卒業論文の内容は論理的で創造的であること（50点）、卒業研究発表会（20点）	
<b>教科書</b>	使用しない			
<b>参考書</b>	随時、紹介する			
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で積極的に文献を調べたり、紹介された文献を精読するなどをして欲しい。</li> <li>・ゼミに積極的に参加すること。他人の発表に対しても積極的に質問すること。</li> </ul>			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日以外の昼休みの時間帯（12：00～）。担当教員の研究室（創学館5階No.5）			
<b>自学自習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習：ゼミ発表のための予習を忘れずにすること（1時間）。</li> <li>・事後学習：ゼミ発表後のまとめをすること（1時間）。</li> </ul>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンスー卒業研究の意味と年間予定について	なぜ卒業研究を書かなければならないか。卒業研究の意味について概説する。年間予定も発表する
2	文献の調べ方	本学図書館の書庫へ行って専門図書を一〇冊調べてくる。それを通して、文献の調べ方を学ぶ。
3	日本宗教史研究の過去と現在	学生たちが調べてきた研究書を手がかりに、日本宗教史研究の過去と現在を概説する。
4	宗教学による「日本宗教論」について①	堀一郎の「日本宗教史」研究について具体的に概説する。
5	宗教学による「日本宗教論」について①	堀一郎の「日本宗教史」研究について具体的に概説する。
6	日本史研究による「日本宗教史」論について①	辻善之助の『日本仏教史』について、その特徴などを紹介する。
7	日本史研究による「日本宗教史」論について①	辻善之助の『日本仏教史』について、その特徴などを紹介する。
8	中間発表①	学生たちによる卒業研究の中間発表。一人40分。質疑応答20分。
9	中間発表②	学生たちによる卒業研究の中間発表。一人40分。質疑応答20分。
10	中間発表③	学生たちによる卒業研究の中間発表。一人40分。質疑応答20分。
11	古事記とその研究について①	日本宗教史の観点から、神話としての古事記を考える。最新の研究動向も紹介する。
12	古事記とその研究について②	日本宗教史の観点から、神話としての古事記を考える。最新の研究動向も紹介する。
13	中世の宗教について①	最澄と空海の仏教思想について考える
14	中世の宗教について②	最澄と空海の仏教思想について考える
15	神仏習合について①	神前読経などを話題に、中世における神仏習合を考える。
16	神仏習合について②	神前読経などを話題に、中世における神仏習合を考える。
17	いわゆる「鎌倉新仏教」について①	『往生要集』や法然の浄土教の特徴を考える
18	いわゆる「鎌倉新仏教」について①	往生伝が誕生した背景について考える。
19	学生による研究成果の発表①	それぞれのテーマに即して研究成果を発表してもらおう。一人は30分。質疑応答は20分。
20	学生による研究成果の発表②	それぞれのテーマに即して研究成果を発表してもらおう。一人は30分。質疑応答は20分。
21	学生による研究成果の発表③	それぞれのテーマに即して研究成果を発表してもらおう。一人は30分。質疑応答は20分。
22	学生による研究成果の発表④	それぞれのテーマに即して研究成果を発表してもらおう。一人は30分。質疑応答は20分。
23	論文作成の相談および書き方の実践①	それぞれの卒業研究の進行状況を報告し、それに対する質問を受ける。
24	論文作成の相談および書き方の実践②	それぞれの卒業研究の進行状況を報告し、それに対する質問を受ける。
25	進行状況の報告および成果の発表①	一人20分。プリントを作って発表すること。
26	進行状況の報告および成果の発表②	一人20分。プリントを作って発表すること。
27	進行状況の報告および成果の発表③	一人20分。プリントを作って発表すること。
28	卒業研究の要旨の作成について	卒業研究の要旨集に掲載される要旨の作成およびチェック
29	最終発表会 1	最終発表会に向けての準備および卒業研究についての指導教員による最終チェック
30	最終発表会 2	前回と同様の内容。最終発表会に向けての準備および卒業研究についての指導教員による最終チェック

平成29年度

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	桑野 聡			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	卒業研究は文化学科2年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探究した成果と位置づけられています。各専門分野にかかわる独創的な研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。 授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画しています。なお、卒業論文（12000字以上=400字詰め原稿用紙30枚以上）の提出日は2018年1月18日（木）、最終発表会は2月2日（金）です。			
<b>達成目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。</li> <li>・専門分野の探求において、文化の多様性をりかきすると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。</li> <li>・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。</li> </ul>			
<b>受講資格</b>	基礎ゼミ・仮所属を経過した学生である以外には、特になし。	<b>成績評価 方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における内容の発表（30点）</li> <li>・卒業論文は、表紙・目次・本文に加えて、註・資料・参考文献が付加されたものであること（50点）</li> <li>・卒業研究発表会（20点）</li> </ul>	
<b>教科書</b>	特に使用しません。			
<b>参考書</b>	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説』1・2 DTP出版 2006年 その他、適宜提示する。			
<b>学生への要望</b>	各自の就職・資格・アルバイト活動などを考慮してスケジュール管理を確実に、計画的に取り組むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜・水曜のⅡ時限目（10:30～12:00） 考古学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習： 発表準備（1時間以上） 事後学習： 論文修正（1時間以上）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方を解説し、年間計画を立てる。また文献の利用などに際しての基本的な研究倫理を指導する。
2	ウォーミングアップ①	参加学生の研究テーマについて、現在知っていることを要約して発表してもらう。
3	ウォーミングアップ②	前回の発表を受けて提示した課題について発表と質疑応答を行う。
4	ウォーミングアップ③	前回の質疑応答を受けて、各自の研究テーマの検討を進め、第1回発表の内容を準備する。
5	研究発表①-1	Aの第1回発表と質疑応答
6	研究発表①-2	Bの第1回発表と質疑応答
7	研究発表②-1	Aの第2回発表と質疑応答
8	研究発表②-2	Bの第2回発表と質疑応答
9	研究発表③-1	Aの第3回発表と質疑応答
10	研究発表③-2	Bの第3回発表と質疑応答
11	研究発表④-1	Aの第4回発表と質疑応答
12	研究発表④-2	Bの第4回発表と質疑応答
13	研究発表⑤-1	Aの第5回発表と質疑応答
14	研究発表⑤-2	Bの第5回発表と質疑応答
15	前期まとめ	前期の各報告を総括し、各自の論文構成を考え、夏休みの作業の準備とする。
16	後期ガイダンス	夏休みの課題を提出する。
17	ウォーミングアップ④	夏休みの作業を振り返り、課題を考える。
18	ウォーミングアップ⑤	夏休みの課題について返却し、修正点を確認する。
19	研究発表⑥-1	Aの第6回発表と質疑応答
20	研究発表⑥-2	Bの第6回発表と質疑応答
21	研究発表⑦-3	Aの第7回発表と質疑応答
22	研究発表⑦-2	Bの第7回発表と質疑応答
23	研究発表⑧-1	Aの第8回発表と質疑応答
24	研究発表⑧-2	Bの8回発表と質疑応答
25	予備日	要旨提出準備・相談日
26	最終作業①	『卒業研究の要旨』原稿の確認・チェック
27	最終作業②	『卒業研究の要旨』原稿の最終確認・提出
28	最終作業③	卒業論文の書き方、註の付け方、参考文献・資料の作成について解説する
29	最終作業④	卒業論文提出（11:30～12:30）の結果報告を受けて、卒研発表会の準備に入る
30	最終作業⑤	2月2日の卒研発表会の準備（レジュメ・パワーポイントなど）の確認

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	会田 容弘			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目標・ねらい】 卒業研究は文化学科2年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられています。各専門分野にかかわる独自の研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。</p> <p>【授業の概要】 授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画しています。なお、卒業論文（A4版12000字以上）の提出日は2018年1月11日（木）、最終発表会は2月2日（金）です。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。</li> <li>・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。</li> <li>・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。</li> </ul>			
<b>受講資格</b>	文化学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	<p>【成績評価法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における内容の発表（30点）</li> <li>・卒業論文の内容は論理的で創造的であること（50点）</li> <li>・卒業研究発表会（20点）</li> </ul>	
<b>教科書</b>	会田 著述「短大生のための考古学論文作法」（私家版）			
<b>参考書</b>	文化学科（資格課程）報告集第4～19集			
<b>学生への要望</b>	1年間かけてじっくりと自分の研究テーマを完成させてほしい。それにはたゆまず考古学の勉強をすることが必要である。授業は課題研究と発表および実習である。課題を調べることが予習である。発表および実習の指摘点を修正するのが復習である。一日30分を考古学の時間に充ててほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日2・4時限目。論文作成に関する質問の場合は事前にメールで連絡を取り、質問内容を示してから面会すること。特に必要な文献などがある場合は必ず事前連絡すること。			
<b>自学自習</b>	授業時間に指導した資料の観察、資料化、拓本、実測、トレース、写真撮影などは授業時間だけでは終わらないので、空き時間を使って、必ず完成させておくこと。その成果を用いて次の授業では次のステップに進む。また、わからないことがあれば、必ず、教員に確認すること。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	研究倫理の説明を行う。考古資料を研究に利用する場合の手続き、調査者に対する。卒業論文作成の過程を説明する。
2	論文作成の動機付け（1）	対話を行いながら、興味ある対象が考古学研究の対象であるかないか、どのようにすれば考古学研究となるかを明らかにする。
3	論文作成の動機付け（2）	実際の考古資料（笹山原遺跡No.16出土資料）を観察する。
4	論文作成の動機付け（3）	会田の最新論文（「櫛ノ木平遺跡の石刃製作技術変異」新潟県津南町教育委員会信濃川火焔街道連携協議会『津南シンポジウムXⅡ予稿集 津南段丘の杉久保石器群』pp.129-137(2016.10.))の読み合わせを行い、考古学論文の構成・資料・提示方法などを説明する。
5	論文資料の決定	論文で扱う資料を決定する。実物考古資料、文献考古資料、現地遺跡などにより論文作成方法は異なる。
6	資料操作方法（1）	取り扱う資料（遺物（石器・土器・骨角器・自然遺物・木製品・金属器）遺構（住居・土坑・古墳））によりその折扱い方が異なる。基本的な資料の取り扱い方法を説明し、論文作成に備える。
7	資料操作方法（2）	資料操作の実習。土器であれば個体分類、接合作業。石器であれば石材分類、接合作業。
8	資料化作業（1）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。
9	資料化作業（2）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。
10	資料化作業（3）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。
11	資料化作業（4）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。
12	資料化作業（5）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。
13	資料化作業（6）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。
14	資料化作業（7）	論文資料とするまでの資料化作業。資料の記録・注記作業。
15	中間発表	操作した資料がどのような状況にあるか、報告する。さらにその資料から何が言えそうか対話により検討する。
16	図化作業（1）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。
17	図化作業（2）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。
18	図化作業（3）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。
19	図化作業（4）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。
20	図化作業（5）	拓本・実測・トレース・写真撮影により資料を図化する。
21	図版レイアウト	図化した図版をレイアウトし、図版を作る。
22	論文作成（1）	事実記載。
23	論文作成（2）	事実記載。
24	論文作成（3）	事実記載。
25	論文作成（4）	事実記載。
26	論文作成（5）	事実記載。
27	研究史上の位置付け	記述した資料がどのような位置にあるものか、指導教員が関連文献を提示し、記述する。
28	考察の執筆（1）	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。
29	考察の執筆（2）	資料化した資料が過去の人間行動のどの部分が投影されているか考察する。
30	発表データ作成および予行	卒業論文発表会に向けてパワーポイントを作成し、実際にそれを持ちいて発表の練習を行う。



<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	斎藤 美保子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目標・ねらい】 卒業研究は文化学科2年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられています。各専門分野にかかわる独自の研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。</p> <p>【授業の概要】 授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画しています。なお、卒業論文（12000字以上）の提出日は2018年1月です。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。</li> <li>・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。</li> <li>・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。</li> </ul>			
<b>受講資格</b>	文化学科2年生 美学・美術史の方法論で卒業研究を行う学生	<b>成績評価 方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における内容の発表（30点）</li> <li>・卒業論文の内容は論理的で創造的であること（50点）</li> <li>・卒業研究発表会（20点）</li> </ul>	
<b>教科書</b>	斎藤美保子著『荘司福作《霧林》に関する一考察』（抜き刷りを配付する）			
<b>参考書</b>	各自のテーマにより、授業内で助言する			
<b>学生への要望</b>	<p>美学・美術史だけでも幅広いので、各自興味関心の強い、独自のテーマをみつけ、精緻な調査と論理的な文章、説得力のある発表を目指してほしい。</p> <p>論文執筆に際しては、参考文献20冊、短文の英文資料読解を課す。</p>			
<b>オフィスタイム</b>	月曜V・木曜V No5研究室			
<b>自学自習</b>	事前学修：自分の考えを先行研究を上げながら、きちんと説明できるようにしておく（1時間） 事後学修：新たな課題に対し、調査し、考察し直すこと（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	教員の近況報告と学生の研修旅行報告。 過去の学生の卒業論文を参照し、各自のテーマを検討する。
2	研究倫理	先行研究の調査と自己の研究の独自性、引用文献・参考文献の提示の仕方等を理解する。
3	文献読解1	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
4	文献読解2	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
5	文献読解3	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
6	文献読解4	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
7	文献読解5	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
8	文献読解6	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
9	実作調査の準備	テーマに関わる美術作品等を調査できるよう、準備する。
10	実作調査1	美術館等で実作調査を行う。
11	美術館等で実作調査2	美術館等で実作調査を行う。
12	発表資料作成	パワーポイント（10カット）で発表資料を作る。
13	配布資料作成	配付資料（A4一枚）を作る。
14	中間発表会	それぞれのテーマで15分ずつの発表を行う。
15	発表の講評と夏休み課題の指示	前回の中間発表の講評をし、夏休み中に読むべき文献、まとめるべき文章を指示する。
16	夏休み中の報告	夏休み中の進捗状況を報告する。
17	文献読解7	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
18	文献読解8	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
19	文献読解9	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
20	文献読解10	各自のテーマにおける基本文献を精読し、要旨をまとめる。
21	論文執筆準備	テーマを再確認し、論文執筆の準備をする。
22	論文の章立て	12000字以上の卒業論文の組み立てを検討する。
23	註・参考文献の記載	註・参考文献の記載に関し、注意する。
24	卒業研究の要旨の下書き	各自の下書きを読み上げ、検討する。
25	卒業研究の要旨提出	要旨の最終原稿を仕上げ、印刷製本に回す。
26	要旨の発表会	各自の卒業研究の要旨を発表し、質疑応答をおこなう。
27	論文の推敲	12000字以上の論文を仕上げる。
28	パワーポイント資料	10カット程度のワーポイント資料を作成する。
29	口頭発表の練習	読み上げ原稿を作り、高等発表の練習をする。
30	卒業研究発表会リハーサル	報告7分、質疑応答等8分の学会形式の発表会のリハーサルを行う

平成29年度

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	佐藤 愛未			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	卒業研究は文化学科2年間を通して学んできた専門的な知識を学問的に探求した成果と位置づけられています。各専門分野にかかわる独自の研究テーマを選び、そのテーマに関わる専門的な知識を集め、論理的に組み立て、創造的に考察していく作業が求められます。「探求力」「文章力」「表現力」の修得は卒業論文の基本モットーです。授業では各自の問題関心に合わせながら、文献の探し方、先行研究の整理、論文の書き方、仕上げ方などについて具体的に指導すると共に、中間発表も計画しています。なお、卒業論文（12000字以上）の提出日は2017年1月12日（木）、最終発表会は2月2日（木）です。			
<b>達成目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的にものごとを考えることができる能力を修得します。</li> <li>・専門分野の探求において、文化の多様性を理解すると共に、自らの力で問題を発見し、それを創造的に解決する能力を身につけます。</li> <li>・専門的な知識の探求を通して、社会に貢献できる力を身につけます。</li> </ul>			
<b>受講資格</b>	文化学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における内容の発表（30点）</li> <li>・卒業論文の内容は論理的で創造的であること（50点）</li> <li>・卒業研究発表会（20点）</li> </ul>	
<b>教科書</b>	なし			
<b>参考書</b>	研究テーマ・課題に即した文献を個別に指示する。			
<b>学生への要望</b>	各人の研究テーマ・課題を自覚し、自主的に探究すること。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅳ時間目。創学館4階、No.4研究室			
<b>自学自習</b>	事前学修：自身の研究課題について各自文献を読み知識を深め、関係史料などの調査を行う。(1時間) 事後学修：授業を通して出てきた疑問点などについて確認・復習を行う(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	研究論文の書き方（1）	論文の構成要素、論理の展開などを概説する。
2	研究論文の書き方（2）	論文の構成要素、論理の展開などを概説する。
3	研究テーマの決め方（1）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する
4	研究テーマの決め方（2）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する
5	研究テーマの決め方（3）	研究の目的は何か、何を調べるのかなど、各人の問題関心を検証し、確認する
6	研究論文題目の決め方	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。
7	研究論文題目の決め方	研究の基盤となる研究テーマ、研究主題を概説する。各人の問題関心に即して仮の研究論文題目を絞り込む。
8	仮題目の発表（1）	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。
9	仮題目の発表（2）	講読した専門書、先行研究、各人の問題関心、絞り込んだ研究論文題目を発表する。
10	調査研究の方法（1）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。図書館の活用法についても論議する。
11	調査研究の方法（2）	論文執筆の前段階となる資料・参考文献の収集、現地調査、聞き取り調査、フェールドワークなどを概説し、質疑応答する。図書館の活用法についても論議する。
12	研究計画の作成（1）	これまでの授業内容を踏まえて、1月上旬の論文提出を念頭に研究計画表を作成する。スケジュール管理の重要性を認識する。
13	研究計画の作成（2）	これまでの授業内容を踏まえて、1月上旬の論文提出を念頭に研究計画表を作成する。スケジュール管理の重要性を認識する。
14	研究構想発表会（1）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。
15	研究構想発表会（2）	論文提出に向けて研究構想を持ち廻り形式で発表する。発表者と聴講者の間で、発表内容について質疑応答をする。発表内容は研究史、研究状況、研究目的、研究上の疑問点、資料・文献の収集経過などである。
16	卒業論文の題目確定	研究構想発表会での質疑応答を踏まえ、研究課題・構想の妥当性、研究課題説明の方策などを検討し、研究論文の題目を確定する。
17	卒業論文の章立て（1）	資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。
18	卒業論文の章立て（2）	資料・参考文献の収集経過、論文題目などから総合的に研究論文の目次構成を確定する。
19	卒業論文の提出計画	研究上の問題点を解決し、論文執筆と論文提出に向けて、具体的な論文提出工程計画表を作成する。
20	卒業論文の執筆（1）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。
21	卒業論文の執筆（2）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。
22	卒業論文の執筆（3）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。
23	卒業論文の執筆（4）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。
24	卒業論文の執筆（5）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。
25	卒業論文の執筆（6）	研究論文を執筆し、適宜論文内容について指導と助言をうける。
26	卒業論文の加筆（1）	研究論文の過不足を点検、補正し、研究論文の提出に備える。
27	卒業論文の加筆（2）	研究論文の過不足を点検、補正し、研究論文の提出に備える。
28	卒業論文の点検	直前の研究論文提出に備え、研究論文を最終的に点検する。
29	卒業論文発表会（1）	日本史所属の学生による発表会の予行演習
30	卒業論文発表会（2）	日本史所属の学生による発表会の予行演習

<b>科目名</b>	生涯学習概論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	佐久間 邦友			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 生涯学習の提唱や各種審議会答申、国、自治体の施策等を通じて、生涯学習の意義や必要性等を学ぶことが授業のねらいである。途中、学生個々人の学習を「考現学」の視点より考察することで、学生自身の生涯学習への示唆、そして向上をはかるものである。授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。また、現役の社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、講演会を開催する予定である。そして、生涯学習の理論や歴史的な変遷、法制度に関して理解し、自ら生涯学習に関するプログラムを開発することによって、生涯学習の意義や理念の認識に到達することが、通年の授業目標である。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>①「生涯学習」と「社会教育」について説明ができるようになったか。 ②生涯学習の意義と必要性を理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	社会教育主事・図書館司書・学芸員課程履修者 この科目の履修を希望する者	<b>成績評価 方法</b>	試験（50%）、レポート（30%）、授業参画度（20%）	
<b>教科書</b>	佐藤晴雄『生涯学習概論第1次改訂版』学陽書房 2016年 板野博行『大学生生活を極める55のヒント』大和書房 2015年			
<b>参考書</b>	佐藤晴雄『学習事業成功の秘訣！研修・講座のつくりかた』東洋館出版社 2013年 ※そのほか授業中に適宜紹介する。			
<b>学生への要望</b>	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 「学習」とは何か
2	生涯学習と社会教育（1）	1. 生涯学習と社会教育の関係 2. 生涯学習と生涯教育の定義 3. 生涯学習と一般行政
3	生涯学習と社会教育（2）	1. 社会教育の定義 2. 社会教育と成人教育 3. 社会教育と市民活動
4	生涯学習と社会教育の歴史（1）	1. 明治時代の社会教育 2. 大正時代の社会教育口 3. 昭和初期の社会教育～戦時期まで～
5	生涯学習と社会教育の歴史（2）	1. 戦後の社会教育 2. 社会教育法の大改正 3. 生涯学習の展開期
6	生涯教育論の登場	1. ユネスコの生涯教育論 2. OECDのリカレント教育
7	生涯学習と学校教育（1）	1. 生涯学習における学校教育と社会教育の位置 2. 生涯学習体系への移行
8	生涯学習と学校教育（2）	1. 生涯学習における学校教育の役割 2. 学校支援ボランティア 3. 学校支援地域本部事業
9	生涯学習の方法と内容（1）	1. 生涯学習の機会と形態 2. 生涯学習と社会教育の方法
10	生涯学習の方法と内容（2）	1. 生涯学習内容の分類 2. 学習事業における学習内容の状況 3. 学習内容の制約
11	学生生活と考現学	1. 考現学とは何か 2. 昔の学生生活 3. 今の学生生活
12	学生生活の今と昔（1）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
13	学生生活の今と昔（2）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
14	学生生活の今と昔（3）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
15	学生生活の今と昔（4）	1. テキストの輪読 2. 情報共有 3. I期のまとめ
16	生涯学習と社会教育の計画	1. 生涯学習推進計画 2. 社会教育計画・生涯学習推進計画の種類 3. 社会教育計画と財政 4. 社会教育の経営と評価

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
17	学習プログラムの編成 (1) ①	1. 学習プログラム何か 2. 学習プログラムのタイプ
18	学習プログラムの編成 (2)	1. 学習プログラム編成の視点 2. 学習プログラムの作成
19	生涯学習関連行政の仕組み (1)	1. 社会教育行政とは何か 2. 社会教育行政の役割と組織 3. 社会教育関係団体と社会教育行政
20	生涯学習関連行政の仕組み (2)	1. 生涯学習関連行政の組織 2. 生涯学習推進体制 3. NPO関連事項
21	生涯学習と社会教育職員	1. 社会教育主事 2. その他の職員・指導者
22	生涯学習と社会教育施設 (1)	1. 社会教育施設 2. 社会教育施設と生涯学習関連施設
23	生涯学習と社会教育施設 (2)	1. 図書館とは 2. 図書館の現状と課題 3. 未来の図書館
24	生涯学習と社会教育施設 (3)	1. 博物館とは 2. 博物館の現状と課題 3. 未来の博物館
25	生涯各期の教育課題 (1)	1. 発達課題と生涯学習 2. 青少年教育
26	生涯各期の教育課題 (2)	1. 成人教育 2. 高齢者教育 3. 女性教育
27	生涯学習と社会教育をめぐる課題 (1)	1. 社会教育・生涯教育と学校との連携の推進 2. 社会教育行政の一般行政化の動向
28	生涯学習と社会教育をめぐる課題 (2)	1. 社会教育施設の市民施設化 2. 社会教育施設使用料の有料化 3. 社会教育施設の委託化・指定管理者制度
29	授業の確認テストと解説	1. 確認テスト 2. テストの解説
30	授業のまとめ	1. 授業の総まとめ

平成29年度

<b>科目名</b>	社会教育計画	<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 文化学科 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	仲田 佐和子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	生涯学習社会の形成を目指す社会教育計画立案の理論と方法の基礎的事項を理解する。		
<b>達成目標</b>	社会教育計画立案の理論と方法の基礎的事項を理解し、社会教育主事補としての知識を習得する。		
<b>受講資格</b>	文化学科1年生	<b>成績評価 方法</b>	①授業への積極的な姿勢20点 ②レポート80点（40点×2回）
<b>教科書</b>	使用しない。資料を配布する。		
<b>参考書</b>	伊藤俊夫・他著「新訂 生涯学習概論」（社会教育実践研究センター）		
<b>学生への要望</b>	新聞、テレビ等のニュースに関心を持ち、今日的な課題意識を高めてほしい。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日V時限、水曜日IV時限。創学館No.4研究室。		
<b>自学自習</b>	毎日、新聞に目を通し、社会で注目されていることを把握する。 また、地域の広報紙にも注目し、地域の課題を知る姿勢を身につける。（1時間） 授業後はノートを整理し、疑問点を早めに解決すること。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	生涯学習の理解①	生涯学習とは何か、なぜ生涯学習が必要なのかにふれ、生涯学習のコンセプトをあらためて問い直す。
2	生涯学習の理解②	生涯学習を支えるあるべき生涯学習社会の理念を考察する。
3	生涯学習関連政策の動向①	国際社会における生涯教育の提唱から、20世紀後半における生涯学習政策論について学ぶ。
4	生涯学習関連政策の動向②	21世紀における生涯学習政策論とその特質について学ぶ。
5	生涯学習のまちづくり①	「まちづくり」の定義を考察する。さらに生涯学習のまちづくり施策の展開を検証する。
6	生涯学習のまちづくり②	国による生涯学習のまちづくり支援について学ぶ。
7	生涯学習のまちづくり③	地域における生涯学習のまちづくりについて具体的に紹介する。
8	生涯学習の推進と計画①	行政による生涯学習推進計画の策定と住民の参画について考える。
9	生涯学習の推進と計画②	生涯学習推進計画の構造について学ぶ。
10	生涯学習の推進と計画③	生涯学習推進計画をめぐる動きとして、2001年の社会教育法の改正とその後の変化について検証する。
11	生涯学習の推進と計画④	生涯学習推進計画と民間活力について考える。生涯学習を活性化するNPOの役割についてもふれる。
12	生涯学習の学習者	多様な成人学習者の特性と理解、さらに学習者としての高齢者の特性と課題について考える。
13	生涯学習と支援者・指導者	生涯学習における支援者・指導者の位置づけと、その変化について学ぶ。
14	生涯学習と支援者・指導者	生涯学習の支援者・指導者の養成、研修について学ぶ。
15	前期のまとめ	前期で学んだことをふりかえり、まとめを行う。レポート提出について指示する。
16	生涯学習の機会①	生涯学習機会としての学校のあり方と公民館の再評価について考察する。
17	生涯学習の機会②	生涯学習機会の提供者としてのNPOについて考察する。
18	生涯学習と学校	学校教育の問題点と社会の教育・学習システムの相互連携について考える。
19	生涯学習の内容①	学習内容の分類とその変遷について学ぶ。「社会教育調査」における学習内容の変遷について検証する。
20	生涯学習の内容②	「生涯学習に関する世論調査」における学習内容の変遷について検証する。
21	生涯学習の方法・形態①	家庭教育・学校教育・社会教育の特性を考え、それぞれを比較してみる。
22	生涯学習の方法・形態②	生涯学習の学習形態を学習者の参加形態から分類してみる。
23	生涯学習情報の提供と学習相談①	情報社会における学習情報と学習情報提供のタイプについて考える。
24	生涯学習情報の提供と学習相談②	多様な学習相談と、それに対応する学習相談員に求められている資質、能力について考える。
25	生涯学習情報の提供と学習相談③	情報格差、個人情報保護と情報セキュリティなど、学習情報提供と学習相談の課題について考える。
26	生涯学習成果の評価と認証	生涯学習成果の評価と認証をめぐる動向と論点について学ぶ。
27	生涯学習成果の評価と認証	生涯学習成果の評価の特質を考え、評価主体別にみた生涯学習成果の評価の枠組みについて学ぶ。
28	生涯学習成果の評価と認証	生涯学習成果の他者評価の功罪について考える。
29	生涯学習成果の評価と認証	学習者中心の自己評価とポートフォリオについて考える。
30	後期のまとめと1年間のまとめ	後期及び1年間をふりかえり、まとめを行う。レポート提出について指示する。

平成29年度

科目名	社会教育演習		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 4単位 選択
担当教員	仲田 佐和子			
開講期	通年			
授業概要	生涯学習社会における指導者としての実践能力を高めることを目標とする。 特に「地域」「女性」をキーワードに、身近な今日的課題を取り上げ、演習をととしてそれらを解決していく資質を養成する。			
達成目標	「地域」の今日的な課題に自ら気づき、解決する方法を身につける。 また、「女性」のライフサイクルを想定して、さまざまな場面で指導者としての実践できる能力を高める。			
受講資格	文化学科2年生	成績評価 方法	①授業への積極的な姿勢20点 ②授業内の発表20点 ③レポート60点	
教科書	使用しない。資料を配布する。			
参考書	適宜紹介する。			
学生への要望	新聞、テレビ等のニュースに関心を持ち、今日的な課題意識を高めてほしい。 また、演習であるため、授業での発言やディスカッション、グループワークへの積極的な参加を期待する。			
オフィスタイム	火曜日V時限、水曜日IV時限。創学館No.4研究室。			
自学自習	毎日、新聞に目を通し、社会で注目されていることを把握する。 また、地域の広報紙にも注目し、地域の課題を知る姿勢を身につける。(1時間) 公民館等でのボランティアや事業への参加など、現場を知る経験をしてほしい。(土日や夏休みなど)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	1年間の授業について概要を説明する。 社会教育における今日的な課題について、身のまわりからキーワードを探す。
2	時代の変遷と社会教育	社会教育の意義、特性について再確認するとともに、2001年の社会教育法の改正とその後の変化について検証す
3	地域社会と公民館	公民館建設の歴史的意義について学ぶ。 さらに、公民館活動の地域性とその役割について考える。
4	公民館事業①～広報の役割	自分の住んでいる地域の広報を持ち寄り、それぞれ比較、検討してみる。
5	公民館事業②～青少年活動	公民館事業の中で、青少年活動にはどのようなものがあるかを学び、その意義と特性について考察する。
6	公民館事業③～高齢者学級	公民館事業において高齢者学級の意義や課題について学び、少子高齢化に向けての事業を考察する。
7	公民館事業④～女性のライフサイクル	公民館事業において、女性のライフサイクルに合った事業はどのようなものがあるのかを学び、ライフサイクルによって様々な役割を担う女性にとつてのより良い社会教育とは何かを考察する。
8	地域社会と社会教育①	公民館事業を手がかりに、地域社会と様々な年代が関係する社会教育について考えてきたが、それらをもとに自分の住んでいる地域の課題について掘り起こす。
9	地域社会と社会教育②	それぞれの地域の課題解決の方策を具体的に考えてみる。
10	地域社会と社会教育③	地域の今日的な課題を解決するための方法や、考えられる連携について二回にわたって発表し、討論する(その1)。
11	地域社会と社会教育④	地域の今日的な課題を解決するための方法や、考えられる連携について二回にわたって発表し、討論する(その2)。
12	公民館見学①	公民館の実際を知るため、見学に行く。
13	公民館見学②	見学した公民館についての感想を話し合う。
14	公民館事業の企画に向けて①	夏休みに訪問する公民館について、各自で計画を立てる。 また、あらかじめその公民館について調べ、特徴を知り、訪問する際の視点を決める。
15	公民館事業の企画に向けて②	訪問する公民館について発表し、より良い訪問となるよう話し合う。
16	公民館事業の企画に向けて③	訪問した公民館についての感想、気づいたことなどを発表する。
17	公民館事業の企画①	訪問した公民館の地域性、特徴をいかした事業を企画する。 ディスカッションを加えながら作業する(その1)。
18	公民館事業の企画②	訪問した公民館の地域性、特徴をいかした事業を企画する。 ディスカッションを加えながら作業する(その2)。
19	公民館事業の企画③	訪問した公民館の地域性、特徴をいかした事業を企画する。 ディスカッションを加えながら作業する(その3)。
20	公民館事業の企画④	各自が立案した企画について、中間発表を行う。
21	公民館事業の企画⑤	中間発表の成果をもとに、より良い企画となるよう検討を加える(その1)。
22	公民館事業の企画⑥	中間発表の成果をもとに、より良い企画となるよう検討を加える(その2)。
23	公民館事業の企画⑦	中間発表の成果をもとに、より良い企画となるよう検討を加える(その3)。
24	公民館事業の企画⑧	検討を加えた公民館事業の企画を発表し、討論する。
25	公民館事業の企画書づくり①	開催を想定した企画書を作成してみる。
26	公民館事業の企画書づくり②	開催する事業についての広報活動を考える。
27	まとめ1	これまでに取り組んだ企画の仕上げを行う。
28	まとめ2	企画書の印刷、製本作業を行う。
29	公民館事業企画発表会	でき上がった冊子をもとに、最終発表会を行う。
30	今後の社会教育を展望する	学生自身も学校教育から卒業を迎えるにあたり、これからの自分のライフサイクルと地域社会との関わり方をあらためて考え、今後の社会教育を展望する。

平成29年度

<b>科目名</b>	社会教育特講 I		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	仲田 佐和子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	社会構造の変動と人生各期の諸問題を幅広い視野に立って考察し、これらに対応する社会教育の在り方について理解する。さらに、地域における今日的課題にも注目し、身近な問題から地域に貢献できる社会教育主事補の養成を目指す。			
<b>達成目標</b>	地域の問題に気づき、そこから広い視野に立って考察し、地域に貢献できる社会教育主事補の知識を習得する。			
<b>受講資格</b>	文化学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	①授業への積極的な姿勢20点 ②レポート80点 (40点×2回)	
<b>教科書</b>	使用しない。資料を配布する。			
<b>参考書</b>	『生涯学習・社会教育行政必携』 文部科学省内生涯学習・社会教育行政研究会編			
<b>学生への要望</b>	新聞、テレビ等のニュースに関心を持ち、今日的な課題意識を高めてほしい。 また、自主的に公民館等の社会教育施設の事業等に参加してほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日V時限、水曜日IV時限。創学館No.4研究室。			
<b>自学自習</b>	毎日、新聞に目を通し、社会で注目されていることを把握する。 また、地域の広報紙にも注目し、地域の課題を知る姿勢を身につける。(1時間) 授業後はノートを整理し、疑問点を早めに解決すること。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	情報社会①	社会の変遷と情報手段の変化について考える。□
2	情報社会②	情報社会における社会教育について考察する。□
3	学習活動と学習情報①	教育の情報化と情報教育について具体的に紹介する。□
4	学習活動と学習情報②	学習情報提供の目的と範囲及び学習情報収集と提供について学ぶ。□
5	学習活動と学習情報③	学習情報提供システムの構築と課題□について考察する。□
6	国際化と社会教育①	国際化の意義と社会教育の展開について学ぶ。□
7	国際化と社会教育②	国際理解教育と社会教育施設の事業について具体的に紹介する。
8	ユネスコ活動①	ユネスコ設立・目的・事業及び日本の参加協力について学ぶ。□
9	ユネスコ活動②	民間ユネスコ協会の推移と活動について具体的に紹介する。□
10	環境教育①	地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、生活排水等の環境問題の概要について学ぶ。□
11	環境教育②	環境教育の目的と基本的な考え方について学ぶ。□
12	環境教育③	生涯にわたる環境教育の在り方について考える。□
13	環境教育④	環境を守る実践力の育成と学習の展開について考察する。□
14	消費者教育①□	消費者（生活者）をとりまく環境条件と消費者問題について具体的に紹介する。□
15	消費者教育②	行政・企業が行っている消費者教育の実際について検証する。□
16	消費者教育③	社会教育行政が行う消費者教育のすすめ方について学ぶ。□
17	ライフサイクルと発達課題①	ライフサイクルの意義とライフステージにおける発達課題について考える。□
18	ライフサイクルと発達課題②	「ハヴィガーストの人生6段階説」、「エリクソンの人生8段階説」と学習課題について学ぶ。□
19	男女共同参画と社会教育	女性のライフサイクルの変化と生涯学習について考える。□
20	青年期の諸問題と社会教育	就職・結婚・出産・育児期をめぐる問題について考える。□
21	青年期の諸問題と社会教育	近代における家族生活の推移及び家庭の機能と家庭教育支援□について学ぶ。□
22	青年期の諸問題と社会教育	青少年の成長発達と課題、青少年をめぐる犯罪等と社会教育の役割について考える。□
23	成人期の諸問題と社会教育	成人の生活と成人の学習とその課題□について考える。□
24	成人期の諸問題と社会教育	成人期における学習者としての特性、学習課題と社会教育について学ぶ。□
25	女性にかかる諸問題と社会教育①	女性にかかる諸問題と社会教育活動□について考える。□
26	女性にかかる諸問題と社会教育②	ジェンダー、女性と人権について考える。□
27	高齢期の諸問題と社会教育	高齢化社会の現状と高齢期の発達課題について学ぶ。
28	高齢期の諸問題と社会教育	健康・医療・福祉行政等と社会教育の連携について考える。
29	社会教育の今日的課題①	家庭教育力の向上と社会教育について考える。□
30	社会教育の今日的課題②	地域教育力の再生と社会教育について考える。□

平成29年度

<b>科目名</b>	社会教育特講Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	仲田 佐和子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	明治以降の社会教育史並びに社会教育関係団体に触れながら社会教育行政・社会教育団体論を中心として、社会教育活動・事業について概観する。			
<b>達成目標</b>	社会の変化に応じた社会教育行政、社会教育活動の実際を理解し、柔軟に対応できる知識を習得する。			
<b>受講資格</b>	文化学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	①授業への積極的な姿勢20点 ②レポート80点（40点×2回）	
<b>教科書</b>	使用しない。資料を配布する。			
<b>参考書</b>	「生涯学習・社会教育行政必携」 文部科学省生涯学習・社会教育行政研究会編			
<b>学生への要望</b>	新聞、テレビ等のニュースに関心を持ち、今日的な課題意識を高めてほしい。 また、社会教育関連団体活動等に参加するなど、地域活動・ボランティア活動を行うことが望ましい。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日Ⅴ時限、水曜日Ⅳ時限。創学館No.4研究室。			
<b>自学自習</b>	毎日、新聞に目を通し、社会で注目されていることを把握する。 また、地域の広報紙にも注目し、地域の課題を知る姿勢を身につける。（1時間） 授業後はノートを整理し、疑問点を早めに解決すること。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	教育行政	行政の意義、教育行政の仕組みと役割について学ぶ。□
2	社会教育行政	社会教育行政の仕組みと役割、社会教育行政に関する法律と答申について学ぶ。□
3	社会教育職員①	社会教育主事の資格と職務について学ぶ。□
4	社会教育職員②	社会教育主事の課題と役割について考える。□
5	社会教育職員③	社会教育委員の制度と任務について学ぶ。□
6	社会教育施設①	公民館の沿革・目的・事業及び職員□について学ぶ。□
7	社会教育施設②	まちづくりと公民館について考える。□
8	社会教育施設③	博物館・図書館の目的・運営・事業及び職員について学ぶ。□
9	社会教育施設④	青少年教育施設の目的・運営・事業及び職員について学ぶ。□
10	社会教育施設⑤	女性教育施設の目的・運営・事業及び職員について考える。□
11	社会教育施設⑥	スポーツ・文化施設の目的、運営、事業及び職員について学ぶ。□
12	生涯学習と通信教育①	学校開放による社会教育事業、リカレント教育とリフレッシュ教育について学ぶ。□
13	生涯学習と通信教育②	社会通信教育と放送大学について考える。□
14	社会教育事業と国庫補助	社会教育事業における国庫補助の意味と国庫補助事業について具体的に紹介する。□
15	社会教育行政以外の行政と社会教育①	学校教育との連携協力について考える。□
16	社会教育行政以外の行政と社会教育②	福祉行政と社会教育、保健行政と社会教育の関係と連携について学ぶ。□
17	社会教育行政以外の行政と社会教育③	環境行政と社会教育について学ぶ。□
18	企業内教育等と社会教育①	企業内教育と社会教育、カルチャーセンターが行う教育事業について具体的に紹介する。□
19	企業内教育等と社会教育②	民間活力と社会教育、PFI事業について学ぶ。□
20	社会教育関係団体の育成	社会教育関係団体活動の意義と課題□について考える。□
21	少年団体と社会教育①	少年教育と少年団体活動の意義・特質と指導者の種類について学ぶ。□
22	少年団体と社会教育②	地域子供会・スポーツ少年団等の組織・運営・活動の実際について具体例をあげて考える。□
23	成人団体と社会教育①	PTA、地域青年会、地域婦人会結成の沿革について学ぶ。□
24	成人団体と社会教育②	地域婦人会の組織・運営・活動の実際について具体例を検証する。□
25	成人団体と社会教育③	NGO、NPO等市民団体の組織について学ぶ。□
26	成人団体と社会教育④	NGO、NPO活動の実際について具体例を検証する。□
27	体験活動と社会教育①	体験活動の意義について考える。
28	体験活動と社会教育②	体験活動の実態と今後の対応について考察する。□
29	ボランティア活動と社会教育①	ボランティアの語源・意味とボランティア活動の内容について学ぶ。□
30	ボランティア活動と社会教育②	青少年期ボランティア活動の現状と青少年ボランティアの育成について考える。



平成29年度

<b>科目名</b>	図書館概論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	和知 剛		
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	図書館の社会的な役割りと総括的なシステムを学ぶ授業です 図書館や図書館を取り巻く類縁機関とのつながりを、法的根拠や社会組織の仕組みとともに俯瞰的に理解します		
<b>達成目標</b>	「図書館はなんのためにあるのか」という問いを自分で考える考え方や、民主主義を守る図書館の意義を学び、図書館について概略を得るのが目標です		
<b>受講資格</b>	文化学科の学生 科目等履修生	<b>成績評価 方法</b>	出席は学則規定による 必読文献の理解 40% 提出レポート 60%
<b>教科書</b>	特定の教科書は定めませんが、授業の初回時に文献リストを配布します		
<b>参考書</b>	そのつど紹介します		
<b>学生への要望</b>	図書館の存在意義を知るには、図書館について書かれた文献を読むだけでは不十分です 図書館を取り巻く社会変化や市民意識、政治の判断や歴史認識など、図書館は社会と密接にかかわっています その理解のためにも、関連する文献を広く読むことが求められます		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日15時～17時 図書館2F 館長室 水曜日10時～16時 木曜日15時～17時		
<b>自学自習</b>	一覧表の参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	これから図書館のことを学ぶにあたって	二年間で図書館の何を学ぶのか 授業基準配布 説明 ミニット・ペーパー「図書館はなんのためにあるのか」提出
2	図書館の定義と意義	図書館の種類と役割 (国立図書館・公共図書館・大学図書館・学校図書館・専門図書館) 私設図書館 児童図書館
3	図書館の法律基盤	日本国憲法 教育基本法 社会教育法 図書館法 地方自治法 国、地方自治体、議会などとの図書館のつながり
4	連携する図書館と類縁機関	博物館(博物館・美術館・動物園・水族館・郷土資料館...) ) 文書館という記録組織
5	図書館の理念	「図書館の自由に関する宣言」 図書館員の倫理と「倫理綱領」 UNESCO図書館宣言
6	図書館という情報基地をつかう	映像資料「情報基地への招待ー図書館は世界へ開かれたまどー」鑑賞 解説 情報リテラシーの拠点 あらゆる情報ニーズに応える ネットワークで世界の図書館とつながっている 蔵書を探したず仕組み OPAC
7	学校図書館の制度と機能	学校図書館をめぐる諸問題 学校図書館と公共図書館とのネットワーク 市川市 映像資料「司書教諭の仕事」鑑賞 解説 UNESCO学校図書館宣言 映像資料「公共図書館による学校支援サービス」鑑賞 千葉県市川市中央図書館 市川市教育委員会教育センター
8	大学図書館の機能とネットワーク	文献検索 研究機能 学術情報システム 雑誌記事索引 大学図書館の連携
9	多様な図書館サービス	映像資料「多様な側面からとらえた図書館サービス」鑑賞 解説 情報技術 運営形態 連携協力 施設計画 岡山県立図書館 大阪府立中之島図書館 稲城市立中央図書館 千代田区立図書館
10	図書館をとりまくさまざまな組織や業界	出版 国際組織と全国規模の日本図書館協会 IFLA(国際図書館連盟)と各国の国立図書館 図書館にかかわる研究組織、実務研修組織 日本図書館情報学会
11	文字の歴史 記録の歴史	映像資料「Empire of the word Vol.1」鑑賞 解説 文字の起源 記録ということ 聖書の写本 古代の図書館
12	書写材料の歴史	映像資料「様々な書写材料」鑑賞 解説 書写材料(パピルス・羊皮紙・紙) 活版印刷の発明
13	活版印刷という発明 活版印刷の終焉	映像資料「東西印刷技術のあけぼの」鑑賞 解説 ゲーテンベルグ 印刷とワインの意外な関係 江戸の印刷本 江戸時代の書物と出版

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	情報の達人	映像資料「レポート 論文の書きかた」鑑賞 解説 配布資料「レポートを書くための10のステップ」解説 図書館の資料を探す ルースリーフを使う B6カードを使う
15	これからの図書館を考える	映像資料「図書館はどう変わるか」鑑賞 解説 討論 書物の文化史 電子図書館 図書館と書物の未来

平成29年度

科目名	博物館概論	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
担当教員	会田 容弘		
開講期	I		
授業概要	博物館概論とは博物館法施行規則に記載されている博物館学芸員資格を取得するための必修科目のひとつである。本科目を履修する学生は博物館学芸員資格を取得し、将来博物館学芸員という職業に就くことを希望し、学芸員としての専門性は各自の専攻分野によって養われつつあることが前提となる。博物館概論もその専門性と密接にかかわる部分がある。特に文化学科では選択専門科目でもあることから、法規、倫理、歴史、学芸員の仕事など博物館について広範囲に学習する。		
達成目標	<到達目標>博物館学芸員課程科目の基礎を理解し、博物館の専門分野の理解に至るに、十分な知識を獲得すること。博物館利用者として、十分な知識を持つこと。		
受講資格	文化学科学生。	成績評価 方法	レポートと試験(レポート50%、試験50%)。60点以上で合格とする。学芸員資格取得には80%以上の授業理解を求める。
教科書	博物館概論		
参考書	地域資料館の挑戦		
学生への要望	博物館で将来働くことを希望する学生はなるべく多くの博物館施設を見学していることが望ましい。また、博物館が置かれている社会状況についても十分注意を払ってほしい。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。重要な質問がある場合は事前にメールでアポをとってから面会に来ること。		
自学自習	予習：前回の講義内容を確認し、授業内容の教科書・参考文献を読んでおくこと。(1時間) 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。(1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	0：博物館学の受講の前に	博物館学は文化学科選択専門科目であると同時に、資格課程の学芸員補の必修科目である。学芸員資格を取得するための方法、及び学芸員資格取得に必要な必修科目、選択科目に博物館法施行規則ののっとり、説明を行う。
2	1：博物館とは何か	教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－取り扱いに基づいて、日本における博物館の位置づけを説明する。
3	2：続・博物館とは何か	博物館の機能について、博物館法をもとに説明する。
4	3：さまざまな博物館	博物館はその収集展示する資料による分類、設立主体による分類、博物館法による制度別分類、運営手法による分類、機能による分類、資料の展示場所による分類ができる。実例をあげながらそれを説明する。
5	4：博物館学芸員の役割(1)	博物館法、それぞれの博物館条例に記載された博物館学芸員の役割について、法規に基づいた説明を行う。
6	5：博物館学芸員の役割(2)	奥松島縄文村歴史資料館学芸員の実例をあげながら、学芸員の一年を通した仕事内容を説明する。
7	6：博物館の歴史(1)	欧米における博物館の成立から現代にいたる博物館について、通史的に説明する。
8	7：博物館の歴史(2)	日本における近代博物館の歴史は東京国立博物館の歴史でもある。国威発揚の帝室博物館、教育施設としての科学博物館を対比しながら説明する。
9	8：博物館の歴史(3)	地方博物館は1970年代から整備される。それ以前にも博覧会、私立博物館、私立美術館、水族館などが地方に建設されていた。東北地方の博物館の歴史をみてゆく。
10	9：博物館組織と運営	博物館法に基づいた博物館組織を説明し、実例をあげてその運営を解説する。
11	10：生涯学習と博物館、地域社会と博物館	生涯学習をおこなう博物館の実例をあげて説明する。地域社会と博物館の関係をとりあげ説明する。
12	11：学校教育と博物館、文化財保護と博物館、自然保護と博物館	学校教育と連携した博物館の実例の説明、文化財保護・自然保護を押し進める博物館の実例をあげて説明する。
13	12：博物館の現状と課題(1)	博物館の置かれているさまざまな問題について検討する。博物館法改正の現状や指定管理者制度導入、平成の大合併による市町村博物館の実態などについて実例をあげて検討する。
14	13：博物館の現状と課題(2)	これからの博物館について、望ましい姿を模索する。
15	14：博物館の危機管理	3・11東日本大震災で博物館は多くの被災した。これらのことから博物館における危機管理の問題が改めて注目されている。阪神大震災などと比較しながら博物館の被害状況、対応、再生を考えてみたい。

平成29年度

<b>科目名</b>	博物館資料論		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	佐藤 愛未			
<b>開講期</b>	II			
<b>授業概要</b>	博物館・文書館・図書館における歴史資料の管理・取り扱い方・目録作成の方法を学ぶ。 ①博物館ほか社会教育機関における歴史資料の重要性、活用方法、保存管理方法などを学ぶ。 ②歴史資料の取り扱い方法、史料の整理方法などの実例を紹介・実践し、博物館ほか社会教育機関における歴史資料の活用及び保存管理する意義を考察する考える。			
<b>達成目標</b>	歴史資料の取り扱い、活用・保存における基礎的知識を習得し、適切な学芸員能力を育成する。			
<b>受講資格</b>	文化学科1年生	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点	
<b>教科書</b>	適宜プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版、1997年 安藤正人『記録史料学と現代』吉川弘文館、1998年 林英夫監修『新編 古文書解説事典』柏書房、1993年 ほかに適時指示する。			
<b>学生への要望</b>	次年度実施予定の「博物館実習」の課外実習に臨むための重要な講義となっているので、問題意識を持って受講し、講義内容を復習すること。また、博物館の展示を出来るだけ多く観覧し、関連する資料や文献を講読すること。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅳ時間目。創学館4階、No.4研究室			
<b>自学自習</b>	事前学修：提示されている参考書及び博物館に関する文献を読む(1時間) 事後学修：授業時配布プリントによる復習(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入（ガイダンス）	歴史資料（主に博物館資料）とは何かを概説し、今後の授業計画を説明する。
2	資料化の過程	博物館における資料（モノ）の収集から整理、管理、活用までの過程を学ぶ。
3	資料の収集（1）	博物館など社会教育機関における資料の収集は、その館の基本的性格や目的にそって行うことが重要となってくる。そこで、資料収集における理念と原則について考える。
4	資料の収集（2）	博物館など社会教育機関における資料（モノ）の収集の方法について、どのような手法によって収集するのかを検証する。
5	資料の整理方法（1）	収集・受け入れを行った資料は、分類を行い整理され、登録し管理される。そこで、収集されるまでの過程を学ぶ。
6	資料の整理方法（2）	資料は整理される際に史料概要の情報を資料カードや目録作成によってデータ化し管理する。その意義と方法について考える。
7	資料の整理方法（3）	博物館など触れる機会が多いモノ資料や古文書について、形態や表題の取り方など目録の形式を説明し、古文書の資料目録作成方法を実践的に学ぶ。
8	資料の整理方法（4）	目録を作成するために必要な古文書の取扱い方、読み方について説明する。また、実際に古文書を読んで古文書の読み方を学ぶ。
9	資料の整理方法（5）	古文書の読み方について学び、そこから実際に古文書を読んで目録作成を実践する。また、目録作成の過程やデータ化される資料の情報内容について考える。
10	資料の保存と活用（1）	博物館ほか社会教育機関では、収集資料の資料および作成した目録データの公開が行われている。そこから、資料の活用方法また、データの管理について考察する。
11	資料の保存と活用（2）	博物館では、研究紀要などの研究成果を発表する刊行物が出版されている。では、博物館における調査・研究について、何を対象とし、いかなる方法があるのかを検証する。
12	資料の保存と活用（3）	博物館において、収集され登録された資料は収蔵庫に保存され、管理される。それにあたって、収集資料の保存方法や収蔵庫の条件・環境などが課題となる。資料の保存方法について検証する。
13	資料の保存と活用（4）	資料は受け入れする際、その資料の状態は様々である。そのため、収蔵庫で管理するために、資料の処理や修復・修理が行われる。以上について、実例をいくつか紹介し、資料保存の在り方について考える。
14	資料の保存と活用（5）	資料公開は、展示が代表的なものとなるが、研究者や市民への資料閲覧なども行われている。そして、近年では資料の画像データ化し、インターネット公開を行う機関が増加している。これらの公開方法について検証する。
15	まとめ～今後の史資料活用や保存～	これまでの講義を念頭に置きつつ、資料を保存管理、活用する側とその利用者側との関係や、資料保存や活用における今後について展望する。

平成29年度

<b>科目名</b>	博物館経営論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	藤原 妃敏		
<b>開講期</b>	IV		
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 学芸員として身につけておかなければならない、博物館のさまざまな形態と活動における管理・運営について理解を深め、博物館経営に関する基本的な能力を養うことを目標とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 博物館の管理・運営の根拠となる法令、財政、組織の概要と博物館経営の実際について事例をあげながら解説する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 博物館を利用者側としてだけでなく、管理・運営する側として、何が必要なのかについて理解を深める。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 学芸員として身につけておかなければならない、博物館のさまざまな形態と活動における管理・運営について理解を深め、博物館経営に関する基本的な能力を養うことを目標とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 博物館の管理・運営の根拠となる法令、財政、組織の概要と博物館経営の実際について事例をあげながら解説する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 博物館を利用者側としてだけでなく、管理・運営する側として、何が必要なのかについて理解を深める。</p>		
<b>受講資格</b>	文化学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	レポート40点、期末試験60点
<b>教科書</b>	なし。プリント配布		
<b>参考書</b>	特に指定しない		
<b>学生への要望</b>	出席を重視します。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日Ⅱ限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	博物館経営（ミュージアムマネージメント）の概要を説明する。
2	博物館法および関連法規	博物館法、博物館施行規則、望ましい基準に示されている博物館経営内容について説明する。
3	博物館の行政制度	行政内における公立博物館の位置づけについて具体的事例をあげて説明する。
4	博物館の財政制度	公立博物館における予算の作成について具体的事例を挙げながら説明する。
5	博物館の施設・設備	博物館の施設、設備の特徴について具体的な事例について説明する。
6	博物館の組織と職員	博物館の組織を具体的例をあげて提示し、それぞれの職務内容を説明する。
7	博物館の経営（1）	福島県立博物館を例にとり、その設立に至る経過、設立意義、条例などに基づきその使命を説明する。
8	博物館の経営（2）	福島県立博物館の一年を通じた博物館運営の実例を紹介し、博物館経営の実際を説明する。
9	博物館の経営（3）	福島県立博物館の運営に関する評価方法、評価結果を提示し、博物館における評価制度の実際を説明する。
10	博物館の経営（4）	博物館における、体験学習など教育普及活動の方法と実践例について説明する。
11	博物館の経営（5）	友の会、ボランティア、支援組織の設立と運営方法について具体的事例をあげて説明する。
12	博物館の経営（6）	博物館と地域の連携について具体的事例をあげながら説明する。
13	博物館の経営（7）	博物館の危機管理、学芸員の倫理について具体的事例をあげて、説明する。
14	博物館経営の諸問題	指定管理者制度の導入、予算の削減など現在の博物館の経営に関する問題点を説明する。
15	まとめ	授業全体をふりかえるとともに、博物館経営に学芸員がどのように関わるかを実際の経験を踏まえて説明する。

科目名	博物館教育論	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	仲田 佐和子		
開講期	Ⅲ		
授業概要	本授業では、社会教育施設である博物館の役割を教育・学習の観点から検討する。現代は社会生活の多様化、高学歴化、生涯学習の普及などにより、博物館の教育的役割が今までになく重視されるようになった。このことから、博物館教育の理念・方針、実践事例などを紹介し、生涯学習時代にふさわしい博物館のあり方、利用者と博物館の関係性を考察する。		
達成目標	博物館の教育的活用・運営に必要な基本的知識を習得し、自ら課題を見つけ解決できる学芸員補としての知識を習得する。		
受講資格	文化学科2年生	成績評価 方法	①授業への積極的な姿勢20点 ②授業内の発表20点 ③レポート60点
教科書	使用しない。資料を配布する。		
参考書	①全国大学博物館学講座『新時代の博物館学』芙蓉書房出版、2012年 ②小笠原・並木・矢島『博物館教育論』ぎょうせい、2012年		
学生への要望	博物館、美術館等に関心を持って、積極的に訪れてほしい。 また、新聞等で文化財や博物館に関する記事を注意してほしい。		
オフィスタイム	火曜日V時限、水曜日IV時限。創学館No.4研究室。		
自学自習	毎日、新聞に目を通し、文化財や博物館に関する記事について考察する。(1時間) 博物館、美術館等の広報を常に注目し、興味、関心のある展示は積極的に観に行くとともに、感想をまとめる習慣をつける。(1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	学芸員科目改正による『博物館教育論』新設の要因を解説し、今後の授業計画を説明する。
2	福島県の博物館	福島県博物館連絡協会加盟の博物館を紹介する。規模・設置目的・収蔵資料など、県内の博物館が多様な形態であることを指摘し、財源難・入館者減・高齢化など、厳しい現状に直面している博物館を考える。
3	博物館教育の理念と目的①～生涯学習と博物館	生涯学習の考え方を検証し、生涯学習時代到来が社会の要請であることを考える。生涯学習にとって、知識意欲を啓発する博物館の教育的役割が重要であることを確認し、博物館を拠点とする生涯学習のあり方を考察する。
4	博物館教育の理念と目的②～地域社会と博物館	住民参加による地域活動の拠点としての博物館、利用者(学習者)主体の博物館運営が要請されるようになった。特定の行政区域、地域社会を基準に設置された博物館は多種多様な地域資源を収蔵しており、地域再発見の役割を考えてみる。
5	博物館教育の理念と目的③～博物館教育と学校教育	博物館と学校はともに社会教育施設であり、学芸員と学校教師は社会教育に携わる専門職である。両者の役割を比較しながら、両者の連携のあり方、学校とは異なる学習体験可能な博物館教育の独自性を検証する。
6	博物館教育の理念と目的④～博物館と学び	博物館運営は資料(モノ)・知識の一方的伝達から利用者の自己学習を支援するように変化してきた。博物館における学びの特質を利用者の視点にたって考えてみる。
7	博物館教育の方針①～博物館教育と利用者	博物館は展示見学の一般市民・研究者・学生・友の会など、年齢・興味・目的を異にする、さまざまな個人・団体に囲まれている。博物館教育に相応しい、博物館と利用者(学習者)との相互関係作りを検証する。
8	博物館教育の方針②～博物館教育の評価	社会教育施設と見做される博物館は教育的活動が地域社会や利用者(学習者)により不断に評価される。博物館は教育活動の概要を外部に提示しなければならない存在となった。評価に相応しい教育活動の企画立案と課題を考えてみる。
9	博物館教育の方針③～博物館教育と学芸員	利用者(学習者)の近くに位置する学芸員には、資料収集・展示・調査研究など多様な専門性に加えて、生涯学習支援者としての教育的役割が求められるようになった。博物館と地域社会をつなぐ学芸員像を検証する。
10	博物館教育の実際①～展示と展示解説	展示は資料(モノ)の陳列ではない。展示担当の学芸員は利用者(学習者)の学習意欲を刺激し、興味を持たせるための展示を模索しなければならない。効果的に学習行動へ導く展示のあり方を検証する。展示理解を支援する展示解説・解説シートについても説明する。
11	博物館教育の実際②～講習会と講座	展示と共に、講習会・講座は学芸員の専門的研究成果を利用者(学習者)に発信する重要な手段である。利用者の学習支援に適う講習会・講座の運用を考える。
12	博物館教育の実際③～出前講座	学校と市民を対象とした「出前講座」がある。これは学芸員が専門分野の学習メニューを作成し、直接出向いて学校支援・生涯学習支援を図るものである。利用者の掘り起こしでもある「出前講座」の実例を紹介する。
13	博物館教育の実際④～ワークショップ	博物館教育は一方的に知識・情報を伝達することではない。「ワークショップ」は利用者(学習者)の主体性を重視した参加・体験型の教育活動である。新たな学びを創出する「ワークショップ」の実例を紹介する。
14	博物館教育の実際⑤～博物館友の会	博物館友の会は会員の相互親睦団体であり、博物館の支援団体である。会員は学芸員と共に博物館の教育活動を創造していく存在である。生涯学習の一翼を担うようになった博物館の友の会活動支援を検証する。これまでの講義内容を念頭に、生涯学習時代の社会が要請する利用者(学習者)主体の博物館教育を展望する。
15	まとめ～博物館教育の今後	これまでの講義内容を念頭に、生涯学習時代の社会が要請する利用者(学習者)主体の博物館教育を展望する。

<b>科目名</b>	生涯学習概論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	佐久間 邦友			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい] 生涯学習の提唱や各種審議会答申、国、自治体の施策等を通じて、生涯学習の意義や必要性等を学ぶことが授業のねらいである。途中、学生個々人の学習を「考現学」の視点より考察することで、学生自身の生涯学習への示唆、そして向上をはかるものである。授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。また、現役の社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、講演会を開催する予定である。そして、生涯学習の理論や歴史的な変遷、法制度に関して理解し、自ら生涯学習に関するプログラムを開発することによって、生涯学習の意義や理念の認識に到達することが、通年の授業目標である。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>①「生涯学習」と「社会教育」について説明ができるようになったか。 ②生涯学習の意義と必要性を理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	社会教育主事・図書館司書・学芸員課程履修者 この科目の履修を希望する者	<b>成績評価 方法</b>	試験（50%）、レポート（30%）、授業参画度（20%）	
<b>教科書</b>	佐藤晴雄『生涯学習概論第1次改訂版』学陽書房 2016年 板野博行『大学生生活を極める55のヒント』大和書房 2015年			
<b>参考書</b>	佐藤晴雄『学習事業成功の秘訣！研修・講座のつくりかた』東洋館出版社 2013年 ※そのほか授業中に適宜紹介する。			
<b>学生への要望</b>	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 「学習」とは何か
2	生涯学習と社会教育（1）	1. 生涯学習と社会教育の関係 2. 生涯学習と生涯教育の定義 3. 生涯学習と一般行政
3	生涯学習と社会教育（2）	1. 社会教育の定義 2. 社会教育と成人教育 3. 社会教育と市民活動
4	生涯学習と社会教育の歴史（1）	1. 明治時代の社会教育 2. 大正時代の社会教育口 3. 昭和初期の社会教育～戦時期まで～
5	生涯学習と社会教育の歴史（2）	1. 戦後の社会教育 2. 社会教育法の大改正 3. 生涯学習の展開期
6	生涯教育論の登場	1. ユネスコの生涯教育論 2. OECDのリカレント教育
7	生涯学習と学校教育（1）	1. 生涯学習における学校教育と社会教育の位置 2. 生涯学習体系への移行
8	生涯学習と学校教育（2）	1. 生涯学習における学校教育の役割 2. 学校支援ボランティア 3. 学校支援地域本部事業
9	生涯学習の方法と内容（1）	1. 生涯学習の機会と形態 2. 生涯学習と社会教育の方法
10	生涯学習の方法と内容（2）	1. 生涯学習内容の分類 2. 学習事業における学習内容の状況 3. 学習内容の制約
11	学生生活と考現学	1. 考現学とは何か 2. 昔の学生生活 3. 今の学生生活
12	学生生活の今と昔（1）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
13	学生生活の今と昔（2）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
14	学生生活の今と昔（3）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
15	学生生活の今と昔（4）	1. テキストの輪読 2. 情報共有 3. I期のまとめ
16	生涯学習と社会教育の計画	1. 生涯学習推進計画 2. 社会教育計画・生涯学習推進計画の種類 3. 社会教育計画と財政 4. 社会教育の経営と評価

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
17	学習プログラムの編成 (1) ①	1. 学習プログラム何か 2. 学習プログラムのタイプ
18	学習プログラムの編成 (2)	1. 学習プログラム編成の視点 2. 学習プログラムの作成
19	生涯学習関連行政の仕組み (1)	1. 社会教育行政とは何か 2. 社会教育行政の役割と組織 3. 社会教育関係団体と社会教育行政
20	生涯学習関連行政の仕組み (2)	1. 生涯学習関連行政の組織 2. 生涯学習推進体制 3. NPO関連事項
21	生涯学習と社会教育職員	1. 社会教育主事 2. その他の職員・指導者
22	生涯学習と社会教育施設 (1)	1. 社会教育施設 2. 社会教育施設と生涯学習関連施設
23	生涯学習と社会教育施設 (2)	1. 図書館とは 2. 図書館の現状と課題 3. 未来の図書館
24	生涯学習と社会教育施設 (3)	1. 博物館とは 2. 博物館の現状と課題 3. 未来の博物館
25	生涯各期の教育課題 (1)	1. 発達課題と生涯学習 2. 青少年教育
26	生涯各期の教育課題 (2)	1. 成人教育 2. 高齢者教育 3. 女性教育
27	生涯学習と社会教育をめぐる課題 (1)	1. 社会教育・生涯教育と学校との連携の推進 2. 社会教育行政の一般行政化の動向
28	生涯学習と社会教育をめぐる課題 (2)	1. 社会教育施設の市民施設化 2. 社会教育施設使用料の有料化 3. 社会教育施設の委託化・指定管理者制度
29	授業の確認テストと解説	1. 確認テスト 2. テストの解説
30	授業のまとめ	1. 授業の総まとめ



平成29年度

科目名	博物館概論	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
担当教員	会田 容弘		
開講期	I		
授業概要	博物館概論とは博物館法施行規則に記載されている博物館学芸員資格を取得するための必修科目のひとつである。本科目を履修する学生は博物館学芸員資格を取得し、将来博物館学芸員という職業に就くことを希望し、学芸員としての専門性は各自の専攻分野によって養われつつあることが前提となる。博物館概論もその専門性と密接にかかわる部分がある。特に文化学科では選択専門科目でもあることから、法規、倫理、歴史、学芸員の仕事など博物館について広範囲に学習する。		
達成目標	<到達目標>博物館学芸員課程科目の基礎を理解し、博物館の専門分野の理解に至るに、十分な知識を獲得すること。博物館利用者として、十分な知識を持つこと。		
受講資格	文化学科学生。	成績評価 方法	レポートと試験(レポート50%、試験50%)。60点以上で合格とする。学芸員資格取得には80%以上の授業理解を求める。
教科書	博物館概論		
参考書	地域資料館の挑戦		
学生への要望	博物館で将来働くことを希望する学生はなるべく多くの博物館施設を見学していることが望ましい。また、博物館が置かれている社会状況についても十分注意を払ってほしい。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。重要な質問がある場合は事前にメールでアポをとってから面会に来ること。		
自学自習	予習：前回の講義内容を確認し、授業内容の教科書・参考文献を読んでおくこと。(1時間) 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。(1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	0：博物館学の受講の前に	博物館学は文化学科選択専門科目であると同時に、資格課程の学芸員補の必修科目である。学芸員資格を取得するための方法、及び学芸員資格取得に必要な必修科目、選択科目に博物館法施行規則ののっとり、説明を行う。
2	1：博物館とは何か	教育基本法－社会教育法－博物館法－博物館法施行令－博物館法施行規則－基準－取り扱いに基づいて、日本における博物館の位置づけを説明する。
3	2：続・博物館とは何か	博物館の機能について、博物館法をもとに説明する。
4	3：さまざまな博物館	博物館はその収集展示する資料による分類、設立主体による分類、博物館法による制度別分類、運営手法による分類、機能による分類、資料の展示場所による分類ができる。実例をあげながらそれを説明する。
5	4：博物館学芸員の役割(1)	博物館法、それぞれの博物館条例に記された博物館学芸員の役割について、法規に基づいた説明を行う。
6	5：博物館学芸員の役割(2)	奥松島縄文村歴史資料館学芸員の実例をあげながら、学芸員の一年を通した仕事内容を説明する。
7	6：博物館の歴史(1)	欧米における博物館の成立から現代にいたる博物館について、通史的に説明する。
8	7：博物館の歴史(2)	日本における近代博物館の歴史は東京国立博物館の歴史でもある。国威発揚の帝室博物館、教育施設としての科学博物館を対比しながら説明する。
9	8：博物館の歴史(3)	地方博物館は1970年代から整備される。それ以前にも博覧会、私立博物館、私立美術館、水族館などが地方に建設されていた。東北地方の博物館の歴史をみてゆく。
10	9：博物館組織と運営	博物館法に基づいた博物館組織を説明し、実例をあげてその運営を解説する。
11	10：生涯学習と博物館、地域社会と博物館	生涯学習をおこなう博物館の実例をあげて説明する。地域社会と博物館の関係をとりあげ説明する。
12	11：学校教育と博物館、文化財保護と博物館、自然保護と博物館	学校教育と連携した博物館の実例の説明、文化財保護・自然保護を押し進める博物館の実例をあげて説明する。
13	12：博物館の現状と課題(1)	博物館の置かれているさまざまな問題について検討する。博物館法改正の現状や指定管理者制度導入、平成の大合併による市町村博物館の実態などについて実例をあげて検討する。
14	13：博物館の現状と課題(2)	これからの博物館について、望ましい姿を模索する。
15	14：博物館の危機管理	3・11東日本大震災で博物館は多くの被災した。これらのことから博物館における危機管理の問題が改めて注目されている。阪神大震災などと比較しながら博物館の被害状況、対応、再生を考えてみたい。

平成29年度

<b>科目名</b>	博物館経営論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	藤原 妃敏			
<b>開講期</b>	IV			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 学芸員として身につけておかなければならない、博物館のさまざまな形態と活動における管理・運営について理解を深め、博物館経営に関する基本的な能力を養うことを目標とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 博物館の管理・運営の根拠となる法令、財政、組織の概要と博物館経営の実際について事例をあげながら解説する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 博物館を利用者側としてだけでなく、管理・運営する側として、何が必要なのかについて理解を深める。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 学芸員として身につけておかなければならない、博物館のさまざまな形態と活動における管理・運営について理解を深め、博物館経営に関する基本的な能力を養うことを目標とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 博物館の管理・運営の根拠となる法令、財政、組織の概要と博物館経営の実際について事例をあげながら解説する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 博物館を利用者側としてだけでなく、管理・運営する側として、何が必要なのかについて理解を深める。</p>			
<b>受講資格</b>	文化学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	レポート40点、期末試験60点	
<b>教科書</b>	なし。プリント配布			
<b>参考書</b>	特に指定しない			
<b>学生への要望</b>	出席を重視します。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日Ⅱ限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	博物館経営（ミュージアムマネージメント）の概要を説明する。
2	博物館法および関連法規	博物館法、博物館施行規則、望ましい基準に示されている博物館経営内容について説明する。
3	博物館の行政制度	行政内における公立博物館の位置づけについて具体的事例をあげて説明する。
4	博物館の財政制度	公立博物館における予算の作成について具体的事例を挙げながら説明する。
5	博物館の施設・設備	博物館の施設、設備の特徴について具体的な事例について説明する。
6	博物館の組織と職員	博物館の組織を具体的例をあげて提示し、それぞれの職務内容を説明する。
7	博物館の経営（1）	福島県立博物館を例にとり、その設立に至る経過、設立意義、条例などに基づきその使命を説明する。
8	博物館の経営（2）	福島県立博物館の一年を通じた博物館運営の実例を紹介し、博物館経営の実際を説明する。
9	博物館の経営（3）	福島県立博物館の運営に関する評価方法、評価結果を提示し、博物館における評価制度の実際を説明する。
10	博物館の経営（4）	博物館における、体験学習など教育普及活動の方法と実践例について説明する。
11	博物館の経営（5）	友の会、ボランティア、支援組織の設立と運営方法について具体的事例をあげて説明する。
12	博物館の経営（6）	博物館と地域の連携について具体的事例をあげながら説明する。
13	博物館の経営（7）	博物館の危機管理、学芸員の倫理について具体的事例をあげて、説明する。
14	博物館経営の諸問題	指定管理者制度の導入、予算の削減など現在の博物館の経営に関する問題点を説明する。
15	まとめ	授業全体をふりかえるとともに、博物館経営に学芸員がどのように関わるかを実際の経験を踏まえて説明する。

平成29年度

<b>科目名</b>	博物館資料論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	佐藤 愛未			
<b>開講期</b>	II			
<b>授業概要</b>	博物館・文書館・図書館における歴史資料の管理・取り扱い方・目録作成の方法を学ぶ。 ①博物館ほか社会教育機関における歴史資料の重要性、活用方法、保存管理方法などを学ぶ。 ②歴史資料の取り扱い方法、史料の整理方法などの実例を紹介・実践し、博物館ほか社会教育機関における歴史資料の活用及び保存管理する意義を考察する考える。			
<b>達成目標</b>	歴史資料の取り扱い、活用・保存における基礎的知識を習得し、適切な学芸員能力を育成する。			
<b>受講資格</b>	文化学科1年生	<b>成績評価 方法</b>	①課題レポート30点 ②小課題10点 ③期末試験60点	
<b>教科書</b>	適宜プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	倉田公裕・矢島國雄『新編 博物館学』東京堂出版、1997年 安藤正人『記録史料学と現代』吉川弘文館、1998年 林英夫監修『新編 古文書解説事典』柏書房、1993年 ほかに適時指示する。			
<b>学生への要望</b>	次年度実施予定の「博物館実習」の課外実習に臨むための重要な講義となっているので、問題意識を持って受講し、講義内容を復習すること。また、博物館の展示を出来るだけ多く観覧し、関連する資料や文献を講読すること。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅳ時間目。創学館4階、No.4研究室			
<b>自学自習</b>	事前学修：提示されている参考書及び博物館に関する文献を読む(1時間) 事後学修：授業時配布プリントによる復習(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	導入 (ガイダンス)	歴史資料 (主に博物館資料) とは何かを概説し、今後の授業計画を説明する。
2	資料化の過程	博物館における資料 (モノ) の収集から整理、管理、活用までの過程を学ぶ。
3	資料の収集 (1)	博物館など社会教育機関における資料の収集は、その館の基本的性格や目的にそって行うことが重要となってくる。そこで、資料収集における理念と原則について考える。
4	資料の収集 (2)	博物館など社会教育機関における資料 (モノ) の収集の方法について、どのような手法によって収集するのかを検証する。
5	資料の整理方法 (1)	収集・受け入れを行った資料は、分類を行い整理され、登録し管理される。そこで、収集されるまでの過程を学ぶ。
6	資料の整理方法 (2)	資料は整理される際に史料概要の情報を資料カードや目録作成によってデータ化し管理する。その意義と方法について考える。
7	資料の整理方法 (3)	博物館など触れる機会が多いモノ 資料や古文書について、形態や表題の取り方など目録の形式を説明し、古文書の資料目録作成方法を実践的に学ぶ。
8	資料の整理方法 (4)	目録を作成するために必要な古文書の取扱い方、読み方について説明する。また、実際に古文書を読んで古文書の読み方を学ぶ。
9	資料の整理方法 (5)	古文書の読み方について学び、そこから実際に古文書を読んで目録作成を実践する。また、目録作成の過程やデータ化される資料の情報内容について考える。
10	資料の保存と活用 (1)	博物館ほか社会教育機関では、収集資料の資料および作成した目録データの公開が行われている。そこから、資料の活用方法また、データの管理について考察する。
11	資料の保存と活用 (2)	博物館では、研究紀要などの研究成果を発表する刊行物が出版されている。では、博物館における調査・研究について、何を対象とし、いかなる方法があるのかを検証する。
12	資料の保存と活用 (3)	博物館において、収集され登録された資料は収蔵庫に保存され、管理される。それにあたって、収集資料の保存方法や収蔵庫の条件・環境などが課題となる。資料の保存方法について検証する。
13	資料の保存と活用 (4)	資料は受け入れする際、その資料の状態は様々である。そのため、収蔵庫で管理するために、資料の処理や修復・修理が行われる。以上について、実例をいくつか紹介し、資料保存の在り方について考える。
14	資料の保存と活用 (5)	資料公開は、展示が代表的なものとなるが、研究者や市民への資料閲覧なども行われている。そして、近年では資料の画像データ化し、インターネット公開を行う機関が増加している。これらの公開方法について検証する。
15	まとめ～今後の史資料活用や保存～	これまでの講義を念頭に置きつつ、資料を保存管理、活用する側とその利用者側との関係や、資料保存や活用における今後について展望する。

科目名	博物館資料保存論	対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	松田 隆嗣		
開講期	IV		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基本、資料の取り扱い方および文化財の保管や公開において注意すべき基準等について学習します。また、地域の文化財の保存活用についても学習します。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 資料に劣化や害を及ぼす要因について学習するとともに資料を展示・保管している環境を調査し把握する方法や環境を適切に保つ方法について学習するとともに文化財の保管や公開に当り注意しなければならない基準等についても学習します。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 博物館や美術館ばかりでなく地域の文化財の保存や取り扱いについての一般的な知識について理解すること。</p>		
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕 学芸員資格を取得する際に必要な博物館における資料保存の基本、資料の取り扱い方および文化財の保管や公開において注意すべき基準等について学習します。また、地域の文化財の保存活用についても学習します。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 資料に劣化や害を及ぼす要因について学習するとともに資料を展示・保管している環境を調査し把握する方法や環境を適切に保つ方法について学習するとともに文化財の保管や公開に当り注意しなければならない基準等についても学習します。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 博物館や美術館ばかりでなく地域の文化財の保存や取り扱いについての一般的な知識について理解すること。</p>		
受講資格	文化学科 2年生	成績評価 方法	①小テスト 30点（15点 × 2回） ②課題 30点（15点 × 2回） ③期末試験 40点
教科書	プリント配布		
参考書	博物館学 IV 博物館資料保存論 *博物館実習論（学社文）、文化財の保存環境（中央公論美術出版）、博物館資料保存論（講談社）、文化財保存環境学（朝倉書店）、美術工芸品の保存と保管（フジ・テクノシステム）など		
学生への要望	資料保存には、様々な要因が複雑に絡み合っています。このため、理解しにくい事柄については、必ず復習を行い理解を深めるようにして下さい。解らないことがあれば、授業終了後、気軽に質問していただければよいと思います。		
オフィスタイム	授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	文化財に害を及ぼす様々な要因は数多くあり、授業時間内で全てを説明することは困難です。これらの要因を挙げ簡単に説明するとともに博物館の資料保存に関する文献の調査方法について話します。
2	資料に影響を及ぼす物理的 要因（1 温度）について	温度の変化が資料にどのような影響を与えるかを説明します。 特に、温度は他の物理的・化学的・生物的要因にも大きな影響を与えます。そのため、これらの点を中心に話します。
3	資料に影響を及ぼす物理的 要因（2 湿度）について	湿度の管理は、資料を展示・保管する上で最も注意すべき要因のひとつです。 このため、どのような要因が湿度の変化に影響を及ぼし、どのような害が表れるのかについて話します。
4	温度・湿度の計測について	温度・湿度の計測には温度計及び湿度計を用いますが、これらは、その種類により精度や測定方法が異なります。 このため、温時計及び湿度計の基本的な測定方法を説明する共に測定における注意点について話します。
5	資料に影響を及ぼす物理的 要因（3 光（電磁波））と その計測について	博物館で資料を展示し、来館者に観ていただくには、光は不可欠なものです。また、資料の展示を様々な演出する上でも重要なものです。しかし、反面、光自体が資料に害を与えます。このため、この光による害とその測定法について話します。
6	資料に影響を及ぼす化学的 要因について	資料に影響を及ぼす化学的物質には、数多くの様々な物質がありますが、中でも有機酸、ホルムアルデヒド、アンモニアなどは特に注意すべき物質です。これらの資料に対する影響及び発生原因等について話します。
7	資料に影響を及ぼす生物的 要因について	資料に影響を及ぼす生物学的要因及び引き起こされる害について説明するとともにその発生要因について話します。
8	燻蒸ガスによる資料の燻蒸 とその問題点について	資料燻蒸の長所・短所及びその問題点・注意点について話すと共に、現在使用されている燻蒸ガス種類と毒性及び資料に及ぼす影響などについても話します。
9	I P Mによる資料保存環境 の管理と燻蒸剤によらない 殺虫法について	I P M(総合的害虫管理)による資料の展示・収蔵環境管理方法の基本及び、I P Mにより資料の保存環境を管理するに当たり燻蒸剤に依存しない防・殺虫法は重要な役割を果たしています。このため、これらについても話します。
10	取蔵庫の保存環境とその維持 方法について	資料の保存環境の維持は空調設備により簡単に行えると考えますが、現実には空調のみで環境を維持することは困難なことです。よりよい環境を維持するためにどのようなことを行っているかについて話します。
11	展示室の資料展示環境とそ の維持方法について	展示室は外界などから、常に様々な影響を受けています。具体的にどのような影響を受けているかについて話しを すると共に展示環境を適正に保つためにどのようなことを行っているかを話します。
12	資料の修理、修復、保存処 理の基本について	資料の修理や修復の基本的な考え方及び遺跡から出土した金属製遺物や木製遺物の保存処理方法についてもその方法（科学処理）の概略について話します。博物館において
13	伝統的な資料保存の方法に ついて	昔から行われている日本古来の資料の保存方法には、現在でも資料を保存する上で重要な方法が数多くあります。 これらの方法について説明をします。
14	博物館資料の災害防止につ いて	博物館資料が受ける災害について述べると共にその防止方法について話します。
15	地域資源と地域の文化財の 保存と活用について	各地域に数多くの様々な文化財や資料が所在しますが、これら文化財や資料の保存への取り組みや活用について話 します。

科目名	博物館展示論		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子			
開講期	IV			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 博物館の展示に関する基礎的知識と技術を習得する。</p> <p>〔授業内容の概要〕 ①展示の歴史：18世紀以降のフランスと日本の展示の歴史を概観する。 ②展示の諸形態に関する理論と方法：文献による学習に加え、内外の文化施設の展示を具体的に学ぶ。 ③展示による教育活動：もみじ会等を利用して、解説パネルの作成とパワーポイント利用の解説を実習する。 ④安心安全な展示：3.11以後注目されている、鑑賞者にも収集品にも安全な展示について、実例を踏まえて検討する。</p>			
達成目標	<p>〔授業終了時の達成目標〕 ①学芸員として働くばかりでなく、鑑賞者としても文化施設を活用できるように、展示に対する基礎的な理解力を持つ。 ②生活の様々な場面で心地よい展示を実践できるようになる。</p>			
受講資格	文化学科二年生 学芸員課程必修	成績評価 方法	授業態度（25%）、課題（25%）、レポート（50%）	
教科書	特には定めない			
参考書	『博物館展示法』雄山閣出版など その他、授業内で指示する			
学生への要望	『博物館展示論』の視点でもみじ会や学内の展示に着目し、積極的にグループワークを行うこと。 週末や冬休み等を利用して、多くの博物館、美術館を見学すること。			
オフィスタイム	月V・木V No5研究室			
自学自習	事前学修：当日の内容をシラバスと授業支援システムに添付した講義資料で確認しておくこと（30分） 事後学修：ノートを整理し、参考文献を読んで知識を定着させること（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション コミュニケーションとしての展示 □	教師の自己紹介ののち、博物館展示の意義と位置付け、授業の進め方を説明する。 大原美術館見学の思い出を語り合う。 学内に展示されているブロンズ像や額絵を鑑賞しながら、作者の意図、及び、展示者（創立者）の意図を推測する。
2	調査研究の成果の提示	郡山市立美術館と諸橋近代美術館を例に、調査研究の成果としての展示を理解する。
3	収集の歴史	正倉院とメトロポリタン美術館を例に、収集の歴史を理解する。
4	展示と展示論の歴史（フランス）	18世紀の王家のコレクションから革命期、ナポレオン帝政期、王政復古期を経て現代に至るルーヴル美術館の歴史を概観する。
5	展示と展示論の歴史（日本）	上野の国立博物館を中心に、明治初期から現代に至る展示の歴史を概観する。
6	展示の政治性と社会性	グラン・ルーヴルと日本の公立美術館を例に、展示の政治性と社会性を理解する。
7	日本文化における設え	懐思庵で茶室における設えの意味を理解する。 演習：和室での作法：懐紙の使い方、御抹茶の頂き方、浴衣のたたみ方
8	関係者との協力	大山忠作美術館の展示に関わっている先輩のお話から、收藏家、美術館関係者、運搬・展事業者等との協力について理解する。
9	展示の諸形態	『博物館展示法』の第2章を参考にしながら、博物館展示の諸形態を理解する。 『博物館展示法』の第5章1、2、3節を参考にしながら、企画、デザイン、技術、施工等、博物館展示の実際を理解する。
10	展示の制作	演習：「発掘ガール展」の準備
11	展示解説書	演習：「発掘ガール展」の展示解説書を実作する。
12	展示解説	学内の「発掘ガール展」で実際に解説し、お互いに検討、評価する。
13	展示の評価と改善・更新	『博物館展示法』の第5章4、5節を参考にしながら、展示の評価と改善・更新を理解する。 演習：風呂敷の使い方、箱紐の結び方、扇、団扇の扱い方
14	安心安全な展示	鑑賞者、展示品共に安心安全な展示を考え、議論する。 演習：掛け軸の掛け方、巻物の巻き方、雛型の扱い、木版画の扱い方 レポートについて指示する（1月27日提出締め切り）。
15	今後の博物館展示	プロジェクション・マッピング、苔を使った生花等、新しい展示について理解し、今後の博物館展示の意義を考える。 演習：生け花（仲田先生の実演を拝見する）

<b>科目名</b>	博物館情報・メディア論		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	福島 ひろ子			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	情報化社会および生涯学習時代において、視聴覚メディア教育の重要性と必要性が益々高まってきており、情報技術の日進月歩の発達により、メディアが博物館などの文化施設の利用形態へ与える影響は特に大きい。本講義では、メディアの歴史や近代のマスメディアの発展、メディアと教育との関係、コンピューターの登場とインターネット、メディアリテラシー、世界の博物館や美術館における映像展示の歴史と現状及び災害報道などについて映像メディアを通して具体的に学ぶ。それらを通して、人間社会に与えるメディアの影響およびその意義を考えると共に、特に博物館や美術館、公民館などで働くために必要と思われる基礎的な専門的知識を身につけることを目標としている。授業では主としてPower Pointを使って進めることになるが、有名な博物館や美術館におけるメディア活用の実態を知るために、今日最大のメディアである映像を視聴覚することもある。			
<b>達成目標</b>	情報化社会および生涯学習時代において、視聴覚メディア教育の重要性と必要性が益々高まってきており、情報技術の日進月歩の発達により、メディアが博物館などの文化施設の利用形態へ与える影響は特に大きい。本講義では、メディアの歴史や近代のマスメディアの発展、メディアと教育との関係、コンピューターの登場とインターネット、メディアリテラシー、世界の博物館や美術館における映像展示の歴史と現状及び災害報道などについて映像メディアを通して具体的に学ぶ。それらを通して、人間社会に与えるメディアの影響およびその意義を考えると共に、特に博物館や美術館、公民館などで働くために必要と思われる基礎的な専門的知識を身につけることを目標としている。授業では主としてPower Pointを使って進めることになるが、有名な博物館や美術館におけるメディア活用の実態を知るために、今日最大のメディアである映像を視聴覚することもある。			
<b>受講資格</b>	社会教育主事課程、学芸員課程	<b>成績評価 方法</b>	①出席状況、授業中の態度など20点 ②小テスト20点 ③課題20点 ④期末試験40点	
<b>教科書</b>	特に指定しない。必要に応じて、プリントの配布や参考文献の案内を行う			
<b>参考書</b>	特に指定しない。			
<b>学生への要望</b>	紹介された参考文献や図書などを可能な限り読んで、理解しておくこと。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日Ⅱ限目の教務部非常勤控室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	時間配分や進め方などについて説明し、参考文献の案内なども行う。
2	世界の博物館における映像の展示と現状①	まず日本の博物館のメディア活用について学ぶ。具体的には国立民族博物館、東京国立博物館などを中心に取り上げることになるが、近年、日本の一部の大学でも「大学博物館」が作られており、そうした新しい動向についても解説し、それらに見られるメディアの利用と活用の現状を紹介する。
3	世界の博物館における映像の展示と現状②	アジアの博物館のメディア活用について学ぶ。具体的には北京および台北にある二つの故宮博物館を取り上げることになる。
4	世界の博物館における映像の展示と現状③	欧米の博物館のメディア活用について学ぶ。具体的には、The British Museum、Musees（フランス）、The National Museum of American History などを取り上げることになる。
5	メディアの発達について	情報伝達やコミュニケーションに深く関わっているメディアの歴史を考えると共に、人間社会におけるコミュニケーションの仕組みを学ぶ。
6	文化の伝達と情報記号について	文化の伝達と社会的コミュニケーションの道具としてのメディア、さまざまな情報記号を概説し、視聴覚教育メディアとしての意味を理解する。
7	近代マスメディアの発達について	新聞、広告、映像の発達などについて解説すると共に、生涯教育におけるメディアの影響を考える
8	メディアと教育について	教育情報としてのメディアについて、種々の例を具体的に紹介しながら、メディアと教育との関わりを理解する。
9	コンピューターの登場とインターネットの普及について	コンピューターの登場やインターネットの普及により、博物館や美術館などの文化施設や公民館の利用と活用に大きな変化をもたらしている。いくつかの実例を紹介しながら、その現状と実態を理解する。
10	マルチメディアコンテンツとデジタル情報について	音声・動画・グラフィックスなどを用いた情報媒体を紹介し、市民の文化的生活におけるそれらの役割を理解する。
11	メディアリテラシーとは何か	新聞などを活用し、現代社会におけるメディアリテラシーの問題について学ぶと共に、日頃使っている携帯という新しいメディアを具体例に考える。知的財産権も当然話題になる。
12	インターネットによる視聴覚素材の探索法	インターネットというメディアを有効に利用し、視聴覚の素材を探索する方法を学ぶ。
13	映像メディアの諸相と災害報道	視聴覚教育メディアについて、映画、コマーシャル、テレビ、ドキュメンタリー及び災害報道などを取り上げて、その理解を深める。
14	自然災害と視聴覚教育メディアの諸問題	自然災害と視聴覚教育メディアにおける今日的な諸問題について、災害報道を踏まえつつ、メディア学の視点から考える。
15	まとめ	これまでの授業を振りかえつつ、授業の内容を纏めると共に、その狙いなどを指摘する。質疑応答という形で行うことになる。試験についての説明もする予定である。

科目名	博物館教育論		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	仲田 佐和子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	本授業では、社会教育施設である博物館の役割を教育・学習の観点から検討する。現代は社会生活の多様化、高学歴化、生涯学習の普及などにより、博物館の教育的役割が今までになく重視されるようになった。このことから、博物館教育の理念・方針、実践事例などを紹介し、生涯学習時代にふさわしい博物館のあり方、利用者と博物館の関係性を考察する。			
達成目標	博物館の教育的活用・運営に必要な基本的知識を習得し、自ら課題を見つけ解決できる学芸員補としての知識を習得する。			
受講資格	文化学科2年生	成績評価 方法	①授業への積極的な姿勢20点 ②授業内の発表20点 ③レポート60点	
教科書	使用しない。資料を配布する。			
参考書	①全国大学博物館学講座『新時代の博物館学』芙蓉書房出版、2012年 ②小笠原・並木・矢島『博物館教育論』ぎょうせい、2012年			
学生への要望	博物館、美術館等に関心を持って、積極的に訪れてほしい。 また、新聞等で文化財や博物館に関する記事を注意してほしい。			
オフィスタイム	火曜日V時限、水曜日IV時限。創学館No.4研究室。			
自学自習	毎日、新聞に目を通し、文化財や博物館に関する記事について考察する。(1時間) 博物館、美術館等の広報を常に注目し、興味、関心のある展示は積極的に観に行くとともに、感想をまとめる習慣をつける。(1時間)			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	学芸員科目改正による『博物館教育論』新設の要因を解説し、今後の授業計画を説明する。
2	福島県の博物館	福島県博物館連絡協会加盟の博物館を紹介する。規模・設置目的・収蔵資料など、県内の博物館が多様な形態であることを指摘し、財源難・入館者減・高齢化など、厳しい現状に直面している博物館を考える。
3	博物館教育の理念と目的①～生涯学習と博物館	生涯学習の考え方を検証し、生涯学習時代到来が社会の要請であることを考える。生涯学習にとって、知識意欲を啓発する博物館の教育的役割が重要であることを確認し、博物館を拠点とする生涯学習のあり方を考察する。
4	博物館教育の理念と目的②～地域社会と博物館	住民参加による地域活動の拠点としての博物館、利用者(学習者)主体の博物館運営が要請されるようになった。特定の行政区域、地域社会を基準に設置された博物館は多種多様な地域資源を収蔵しており、地域再発見の役割を考えてみる。
5	博物館教育の理念と目的③～博物館教育と学校教育	博物館と学校はともに社会教育施設であり、学芸員と学校教師は社会教育に携わる専門職である。両者の役割を比較しながら、両者の連携のあり方、学校とは異なる学習体験可能な博物館教育の独自性を検証する。
6	博物館教育の理念と目的④～博物館と学び	博物館運営は資料(モノ)・知識の一方的伝達から利用者の自己学習を支援するように変化してきた。博物館における学びの特質を利用者の視点にたって考えてみる。
7	博物館教育の方針①～博物館教育と利用者	博物館は展示見学の一般市民・研究者・学生・友の会など、年齢・興味・目的を異にする、さまざまな個人・団体に囲まれている。博物館教育に相応しい、博物館と利用者(学習者)との相互関係作りを検証する。
8	博物館教育の方針②～博物館教育の評価	社会教育施設と見做される博物館は教育的活動が地域社会や利用者(学習者)により不断に評価される。博物館は教育活動の概要を外部に提示しなければならない存在となった。評価に相応しい教育活動の企画立案と課題を考えてみる。
9	博物館教育の方針③～博物館教育と学芸員	利用者(学習者)の近くに位置する学芸員には、資料収集・展示・調査研究など多様な専門性に加えて、生涯学習支援者としての教育的役割が求められるようになった。博物館と地域社会をつなぐ学芸員像を検証する。
10	博物館教育の実際①～展示と展示解説	展示は資料(モノ)の陳列ではない。展示担当の学芸員は利用者(学習者)の学習意欲を刺激し、興味を持たせるための展示を模索しなければならない。効果的に学習行動へ導く展示のあり方を検証する。展示理解を支援する展示解説・解説シートについても説明する。
11	博物館教育の実際②～講習会と講座	展示と共に、講習会・講座は学芸員の専門的研究成果を利用者(学習者)に発信する重要な手段である。利用者の学習支援に適う講習会・講座の運用を考える。
12	博物館教育の実際③～出前講座	学校と市民を対象とした「出前講座」がある。これは学芸員が専門分野の学習メニューを作成し、直接出向いて学校支援・生涯学習支援を図るものである。利用者の掘り起こしでもある「出前講座」の実例を紹介する。
13	博物館教育の実際④～ワークショップ	博物館教育は一方的に知識・情報を伝達することではない。「ワークショップ」は利用者(学習者)の主体性を重視した参加・体験型の教育活動である。新たな学びを創出する「ワークショップ」の実例を紹介する。
14	博物館教育の実際⑤～博物館友の会	博物館友の会は会員の相互親睦団体であり、博物館の支援団体である。会員は学芸員と共に博物館の教育活動を創造していく存在である。生涯学習の一翼を担うようになった博物館の友の会活動支援を検証する。これまでの講義内容を念頭に、生涯学習時代の社会が要請する利用者(学習者)主体の博物館教育を展望する。
15	まとめ～博物館教育の今後	これまでの講義内容を念頭に、生涯学習時代の社会が要請する利用者(学習者)主体の博物館教育を展望する。

科目名	博物館実習		
担当教員	会田 容弘, 仲田 佐和子, 佐藤 愛未	対象 単位数 必修	短期大学部 文化学科 2年 3単位 選択
開講期	通年		
授業概要	<p>【授業の目標・ねらい】 学芸員資格取得を目指す学生が、1年次の博物館学概論・博物館学資料論の知識を基に、博物館施設における多様な学芸員の仕事を実践的に学習することを目的とする。</p> <p>【授業内容の概要】 学内実習では、会津若松市教育委員会文化課と共催で「会津若松市歴史資料センターまなべこ」での企画展を行う。11月に実施する企画展示の展示計画、展示準備、展示、展示解説、展示撤収を実習の授業として行う。また学外実習では、博物館等施設5館見学と1週間程度の施設実習を実施する。施設実習に伴い、事前事後指導を授業の中で行う。</p>		
達成目標	<p>【達成目標】 主体的にコミュニケーションをとってグループ全体の作業を実現していけるように努力できる姿勢を育てること。</p>		
受講資格	学芸員課程履修学生（要「博物館概論」・「博物館学資料論」履修済） 1年終了時のGPAが2.0以上であること。	成績評価 方法	授業態度（出席状況重視）と展示計画と展示品及びポスター（50%）・5館見学レポート（20%）・学外実習（30%）を総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。		
参考書	授業時に適宜提示する。『文化学科資格課程報告集』バックナンバー		
学生への要望	主体的に学ぶ姿勢と共に、博物館施設で実際に働くことを各自がイメージしながら実習に取り組んでほしい。 学内実習での学習態度・出席状況の悪い学生の学外実習参加は許可しない場合がある点、要注意！		
オフィスタイム	各教員の週間スケジュールを確認した上で、随時。展示実習の打ち合わせをする場合は事前に質問内容と面会希望時間をメールで教員に打診し、予定を合わせて面会すること。		
自学自習	授業時に示した課題を次回まで必ず行うこと。それを基にした授業展開になる。授業時間内で完成しなかった作業は空き時間に必ず完成させておくこと。 事前学習： 展示計画・展示物の発表準備など（1時間） 事後学習： 展示計画・展示物の修正、ノート整理など（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	全体ガイダンス	学芸員課程全体の中の博物館実習の位置づけを確認し、今年の展示実習の概要を説明する。また博物館施設5館見学レポートについて解説し、「博物館で働く側の視点」を学生が意識できるように準備を行う。 1年次の文化学科研修旅行博物館見学レポート提出日。
2	学外施設実習ガイダンス	6月から始まる学外施設実習を有効に実施するために諸注意や確認事項の事前指導を行う。実習施設への提出書類の作成も行うため、欠席しないこと！
3	展示施設見学①	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。
4	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。
5	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。
6	展示計画	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示施設に合わせた、笹山原遺跡の展示を計画する。
7	施設見学②	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。
8	施設見学③	会津若松市歴史資料センターまなべこの施設見学を行う。
9	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示するパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。
10	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示するパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。
11	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示するパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。
12	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示するパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。
13	展示準備	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示するパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを作成する。
14	展示発表	会津若松市歴史資料センターまなべこに展示するために作成したパネル、キャプション、ポスター、リーフレットなどを提示し、発表を行う。その結果に基づき修正を行う。
15	展示修正	展示品の指摘点を修正する。
16	模擬展示	作成した展示品を展示してみる。
17	模擬展示修正	展示品を修正する。
18	展示品作成	展示品を作成し、搬入できるように準備する。
19	展示準備	展示内容を広報宣伝するためのポスター制作を行う。
20	展示準備	展示原案に基づいて展示資料を制作する。
21	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月30日）。
22	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月30日）
23	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月30日）
24	展示実習	会津若松市歴史資料センターまなべこにおいて実際に展示を行う（10月30日）
25	展示解説実習	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示初日、及び土曜日に展示解説を実施する。
26	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う（12月5日）
27	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う（12月5日）
28	展示撤収	会津若松市歴史資料センターまなべこの展示撤収作業を行う（12月5日）
29	後期まとめ	展示の反省について討論会を開催する。
30	総まとめ	一年を通しての博物館実習、学内・学外実習の振り返りを行う。



科目名	日本文化史	対象 単位数 必修	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
担当教員	佐藤 愛未		
開講期	I		
授業概要	日本社会の移り変わりに影響を受け、様々な発展を遂げた日本文化について近世を中心に検証を行う。社会と文化の関わりから、その特質・独自性を考えてみる。 授業テーマは、「江戸～明治時代の政治・社会と文化」である。徳川幕府成立から明治新政府の行った政策などとの関わりからどのように日本の文化が形成されていったのかを紹介する。		
達成目標	現代に通じる日本文化形成の理解を深め、日本史や現代社会における視野を広げる。		
受講資格	文化学科1年生	成績評価 方法	①課題レポート30点 ②期末試験70点
教科書	プリントを配布する。		
参考書	尾藤正英『日本文化の歴史』岩波新書、2000年 青木美智男『近世庶民文化史 日本文化の原型』小学館、2009年 ほか適宜指示する		
学生への要望	問題や目的意識を持って受講すること。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ時間目、水曜日Ⅳ時間目。創学館4階、No.4研究室		
自学自習	事前学修：提示されている参考書及び興味を持った事柄に関する文献などを読む。(1時間) 事後学修：授業内容の復習。(1時間)		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	南蛮文化の伝来と安土桃山文化	15世紀に始まった「大航海時代」の波は天文12年(1543)ポルトガル人の種子島上陸により、日本にも押し寄せた。渡来したポルトガル人・スペイン人をお南蛮人とよび彼らがもたらした南蛮文化と呼ばれる。その当時の日本文化とされる安土桃山文化との関わりを検討する。
2	寛永文化と「鎖国」	徳川家康は慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いに勝利し、同8年に征夷大将軍就任、江戸幕府を開いた。その頃の17世紀前半の文化を寛永文化とよぶ。サロンの文化と呼ばれ茶の湯や和歌が中心となった寛永文化と幕府の「鎖国」政策との関係を考える。
3	文治政治への転換と文化	江戸幕府4代目将軍家綱の治政の後半にあたる寛文期は武断政治から文治政治へと転換した時期である。この時期は文化の面でも同じく転換期とされており仏教・学問など様々な変容が見られる。そこから、文治政治と文化の関わりを検討する。
4	「浮世」の元禄文化と町人	17世紀末から18世紀のはじめにかけての元禄の頃は、上方を中心に都市がにぎわい、文化が栄えた時代である。そのため、元禄文化は「浮世」という言葉で代表され、独特の民衆文化が芽生え始めた時代とされている。一方で、身分制社会の文化としての特徴を持っていた文化でもある。この文化を理解するために時代背景と合わせて文化を考える。
5	松尾芭蕉と俳諧	元禄文化では武士階級出身の担い手も多く、『奥の細道』で知られる松尾芭蕉もその一人であり、俳諧で蕉風を確立させる。福島県内にも立ち寄りいくつかの俳句を残している。また、芭蕉の旅は地方の門人によって支えられていた。そこで、芭蕉が福島県での旅で出会った相楽等躬をはじめとする人々との関わりなどを検討する。
6	実学の発展と『会津農書』	元禄時代には諸産業の発達にともない、実学が発展する。実学とは、人々の日々の生活に実際に役立つ学問、実際の見聞にもとづく学問のことである。それは、本草学・和算・医学・農学など様々である。農学では、会津藩の村役人である佐瀬与次右衛門が記した『会津農書』が著名である。そこで、生活を豊かにする実学を中心に当時の庶民の生活を考える。
7	宝暦・天明文化と洋学	宝暦・天明期になると学問世界にも新しい動きが現れてくる。その中でも、西洋学術の研究が本格的にはじまり、洋学が大いに発展することになった。なかでも、医学や天文暦学などが中心となり、研究が進められ多くの分野にわたり特異な能力を発揮する人々があらわれた。この時代に活躍した伊能忠敬や平賀源内などを通して文化を考える。
8	亜欧堂田善と洋風画	須賀川で生まれた永田善吉(後の亜欧堂田善)は、白河藩主松平定信との出会いから、洋風画家の谷文晁や銅版画家の司馬江漢の弟子となり技術を学び、数々の作品を生み出した。江戸で活躍し、晩年に郷里へ戻った亜欧堂田善の生涯を検証していく。
9	町人の文化「化政文化」	江戸時代後期になると文化の中心が江戸に移っていく。この時期の文化は化政文化と称される。浮世絵や遠方の寺社や名所への旅も盛んに行われるようになった。「いき」と遊興から、当時の町人の生活を考える。
10	学問の発展と諸藩教育	江戸時代では、幕府・藩による学問の奨励や経済の変化により、武士・庶民を問わず教育が普及した。そこで諸藩には、主に藩士の子弟教育を行う機関として藩が運営した藩校が数多く誕生する。会津藩の「日新館」など福島のなかにも藩校を創設した藩がいくつかあった。そこで、福島にあった藩校教育から、藩の教育について探る。
11	伝統工芸品と諸藩	現在、「伝統工芸品」が全国各地で生産されているが、その中には美術工芸品として重要文化財・重要有形民俗文化財に登録されているものもみられる。この工芸品は江戸時代に藩の政策により奨励された例もいくつかある。このことについて工芸品と藩政策の関係を検討する。
12	洋学と留学生	開国後、欧米の国々との交流を行って、欧米の文化や学術を取り入れて近代化を目指そうとした。そのため、幕府及び諸藩は、文化・学術を学ぶために国内外へ留学生を派遣した。それらの留学がそのようなものだったのかを探る。
13	文明開化と「和魂洋才」	明治初期、欧米の文物・制度を取り入れ日本の近代化を図ることが国家目標になった。文明開化の風潮がひろまり、政府主導で積極的な西洋文化の導入が図られ急激な西洋化が図られたが、日本の伝統を見直そうという反動の動きも起こり「和魂洋才」という言葉もよく使われた。文明開化と「和魂洋才」について考える。
14	万博とジャポニスム	日本は慶応3(1867)年に初めて万国博覧会(パリ万博)へ出品参加をする。また、明治6(1873)年のウィーン万博にも参加する。それをきっかけに、日本美術(浮世絵、琳派、工芸品など)が注目され、西洋の作家たちに大きな影響を与えた。日本の万博参加と西洋で広まったジャポニスムについて考える。
15	明治政府とお雇い外国人	日本には幕末から明治にかけて、「殖産興業」などを目的として、欧米の先進技術や学問、制度を輸入するために雇用された外国人であるお雇い外国人を官庁や学校に招聘した。そのなかで東京の宮内省の顧問になり、ヨーロッパの宮廷儀式を導入したドイツ人外交官のオットマール・フォン・モールという人物がいる。そこで、オットマール・フォン・モールを中心にお雇い外国人について探る。

平成29年度

<b>科目名</b>	国際文化史		<b>対象 単位数 必修</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	桑野 聡			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	<p>【授業内容の概要】 現代文明の共通要素として大きな意味をもつヨーロッパ文化（欧米文化）の形成と近代化について、古代・中世～近現代にいたる過程を概観します。また歴史を大学の学問として学ぶ際の一つの切り口として歴史観に着目し、19世紀の歴史学（旧説＝ヨーロッパ中心史観）と20世紀以降の新しい歴史学（新説の一例＝文明論的歴史観）を紹介することで、同じ事実が異なった解釈を生むことで歴史像が作り上げられ、変容することを学びます。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【授業の目標・ねらい】 大学で歴史学を学ぶ基本姿勢を整え、現在の日本が直面する歴史問題や周辺諸国との関係、国際社会における役割などを正しく考える基本姿勢を育む。 【授業時の達成課題】 レポートの課題に対して、歴史学の知識を用いて論理的な文章を書くことが出来る。</p>			
<b>受講資格</b>	文化学科学生・一般聴講生	<b>成績評価 方法</b>	授業の2/3以上の出席を前提条件として、期末レポート（1回100%）で評価	
<b>教科書</b>	特に使用しない。WLRにパワーポイント資料を掲載。授業時に配布資料あり。			
<b>参考書</b>	桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説1 古代・中世篇』DTP出版 2006年 桑野聡『大学で学ぶための西洋史概説2 近現代篇』DTP出版 2006年			
<b>学生への要望</b>	①地図を見る姿勢、②新聞・ニュースを見る姿勢、③高校世界史の基礎知識の確認を期待する。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜・水曜 Ⅱ時限目（10:30～12:00） 考古学研究室			
<b>自学自習</b>	事前学習： 授業資料（パワーポイント）を参照して打ち出し、必要に応じて高校「世界史」の教科書を読みこんでくる（1時間） 事後学習： 高校時代に使用していた歴史資料集を細目に参照して授業内容を確認する（1時間）			

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	本講義の進め方と学習のための基礎力について解説する。
2	歴史館と時代区分	大学で歴史学として歴史を学ぶための一つの切り口として「歴史観」の問題を取り上げる。19世紀に確立し、現在も暗黙の了解として一般的な歴史理解の基盤となっている「ヨーロッパ中心史観」と20世紀以降にこれを批判する立場から生まれた「文明論的歴史観」について解説する。
3	古代世界①	ギリシア・ローマをオリエント世界と共に古代地中海世界という独自の文明世界として考える立場を紹介する。
4	古代世界②	ケルト・ゲルマンを中心に古代地中海世界の周辺民族文明について紹介し、ローマの滅亡が単純な「蛮族の侵入」として理解されるべきではないことを解説する。
5	古代世界③	古代末期（4～7世紀頃）に地中海世界が分裂していく過程を概観し、H. ビレンヌやH. オバンのテーゼなどを例に発想の転換の重要性を確認する。
6	中世世界① 前期中世（カロリング・ルネサンス）	前期中世（7～10世紀頃）の西方世界がヨーロッパとして分離・形成されてくる上で重要なカロリング朝フランク王国の役割について解説する。
7	中世世界② 盛期中世（12世紀ルネサンス）	盛期中世（11～13世紀頃）にキリスト教世界として確立するヨーロッパ文明圏の形成を概観し、この時期にヨーロッパが古代文明やビザンツ・イスラム世界などから継受した多様な文化を融合させながら独自の文化を確立した「12世紀ルネサンス」について解説する。
8	中世後期③ 後期中世（ルネサンス時代）	後期中世（14～16世紀頃）のヨーロッパが封建制の危機の中で新しい価値観（人文主義）を手掛かりに、ルネサンスや宗教改革、大航海時代などに象徴される歴史の転換点に立ったことを解説する。
9	近世① 絶対主義時代	近世（16～18世紀頃）を特徴づける絶対主義の構造を解説し、宗教戦争や重商主義政策などがヨーロッパ文明の世界への拡大と不可分に結びついていたことを確認する。
10	近世② 啓蒙主義と市民革命	近世（16～18世紀頃）に顕著となる12世紀以来の個人主義・現実主義などがさまざまな形でヨーロッパ文明を特徴づけ、近代のヨーロッパ社会の形成へと繋がることを解説する。
11	近代① ヨーロッパの世紀	19世紀のヨーロッパの変容を概観します。前半のウィーン体制の崩壊による近代市民社会の形成、後半のビスマルク体制の崩壊による世界大戦への疾走の歴史を解説する。
12	近代② 産業革命と帝国主義	ヨーロッパの経済発展が民主的な近代市民社会の発展に大きな貢献を果たす一方で、帝国主義による世界支配を作り上げていったメカニズムを解説する。
13	近代③ 二つの世界大戦とファシズム	列強の帝国主義政策が招いた二度の世界大戦の中で台頭した共産主義とファシズムという二つの亡霊の中で、まずファシズムのもつ現代的危険性について解説する。
14	近代④ 社会主義・共産主義と20世紀	19世紀ヨーロッパで生まれたマルクス主義は、第一次大戦末期のロシア革命で最初の社会主義国家建設に成功し、第二次大戦後は東西冷戦の構造を作り出した。社会主義・共産主義を単なる遺物としてではなく、私たちの未来像との関係で捉え直したい。
15	まとめ 現代ヨーロッパの課題	イギリスの離脱で揺れる統合ヨーロッパの歴史を概観し、EUが抱える今日的課題と私たちの関係を考えたい。

科目名	民俗学Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
担当教員	野沢 謙治			
開講期	Ⅰ			
授業概要	日本人の伝統的な暮らしぶり、つまり民俗は変化し無くなっているのが現状である。なぜ変化したのかを考えると同時に変化しないで残っている民俗から「日本人らしさ」を明らかにする。具体的には日本人の誕生から死に至る過程の折り返しに行われてきた人生儀礼をとりあげ、日本人がどのように一生を送り、その間、どのように考え、行動したかを明らかにする。日本人の伝統的な暮らしぶりから「日本人らしさ」を理解するとともにグローバル化する世界の中での日本の文化の将来を考えることができるようにする。			
達成目標	「日本人らしさ」を知るためにはいろいろな方法があるが、授業では人生儀礼を基調に、そこから発生する枝葉の民俗をからませながら民俗の総体を明らかにする。この民俗の総体を知ることによって「日本人らしさ」の真髄に迫ることが可能になる。			
受講資格	文化学科1年生	成績評価 方法	6回目の授業が終わった時点と授業が終了した時点でレポートを提出してもらいまい。各50点、合わせて100点で評価する。	
教科書	使用しません。必要に応じ民俗資料を配布する。			
参考書	『図解日本の民俗』（吉川弘文館 2012年）『知って役立つ民俗学』（ミネルバ書房 2015年）			
学生への要望	あなたの身近で起きている社会問題や暮らしの中の疑問に常に関心を向け、その問題が民俗学的に解説、説明できるかを考えて欲しい。			
オフィスタイム	金曜日のⅡコマ目、創学館4階No.5研究室、予約は必要ありません。			
自学自習	参考書はシラバスの内容にあわせて読んでおくこと。授業の内容については日々の生活と比べてみる習慣を身に付けること。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	民俗学とは何か	民俗学の歴史をたどりながら、民俗とは何か、民俗学の目的、民俗学の方法論、民俗学の資料論、歴史学との相違、そして民俗学が現代社会の中でどのような役割を果たせるかを考えます。
2	誕生の民俗	自宅分娩から施設分娩へ変化する中で新しい生命の誕生にともなう神秘性や聖性が失われてしまいました。かつての出産は稲の誕生と密接に関係し、誕生空間は胎産空間とみなされていました。
3	不可思議な子どもたち	「七歳までは神の内」といわれるように七歳までは子どもは神の管轄にあり、この世の存在とはみなされてはいませんでした。また子どもの遊びには不可思議さがあり、子どもの葬式は大人とは全く違っていました。子どもの異界性を考えます。
4	子どもから大人へ	子どもから大人への移行の際に成人式がとり行われました。伝統的な成人式をみると一人前の仕事ができるかどうかという試練を伴うことがみられますが、その基底には死と再生という象徴性がみられました。
5	結婚と家族	日本における結婚の歴史は婿入り婚から嫁入り婚へと変わりました。また東日本の親決め婚と西日本の若者宿を介した自由な恋愛と結婚のように地域差がありました。また家族にも多様性が見られ、血縁関係が家族を規定するものでないことを明らかにします。
6	暮らしの空間	家族が住む民家の歴史的成立を考えます。殊に民家の間取りの持つ機能性と聖性を明らかにします。また民家が集まるムラ空間のあり方をムラ境での祭りで考えます。
7	時間の民俗1	夜に入る一歩手前の夕暮れは不安な時間帯でありました。それは夕暮れの後からやってくる夜が神や妖怪が活動する異質な時間であったからです。昼も1日、夜も1日という時間感覚を明らかにします。
8	時間の民俗2	日本人の時間感覚として円環性と逆転性がありました。正月には全てが再生し新しい時間がはじまります。また祭りや行事においては日常の時間が意味をうしない非日常性におおわれますが、非日常性の中で生きる意味が確かめられるのです。
9	身体と病気の民俗	身体は生物学的に解釈されるだけでなく文化的にも解釈されます。身体はものを考える際の規準になる文化的存在でもあるのです。また身体のケガれた状態は病気とみなされ、その原因として神の罰や呪術的理由が考えられていました。近代以前の病氣観を考えます。
10	女の民俗・ケガレの発生	日本では女性はケガれた存在として祭りなどの聖なる場から厳しく排除されていました。このような女性に対するケガレが歴史的にどのように男性の側から意図的に作られてきたかを考えます。
11	女の民俗・オナリ信仰	沖縄では女の姉妹（オナリ）が男の兄弟に対して霊的に優位である信仰、オナリ信仰が発達しています。オナリ信仰の原始性を明らかにするとともに、本土の女性を排除した男の祭りが実は女性の霊力によって支えられていたことを考えます。
12	老いの聖性と負性	「年寄りの言うことは間違いない」、米寿の祝い、神が翁の姿をとるなど老いは価値があり、聖性も認められます。一方、ウバステ山伝承のように年寄りには役に立たない存在でもありました。老いの両義性を考えます。
13	死の民俗	葬式という儀礼から何をもって死を決定するのかを考えます。殊に肉体、骨、靈魂の関係の中で考えます。また死後に行われる日本独特の先祖化の過程、先祖供養と生者の関係を考えます。
14	他界の民俗	日本人の最も古い他界観は山上、山中他界観といわれています。一方、沖縄には海上、海中他界観が今も存在しています。この2つの他界観は歴史の中で仏教の他界観と習合します。他界観を通して死と生の関係を考えます。
15	神と妖怪の民俗	日本人の神信仰の特質は多神教と言われますが、その意味は多くの神々を祀るのではなく神の多様な変身にあるのです。また妖怪は神の没落した姿ではなく神の二面性のマイナスの面が現れたものです。

科目名	考古学Ⅰ	対象 単位数 必修	短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
担当教員	会田 容弘		
開講期	Ⅱ		
授業概要	考古学は物から人類の過去を明らかにする学問である。考古資料というモノからどのようにして人類の過去を明らかにするのか、考古学の基本的な考え方、方法について講義を行う。		
達成目標	＜到達目標＞考古学の基本概念、用語を理解し、考古学論文を読解するの十分な知識を得ること。		
受講資格	文化学科学生	成績評価 方法	試験結果と授業への積極的な参加度を評価し、100点を満点とする。60点以上を合格とする。考古学で卒業論文を作成する学生は、講義内容の8割以上の理解が望ましい。
教科書	浜田耕作『通論考古学』、泉拓良『考古学—その方法と現状』		
参考書	授業の中で紹介する。		
学生への要望	予習復習を行うこと。シラバスを参考にして、事前学習を行うこと講義で用いたパワーポイントは講義後、公開するので、復習で授業内容を確認すること。		
オフィスタイム	火曜日3時限目、水曜日2・4時限目。		
自学自習	予習：前回の講義内容を確認し、授業内容の参考文献を読んでおくこと。（1時間） 復習：授業内容を整理し、よく理解すること。わからないことは記録し、自分で調べてみて、教員に確認すること。（1時間）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	考古学とは何か	考古学的な思考の成立と簡単な研究史を述べた上で、考古学の定義と範囲について述べる。考古学のめざすものについて、考古学の現代的諸問題を説明する。
2	考古資料論（1）	考古資料については浜田耕作の定義を紹介し、遺物、遺構、遺跡について説明し、それらを分類し、その特質を説明する。考古資料の特質、考古資料の資料的価値、考古学の限界について説明する。
3	考古資料論（2）	考古資料の分類を説明し、実際の遺物を実例を示しながら説明する。
4	発掘調査の方法	分布調査、測量調査、予備調査、本調査の方法について説明し、さらに文化財保護法にある発掘調査の法的手続きについて説明する。
5	発掘調査の実例	郡山女子大学短期大学部文化学科考古学研究室で2001年から継続して行っている笹山原遺跡No.16の調査の積み重ねとその成果について、記録画像を見ながら説明する。宮城県東松島市里浜貝塚の発掘調査について調査の記録画像を見ながら説明する。
6	文化財保護法	日本では考古学と文化財は不可分の関係にある。戦後日本の考古学は埋蔵文化財保護のために莫大な予算を投入した。その法的背景にある文化財保護法について説明する。
7	層位的研究法	特殊の研究法のひとつである層位的研究法を概説する。 層位的編年の例 1) 洞窟堆積層によるフランス旧石器の編年 2) 火山灰編年学を用いた広域編年 3) 貝塚堆積層を用いた縄文土器編年
8	層位的研究法の実例	松本彦七郎博士の里浜貝塚の層位的発掘調査について、東北大学理学部に保管されていた松本資料を用いて再検討を行った。その結果松本博士は正しく層位的発掘を行っていたことが明らかになった。
9	型式学的研究法	古典的型式学。浜田耕作の型式学を説明し、O. モンテリウスや田中琢の例示した型式の組列を説明する。
10	型式学的研究法の実例	型式の考古学的意味について考える。J. ディーツとデスレフソンの「ドクロ、智天使、柳と骨壺」の論文を説明し、型式の意味を考える。型式の認定方法について様々な議論がある。ホッドソンが4人の考古学者と1人の解剖学者に留め針を分類させた結果とコンピュータを用いた分析について説明する。
11	暦年代決定の方法	暦は年代決定の物差しである。キリスト紀元をいかにさかのぼらせることができるか。エジプト王名表をもとに、民衆暦とソティス暦を繋ぎ合わせたマイヤーの研究を紹介する。
12	暦年代決定の実例	日本の先史時代の暦年代は中国の暦に頼らざるを得ない。中国と直接交渉のない時代は朝鮮半島を経由して暦年代を決定している。暦年代を決定する資料を紹介しながら、日本の暦年代について説明する。日本国内においても、暦年代を決定するためには大きな困難を伴う。文献と考古資料の間がそこにはある。文献や文字資料を用いて考古資料の相対編年に暦年代を与える問題点を検討する。
13	理化学的年代決定法（1）	理化学的年代決定法は暦とはまったく別の原理に基づいて年代を決定する方法である。地球の周期的な変化に基づく年代推定法と不安定な原子が崩壊する速度を時間の単位する方法がある。まず、地球の周期的な変化から説明する。年輪年代決定法の原理と実際の応用例について説明する。
14	理化学的年代決定法（2）	放射性炭素年代測定法の原理を説明し、その実際の測定方法、測定資料、測定例を紹介する。放射性炭素年代測定法の登場によって考古学界に起こった短期編年・長期編年論争について説明する。放射性炭素年代決定法によって明らかになった年代の実例。放射性炭素年代測定法の補正によって暦年代に置きなおされた年代とその問題点を検討する。
15	考古学と現代社会	考古学と現代社会の関係を述べ、考古学の将来を考える。

科目名	美術史		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 1年 2単位 必修
担当教員	斎藤 美保子			
開講期	I			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 美術史とは、人類の遺産である美術品を正しく理解し、そこにこめられた古人の思想及び芸術性を読み解き、更に新たな歴史観を組み立てる学問である。学芸員として、鑑賞者として作品に対峙する姿勢を身につける。 【授業全体の内容の概要】 古代、中世、近代の西洋、東洋、日本の基礎的な美術史を学修する。作品を鑑賞する能力、正しく扱う技術を習得する。</p>			
達成目標	<p>【授業の到達目標】 ①地域により、時代により、特徴のある美術が作られてきたことを理解する。 ②重要な作品の歴史的意義を理解する。 ③重要な美術家について、的確な知識を得る。</p>			
受講資格	文化学科1年生（学芸員課程任意設定科目）	成績評価 方法	課題（黄金比作図、水墨画、一点透視作図）（30点）、授業中の報告発表（20点）、期末試験中の記述試験（50点） 60点以上で合格だが、80点以上を目指すこと	
教科書	パワーポイントの資料を授業支援システムに添付する			
参考書	辻惟雄監修『日本美術史』、高階秀爾監修『西洋美術史』（共に美術出版社）、木村重信著『世界美術史』（朝日新聞社）			
学生への要望	授業支援システムを活用し、予習復習に努めること。 美術館、図書館に積極的に足を運び、自らの知見を広げること。			
オフィスタイム	月V・木V 創学館 No5研究室			
自学自習	予習：授業で扱う時代と地域について、参考書等でおおよそのイメージを掴んでおくこと。（1時間） 復習：授業支援システムに添付したパワーポイントの資料を確認し、ノートを整理する。（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	古代ギリシア美術	紀元前6世紀から紀元前1世紀までの神殿建築、彫刻、陶器画をスライド等で鑑賞し、その様式的変遷（幾何学、アルカイック、古典期、ヘレニスム）を理解する。
2	古典期様式のカノン	パルテノン神殿を中心に、建築用語（柱頭、ドーリア式、イオニア式、コリント式、破風など）を理解する。 黄金比の作図を行い、紀元前5世紀、古典期様式の美の規範を実感する。 神林恒道・新関伸也編著『西洋美術101鑑賞ガイドブック』より 3《ミロのヴィーナス》
3	ガンダーラ美術	幾つかの釈迦像をスライド等で確認し、ヘレニスム美術が西インドで仏教と融合し、仏像が制作された経緯を理解する。 更に、仏教美術と、偶像崇拜をタブーとするイスラム教の美術を比較する。
4	日本古代美術	神社建築（千木、茅葺、高床式、素木）と寺院建築（瓦葺、塔、堂宇）の違いを理解する。 古来の「さやかな美」に、6世紀の仏教伝来後は大陸的な美が加わった経緯を理解する。
5	日本仏像美術史	飛鳥、白鳳、天平、平安、鎌倉と変化した仏像の様式史を理解する。 百済観音、興福寺仏頭、阿修羅像、勝常寺薬師如来、および慶派の諸像。 神林恒道・新関伸也編著『日本美術101鑑賞ガイドブック』より 3《観音菩薩立像》
6	中世後期キリスト教美術	巡礼路沿いのロマネスク様式（アーチ、丸屋根、回廊）と都市のゴシック様式（尖塔、ステンド・グラス）の特徴を理解する。美術の主題となるイエスの生涯を絵画で確認する。
7	平安美術	遣唐使廃止後、急速に国風化した王朝美術を理解する。 ＜源氏物語絵巻＞、＜鳥獣戯画巻＞、重ねの色目、寝殿造など。
8	鎌倉・室町美術	建築（鎌倉五山、鹿苑寺・慈照寺）と水墨画（雪舟、雪村）を中心に、武士と禅宗の時代の美術を理解する。
9	初期ルネサンス	15世紀フィレンツェの美術（ウッチェロ、フラ・アンジェリコ、ポッティチェリなど）をスライド等で確認し、遠近法と解剖学的デッサンを極めた初期ルネサンスを理解する。 一点透視の作図を実習する。
10	盛期ルネサンス	16世紀初期の代表作（レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロなど）をスライド等で確認し、西洋絵画の歴史的頂点を理解する。
11	桃山美術	16世紀後半の絢爛豪華な美術をスライド等で確認し、南蛮文化を受容した戦国大名の美意識を理解する。
12	バロック・ロココ・新古典主義	17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ絵画史をスライド等で確認し、様式的変遷を理解する。
13	浮世絵とジャポニスム	江戸時代後期の浮世絵木版（歌麿、北斎、広重など）を鑑賞し、それらがフランスでジャポニスムを引き起こした経緯を理解する。
14	19世紀・20世紀美術	日本と欧米の交流が盛んになった時代の、東西の美術をスライド等で確認し、その新しい主義主張を理解する。
15	まとめ	様式の展開をふりかえり、日本と世界の重要作品の歴史的意義を整理する。

<b>科目名</b>	生涯学習概論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	佐久間 邦友			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 生涯学習の提唱や各種審議会答申、国、自治体の施策等を通じて、生涯学習の意義や必要性等を学ぶことが授業のねらいである。途中、学生個々人の学習を「考現学」の視点より考察することで、学生自身の生涯学習への示唆、そして向上をはかるものである。授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。また、現役の社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、講演会を開催する予定である。そして、生涯学習の理論や歴史的な変遷、法制度に関して理解し、自ら生涯学習に関するプログラムを開発することによって、生涯学習の意義や理念の認識に到達することが、通年の授業目標である。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>①「生涯学習」と「社会教育」について説明ができるようになったか。 ②生涯学習の意義と必要性を理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	社会教育主事・図書館司書・学芸員課程履修者 この科目の履修を希望する者	<b>成績評価 方法</b>	試験（50％）、レポート（30％）、授業参画度（20％）	
<b>教科書</b>	佐藤晴雄『生涯学習概論第1次改訂版』学陽書房 2016年 板野博行『大学生生活を極める55のヒント』大和書房 2015年			
<b>参考書</b>	佐藤晴雄『学習事業成功の秘訣！研修・講座のつくりかた』東洋館出版社 2013年 ※そのほか授業中に適宜紹介する。			
<b>学生への要望</b>	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 木曜Ⅱ限（10:30～12:00） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にkunitomo@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			
<b>自学自習</b>	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ（1時間）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 「学習」とは何か
2	生涯学習と社会教育（1）	1. 生涯学習と社会教育の関係 2. 生涯学習と生涯教育の定義 3. 生涯学習と一般行政
3	生涯学習と社会教育（2）	1. 社会教育の定義 2. 社会教育と成人教育 3. 社会教育と市民活動
4	生涯学習と社会教育の歴史（1）	1. 明治時代の社会教育 2. 大正時代の社会教育口 3. 昭和初期の社会教育～戦時期まで～
5	生涯学習と社会教育の歴史（2）	1. 戦後の社会教育 2. 社会教育法の大改正 3. 生涯学習の展開期
6	生涯教育論の登場	1. ユネスコの生涯教育論 2. OECDのリカレント教育
7	生涯学習と学校教育（1）	1. 生涯学習における学校教育と社会教育の位置 2. 生涯学習体系への移行
8	生涯学習と学校教育（2）	1. 生涯学習における学校教育の役割 2. 学校支援ボランティア 3. 学校支援地域本部事業
9	生涯学習の方法と内容（1）	1. 生涯学習の機会と形態 2. 生涯学習と社会教育の方法
10	生涯学習の方法と内容（2）	1. 生涯学習内容の分類 2. 学習事業における学習内容の状況 3. 学習内容の制約
11	学生生活と考現学	1. 考現学とは何か 2. 昔の学生生活 3. 今の学生生活
12	学生生活の今と昔（1）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
13	学生生活の今と昔（2）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
14	学生生活の今と昔（3）	1. テキストの輪読 2. 情報共有
15	学生生活の今と昔（4）	1. テキストの輪読 2. 情報共有 3. I期のまとめ
16	生涯学習と社会教育の計画	1. 生涯学習推進計画 2. 社会教育計画・生涯学習推進計画の種類 3. 社会教育計画と財政 4. 社会教育の経営と評価

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
17	学習プログラムの編成 (1) ①	1. 学習プログラム何か 2. 学習プログラムのタイプ
18	学習プログラムの編成 (2)	1. 学習プログラム編成の視点 2. 学習プログラムの作成
19	生涯学習関連行政の仕組み (1)	1. 社会教育行政とは何か 2. 社会教育行政の役割と組織 3. 社会教育関係団体と社会教育行政
20	生涯学習関連行政の仕組み (2)	1. 生涯学習関連行政の組織 2. 生涯学習推進体制 3. NPO関連事項
21	生涯学習と社会教育職員	1. 社会教育主事 2. その他の職員・指導者
22	生涯学習と社会教育施設 (1)	1. 社会教育施設 2. 社会教育施設と生涯学習関連施設
23	生涯学習と社会教育施設 (2)	1. 図書館とは 2. 図書館の現状と課題 3. 未来の図書館
24	生涯学習と社会教育施設 (3)	1. 博物館とは 2. 博物館の現状と課題 3. 未来の博物館
25	生涯各期の教育課題 (1)	1. 発達課題と生涯学習 2. 青少年教育
26	生涯各期の教育課題 (2)	1. 成人教育 2. 高齢者教育 3. 女性教育
27	生涯学習と社会教育をめぐる課題 (1)	1. 社会教育・生涯教育と学校との連携の推進 2. 社会教育行政の一般行政化の動向
28	生涯学習と社会教育をめぐる課題 (2)	1. 社会教育施設の市民施設化 2. 社会教育施設使用料の有料化 3. 社会教育施設の委託化・指定管理者制度
29	授業の確認テストと解説	1. 確認テスト 2. テストの解説
30	授業のまとめ	1. 授業の総まとめ

平成29年度

<b>科目名</b>	図書館概論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	和知 剛			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	図書館の社会的な役割りと総括的なシステムを学ぶ授業です 図書館や図書館を取り巻く類縁機関とのつながりを、法的根拠や社会組織の仕組みとともに俯瞰的に理解します			
<b>達成目標</b>	「図書館はなんのためにあるのか」という問いを自分で考える考え方や、民主主義を守る図書館の意義を学び、図書館について概略を得るのが目標です			
<b>受講資格</b>	文化学科の学生 科目等履修生	<b>成績評価 方法</b>	出席は学則規定による 必読文献の理解 40% 提出レポート 60%	
<b>教科書</b>	特定の教科書は定めませんが、授業の初回時に文献リストを配布します			
<b>参考書</b>	そのつど紹介します			
<b>学生への要望</b>	図書館の存在意義を知るには、図書館について書かれた文献を読むだけでは不十分です 図書館を取り巻く社会変化や市民意識、政治の判断や歴史認識など、図書館は社会と密接にかかわっています その理解のためにも、関連する文献を広く読むことが求められます			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日15時～17時 図書館2F 館長室 水曜日10時～16時 木曜日15時～17時			
<b>自学自習</b>	一覧表の参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	これから図書館のことを学ぶにあたって	二年間で図書館の何を学ぶのか 授業基準配布 説明 ミニット・ペーパー「図書館はなんのためにあるのか」提出
2	図書館の定義と意義	図書館の種類と役割 (国立図書館・公共図書館・大学図書館・学校図書館・専門図書館) 私設図書館 児童図書館
3	図書館の法律基盤	日本国憲法 教育基本法 社会教育法 図書館法 地方自治法 国、地方自治体、議会などとの図書館のつながり
4	連携する図書館と類縁機関	博物館(博物館・美術館・動物園・水族館・郷土資料館...) ) 文書館という記録組織
5	図書館の理念	「図書館の自由に関する宣言」 図書館員の倫理と「倫理綱領」 UNESCO図書館宣言
6	図書館という情報基地をつかう	映像資料「情報基地への招待ー図書館は世界へ開かれたまどー」鑑賞 解説 情報リテラシーの拠点 あらゆる情報ニーズに応える ネットワークで世界の図書館とつながっている 蔵書を探したず仕組み OPAC
7	学校図書館の制度と機能	学校図書館をめぐる諸問題 学校図書館と公共図書館とのネットワーク 市川市 映像資料「司書教諭の仕事」鑑賞 解説 UNESCO学校図書館宣言 映像資料「公共図書館による学校支援サービス」鑑賞 千葉県市川市中央図書館 市川市教育委員会教育センター
8	大学図書館の機能とネットワーク	文献検索 研究機能 学術情報システム 雑誌記事索引 大学図書館の連携
9	多様な図書館サービス	映像資料「多様な側面からとらえた図書館サービス」鑑賞 解説 情報技術 運営形態 連携協力 施設計画 岡山県立図書館 大阪府立中之島図書館 稲城市立中央図書館 千代田区立図書館
10	図書館をとりまくさまざまな組織や業界	出版 国際組織と全国規模の日本図書館協会 IFLA(国際図書館連盟)と各国の国立図書館 図書館にかかわる研究組織、実務研修組織 日本図書館情報学会
11	文字の歴史 記録の歴史	映像資料「Empire of the word Vol.1」鑑賞 解説 文字の起源 記録ということ 聖書の写本 古代の図書館
12	書写材料の歴史	映像資料「様々な書写材料」鑑賞 解説 書写材料(パピルス・羊皮紙・紙) 活版印刷の発明
13	活版印刷という発明 活版印刷の終焉	映像資料「東西印刷技術のあけぼの」鑑賞 解説 ゲーテンベルグ 印刷とワインの意外な関係 江戸の印刷本 江戸時代の書物と出版



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	情報の達人	映像資料「レポート 論文の書きかた」鑑賞 解説 配布資料「レポートを書くための10のステップ」解説 図書館の資料を探す ルースリーフを使う B6カードを使う
15	これからの図書館を考える	映像資料「図書館はどう変わるか」鑑賞 解説 討論 書物の文化史 電子図書館 図書館と書物の未来

平成29年度

<b>科目名</b>	図書館情報技術論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	和知 剛			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	司書は、情報技術を活用する能力だけでなく、その仕組みをある程度理解して、近い将来に向けた予測できない急速な技術の変化にも対応していかなければならない ただその根底には、より迅速に資料と利用者を結びつける基本があることはいまでもない どのような具体的な技術をつかってその基本をおこなうのかについて学ぶ			
<b>達成目標</b>	情報検索、取得、発信の技術の大枠を学び、検索技術をこなせるようになることが目標である			
<b>受講資格</b>	文化学科の学生 科目等履修生	<b>成績評価 方法</b>	出欠学則による 課題提出 50% 発表 50%	
<b>教科書</b>	とくに定めない			
<b>参考書</b>	授業初回時またはその都度紹介する			
<b>学生への要望</b>	PCの扱いに熟練すること 検索サイトを数多く知ること 信用できるサイトがどうかを知ること			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日15時—17時 木曜日15時—17時 図書館2F 館長室			
<b>自学自習</b>	一覧された参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	図書館が扱う情報技術とは	情報を集めるには技術が必要だということ 司書はその技術を使いこなせないといけないということ ここ20年間で移り変わった技術の変化
2	最新の情報技術と図書館	図書館と情報技術 図書館の新しい「三種の神器」 ネットワーク情報資源へのアクセス技術
3	インターネットと図書館	インターネットの大衆化 インターネットの基礎知識
4	使ってみようインターネット①	国立国会図書館のHPへアクセス 合衆国議会図書館HPへアクセス NYPLのHPへアクセス
5	使ってみようインターネット②	福島県立図書館HPへアクセス 郡山市中央図書館へアクセス 一番よく利用する公共図書館へアクセス
6	使ってみようインターネット③	いくつかの大学図書館HPへアクセス 専門図書館のHPへアクセス
7	図書館業務システムの仕組み①	新しいシステム：選書、受け入れ、支払、目録、貸し出し、返却、蔵書点検、廃棄 のサイクル
8	図書館業務システムの仕組み②	従来のシステム：選書、受け入れ、支払、目録、貸し出し、返却、蔵書点検、廃棄 のサイクル
9	図書館の目録とは	目録とはどういうものか 映像資料「図書館の目録」鑑賞 解説 NCR 日本目録規則について
10	図書館の分類とは	分類という考えかた 分類という発想 NDC 日本十進分類法の解説
11	書誌コントロール	書誌となにか 書誌事項 世界書誌とその検索 国内外のさまざまな目録にアクセスする 書誌ユーティリティ
12	調べてみよう①	調べたいテーマを見つける そのテーマに関する本や雑誌論文、新聞の記事を検索する
13	調べてみよう②	入手できる範囲の文献を読み自分のPCに取り入れる パワーポイントをつくる
14	発表しよう①	調べてまとめたテーマを発表① 全員で講評
15	発表しよう②	調べてまとめたテーマを発表② 全員で講評 授業のまとめ

平成29年度

<b>科目名</b>	図書館制度・経営論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	和知 剛			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	経営という観点から図書館という組織を理解します 経営理論ではなく、評価の高い公共図書館のサービス活動を支えるその基盤を知ること、図書館の制度や経営について理解を得ます			
<b>達成目標</b>	経営という観点から図書館をどうとらえるのが目標です 公の組織である図書館がどのような経営理念に基づいて運営されているのかを納得するのも目標です			
<b>受講資格</b>	文化学科の学生 科目等履修生	<b>成績評価 方法</b>	出欠は学則規定による レジュメ 発表内容 40% 発言 貢献度 60%	
<b>教科書</b>	菅谷明子著『未来をつくる図書館』岩波新書			
<b>参考書</b>	授業時に紹介			
<b>学生への要望</b>	テキストを決めて輪読します 担当箇所を読み、内容を要約し、レジュメをつくり、発表をします 文章の内容把握力とプレゼンテーション力も訓練されます 各発表ごとに質疑応答と発言が求められます			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日15時—17時 水曜日10時—17時 木曜日15時—17時 図書館2F 館長室			
<b>自学自習</b>	テキストは講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 テキストに記載された用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	演習形式についての説明	テキストの各担当部分の割り当て 担当箇所ので不明な固有名詞などを必ず調べる 段落ごとに理解する レジュメの書きかた 発表というプレゼンテーションの基本について
2	発表形式授業 ①	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
3	発表形式授業 ②	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
4	発表形式授業 ③	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
5	発表形式授業 ④	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
6	発表形式授業 ⑤	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
7	発表形式授業 ⑥	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
8	発表形式授業 ⑦	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
9	発表形式授業 ⑧	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
10	発表形式授業 ⑨	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
11	発表形式授業 ⑩	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
12	発表形式授業 ⑪	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
13	発表形式授業 ⑫	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
14	発表形式授業 ⑬	発表者2名 質疑応答 ミニ討論 教員からの講評 補足説明
15	発表形式授業 ⑭ 議論・ 討論	全体のまとめ 日本の公共図書館とNYPLとのサービスの違いと、そのサービスを成り立たせている制度と経営理念の差 日本の公共図書館は、なぜNYPLのような公共図書館に発展しないのか 誰が何を行うべきなのか

科目名	図書館サービス概論		対象 単位数 必選	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
担当教員	二宮 和比古			
開講期	II			
授業概要	図書館がおこなっている伝統的なサービスは、あらたなニーズによって展開が求められている 既存のサービス内容を学んでいるだけでは不十分である 図書館に何が出来るかよりも、利用者がどのようなサービスを望んでいるかを知る動的な展開が必要である その基本的な知識と将来のサービスを展望できる考えかたを学ぶ授業です			
達成目標	図書館がおこなっている既存のサービスとともに、図書館という社会の記憶装置と市民とを結ぶあらたな展開を発想させる知識をえる 文化学科1年・2年			
受講資格		成績評価 方法	出欠は学則による 発表30% 討論参加度30% レポート40%	
教科書	とくに定めない			
参考書	そのつど紹介			
学生への要望	頻りに図書館を利用すること 図書館を利用しサービスを受けている人をよく見ること 事前学習：JLAテキストシリーズ「図書館サービス概論」の該当箇所を読み確認しておくこと（1時間） 事後学習：講義で話された固有名詞や用語を調べノートに記載しておくこと（1時間）			
オフィスタイム	月・木 午後 図書館2F 館長室			
自学自習	一覧された参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	図書館の機能と図書館サービス	図書館はサービス機関である、という前提について 図書館がおこなう人的・物的な社会的な業務は、サービスというキーワードの枠内に含まれる 伝統的なサービスと、それを基盤にした図書館の業務
2	図書館サービスの種類	公共図書館がおこなうサービスの種類と役わり 大学図書館がおこなうサービスの種類と役わり 専門図書館がおこなうサービスの種類と役わり 学校図書館がおこなうサービスの種類と役わり 国立図書館・県立図書館のサービスの種類と範囲
3	図書館サービスはどのような役わりをはたしているのか	教育的な役わり 文化的な役わり 地域情報コントロールの役わり 余暇的な役わり 図書館という公共の「場」としての役わり
4	「図書館法」による図書館奉仕の規定	提供すべきサービスについての法の提示 地域資料の収集 地方行政資料の収集 視聴覚資料の収集、その分類と目録の整備 他の図書館との連携と協力 読書会・研究会・鑑賞会・映画会・展示会などの主催と奨励 学校・博物館・公民館・研究所などの連携
5	図書館サービスとネットワーク	複数の図書館で構成するネットワーク 市川市図書館の学校図書館とのネットワーク 分館とのネットワーク 図書館以外の他の機関とのネットワーク（社会教育施設・関連する公共施設・地域文庫活動団体・老人ホーム・病院・刑務所）
6	映像資料	「広がる図書館連携」鑑賞 解説と補足説明
7	図書館サービスの基準とクオリティ	「公共図書館の設置及び運営上の望ましい基準」解説 「ユネスコ公共図書館宣言」解説 英国とアメリカ合衆国との図書館基準を解説
8	利用促進のための、サービス空間の整備	図書館建築 幼児から老人までのサービス空間 障害をもつ人へのサービス空間 フロア構成 書架配置 図書館家具の選択 排架の原理と工夫 児童室の工夫 サインシステム
9	来館者へのサービス	駐車場 駐輪場 雨具の処理 車椅子での利用空間の保障 障害をもつ人への利用の保障 外国人への利用の保障 図書館スタッフの共通確認と研修
10	多文化サービス	異なる民族、言語、文化的背景をもった利用者へのサービスについて IFLA「多文化コミュニティ：図書館サービスのためのガイドライン」の説明と解説 映像資料「多文化サービス」鑑賞 解説
11	サービスの構造 1	資料提供サービス 閲覧サービス 貸し出しサービス

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	サービスの構造 2	リクエスト・サービス 図書館間相互貸借 団体貸し出し 複写サービスと著作権 利用者のプライバシーへの配慮 利用者からの相談 読書案内
13	レファレンス・サービス	映像資料「暮らしに役立つレファレンス」鑑賞 解説
14	レファレンス・サービス 2	レファレンス業務の展開について 人的援助と物的援助 レファレンス資料の整備と使いこなし 映像資料「レファレンス」鑑賞 解説
15	利用者との交流	利用者とモラル 円滑なコミュニケーション 利用案内資料について 利用者の利用目的に応じた支援のための、利用ニーズの把握 図書館サービスまとめ

平成29年度

<b>科目名</b>	情報サービス論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	二宮 和比古		
<b>開講期</b>	IV		
<b>授業概要</b>	図書館がおこなう情報サービスについて、その基盤となる考えかたと情報提供のプロセスについて学びます とくに、情報の社会記憶装置として図書館が担う役わりの理解を深めたい 情報は増え続ける。情報は細分化されその情報同士がリンクしあう仕組みの理解を学ぶ。		
<b>達成目標</b>	情報を蓄積しつつ取り出し利用するシステムである図書館は、今後どのような変容と決断を求められるのであろうか 図書館の核をなすレファレンス・サービスの実践をふまえながら、図書館がおこなう情報サービスをとらえるのが目標です		
<b>受講資格</b>	文化学科 2年	<b>成績評価 方法</b>	出欠は学則による 課題発表40% 文献調査40% プレゼンテーション20%
<b>教科書</b>	とくに指定なし		
<b>参考書</b>	文献リストを配布 授業時に指示		
<b>学生への要望</b>	「情報サービス演習」につながる基礎講義です レファレンス・サービスの実践例を数多く知り、課題の発表を豊かにしてください 事前学習：「図書館雑誌」各号に掲載のレファレンス事例を読み、実践例を多く知ること 事後学習：授業で紹介されたレファレンス事例について、参考された文献や辞書類の項目を確認する		
<b>オフィスタイム</b>	月曜、水曜、木曜 10:00-16:00 図書館2F 館長室		
<b>自学自習</b>	一覧された参考文献またレファレンス・ブックは講義前に読み目を通しておくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	情報とは何か 1	情報とは何かを「情報」ということばから考える 考えた内容を自分のことばでまとめる

平成29年度

<b>科目名</b>	児童サービス論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	二宮 和比古		
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	公共図書館の重要なサービスである子どもへのサービスについて、理論とともに図書館員の基礎的な知識を学びます 絵本・外国の児童文学・日本の児童文学を読んで提出する課題がだされます。		
<b>達成目標</b>	子どもへの図書館サービスの基本、子どもを対象にした本を知る、子どもについて知るの3項目を理解するのが目標です		
<b>受講資格</b>	文化学科学生 科目等履修生	<b>成績評価 方法</b>	出欠は学則による 発表 50% 課題提出 50%
<b>教科書</b>	授業初回時にリスト一覧配布		
<b>参考書</b>	授業初回時にリスト一覧配布		
<b>学生への要望</b>	期限までの課題提出は必須です		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日15時～17時 木曜日15時～17時 図書館2F 館長室		
<b>自学自習</b>	一覧表の参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	シラバス配布 授業内容の説明	子どもと本を考える参考書のリスト配布 こ科目で提出する課題の説明 各自の絵本の記憶をたどる

平成29年度

<b>科目名</b>	情報サービス演習		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	和知 剛			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	PDCAサイクルに倣って、情報サービスの各種の業務における設計から評価までを考える能力、利用者の質問に対する適切かつ柔軟なレファレンスサービスと情報検索サービスの適用が可能な能力、そして積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を養成する。 また図書館における種々の情報サービスについて設計・展開・評価を、それぞれ実際の業務に近い形で実習し、学生が相互にそのプロセスと結果に評価を加える。			
<b>達成目標</b>	この演習を学ぶことにより、図書館業務において情報サービスを行うことが可能な知識と能力を身につけることを目標とする。			
<b>受講資格</b>	文化学科図書館司書課程を受講している学生	<b>成績評価 方法</b>	レポート6割、期末試験4割で評価します。	
<b>教科書</b>	プリントをその都度配布します			
<b>参考書</b>	あらかじめ レファレンス協同データベース <a href="http://crd.ndl.go.jp/reference/">http://crd.ndl.go.jp/reference/</a> 等を見ておくように。			
<b>学生への要望</b>	技術と能力を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
<b>オフィスタイム</b>	普段は大学図書館にあります。月曜-金曜 8:30-17:05			
<b>自学自習</b>	日頃より図書館情報学以外の幅広い分野に興味関心を持ち、図書館における情報サービスの展開に必要な知識を習得することにより、積極的に学びたい。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	情報サービス演習の目的と概要	当演習の目的と概要を説明する。



平成29年度

<b>科目名</b>	図書館情報資源概論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	二宮 和比古		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	図書館の基盤としての蔵書構築にかかわる印刷資料・非印刷資料について、今後増大していくであろうデジタル情報資料の普及といった、情報環境の変化を見とおしていく授業です		
<b>達成目標</b>	今後新たに展開していくであろう情報資料の普及と拡大といった、情報記録媒体へ変化に対応していける基本の考え方を得る		
<b>受講資格</b>	文化学科1年	<b>成績評価 方法</b>	出欠は学則による レポート50% 総合評価50%
<b>教科書</b>	とくに定めない		
<b>参考書</b>	配布資料あり		
<b>学生への要望</b>	とかくウェブ上でのデジタル情報に手をだしがちであるが、基本となる印刷資料をまず押さえてほしい 事前学習：JLA「図書館情報資源概論」の該当箇所を読み、理解しておくこと 事後学習：Web. 情報でなく、まず先にレファレンス文献にあたり、用語理解を確実にしておくこと（		
<b>オフィスタイム</b>	月・木 10時～16時 図書館2F 館長室		
<b>自学自習</b>	一覧された参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	図書館と情報資源 1	公共図書館が扱う情報資源とは何か 類型化による区分：形態別（印刷資料と非印刷資料） 記録媒体別による区分：紙資料と非紙資料 Web情報 地域情報

平成29年度

<b>科目名</b>	情報資源組織論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	二宮 和比古		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	多様な情報は個別の記録媒体に分散している 図書館は、その記録されている情報をいかに迅速に、また的確に提供していくことが求められる それには、情報を組織して検索が容易なように整えておく必要がある 大きくは、分類と目録がそのための基幹業務として重要になる 分類と目録という情報資源組織の方法を柱にしつつ、多様に発展している記録媒体にたいして、今後どう情報を組織していくのかについても考えたい		
<b>達成目標</b>	分類と目録につて、実務としての具体的な理解を得ることが目標です		
<b>受講資格</b>	文化学科1年	<b>成績評価 方法</b>	出欠は学則による 課題40% 総合40% ミニテスト20%
<b>教科書</b>	とくに定めない		
<b>参考書</b>	授業内で指示する		
<b>学生への要望</b>	既存の図書館業務の枠だけでは対応しきれないほど「組織していく実務」は変化しているが、まずは、分類と目録という基盤の業務に精通していなくては、新たな対応が難しい 分類法・目録法の基本を理解してほしい 事前学習：JLAテキスト「情報資源組織論」の該当箇所を読んで理解しておくこと 事後学習：授業で示された分類番号については、NDCで確認しておくこと（1時間）		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日、木曜日 10時～17時 図書館2F 館長室		
<b>自学自習</b>	一覧表の参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	情報資源とは何か	情報資源の定義 情報資源の種類 記録される情報資源

平成29年度

<b>科目名</b>	情報資源組織演習		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択/短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	和知 剛			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	日本でもっとも利用されている、情報資源を組織化するためのツールである『日本十進分類法』、『日本目録規則』、『基本件名標目表』を中心に、国立情報学研究所のNACSIS-CATや国立国会図書館件名標目表、基本的なメタデータの記述規則であるDublin Core等も交えつつ、情報資源の組織化の実際を学び、受講生がこれらのツールを用いて図書館目録の整理を行うに必要な知識と技術を習得する。			
<b>達成目標</b>	図書館利用者がその検索結果を以って、十分な図書館利用を可能にする目録の提供が可能な技術の習得を目標とする。			
<b>受講資格</b>	文化学科図書館司書課程を受講している学生	<b>成績評価 方法</b>	レポート6割、期末試験4割で評価します。	
<b>教科書</b>	プリントをその都度配布します			
<b>参考書</b>	『日本十進分類法』新訂9版・新訂10版 『日本目録規則』1987年版改訂3版 他			
<b>学生への要望</b>	技術を習得する演習です。受講生の無断欠席は演習を受講する意志がないものとみなすことがあります。			
<b>オフィスタイム</b>	普段は大学図書館にあります。月曜-金曜 8:30-17:05			
<b>自学自習</b>	図書館の検索システムや機関リポジトリの検索システムになじんでおくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	情報資源組織論演習の目的と概要について	自己紹介。演習の目的と1年間の概要を説明する。

平成29年度

<b>科目名</b>	図書館基礎特論		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	二宮 和比古			
<b>開講期</b>	IV			
<b>授業概要</b>	図書館という社会の記憶装置について、今までに学んだ知識の理解をより深める内容です			
<b>達成目標</b>	図書館についてより理解を深めるために、調べ学習と発表とにより議論し、図書館の基礎について理解を深めるのが目標です			
<b>受講資格</b>	文化学科2年	<b>成績評価 方法</b>	出欠は学則による レポート50% 総合評価50%	
<b>教科書</b>	授業時に紹介			
<b>参考書</b>	配布資料あり			
<b>学生への要望</b>	理論的な理解だけでなく、実践的な利用につなげた理解を期待しております			
<b>オフィスタイム</b>	月・木 10時～16時 図書館2F 館長室			
<b>自学自習</b>	一覧された参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	図書館基礎特論と図書館情報資源特論で深める図書館への理解	図書館基礎特論7回の授業方法について 図書館情報資源特論8回の授業方法について テーマを決めて、検索して調べ、まとめて発表するプロセスの説明

平成29年度

<b>科目名</b>	図書館情報資源特論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 文化学科 2年 1単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	二宮 和比古		
<b>開講期</b>	IV		
<b>授業概要</b>	利用者の質問に資料を駆使して答える現場のプロセスを、この授業で実践します		
<b>達成目標</b>	図書館に関する概論的な知識を踏まえ、より踏み込んだ実践的な力をつけるのが目標です		
<b>受講資格</b>	文化学科2年	<b>成績評価 方法</b>	出欠は学則による 発表50% 総合評価50%
<b>教科書</b>	とくに指定しません		
<b>参考書</b>	今までの図書館情報学の授業であげた文献が参考になります		
<b>学生への要望</b>	書誌や索引といった二次資料を使いこなせることが重要です。 授業であなたのプレゼンテーションを聞いているのは利用者だと思ってください。		
<b>オフィスタイム</b>	月、木の午後 図書館2F 館長室		
<b>自学自習</b>	一覧された参考文献は講義前に読んでおくこと 1～2時間程度 講義で使われた用語や固有名詞は、次回の講義までに調べて理解しておくこと 30～1時間程度		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	中間発表後の進展	現段階で、何が問題となっているかを各自発表 問題点解決のための指摘